2018年度

# 学生便覧 神田外語大学

■英 米 語 学 科
■アジア言語学科
■イベロアメリカ言語学科
■国際コミュニケーション学科

# 注意事項

◆掲示板の確認について

学生に対する通知・連絡は、特別な場合を除いてすべて掲示によって行います。確認しないでいると不都合が生じることがありますので、必ずKUIS Campus Webや学内の各種掲示板を見る習慣をつけてください。掲示した事柄は、周知されたものとして扱われるので注意してください。

◆提出期限の厳守について

履修登録表等の提出期限、取り扱い時間は厳守してください。

◆電話による問い合わせについて

履修、休講、試験、学年暦等に関する事柄は、掲示板か関係窓口で直接確認してください。電話による問い合わせは、間違いの原因となるため一切応じられません。

◆呼び出し

大学では原則として、掲示により学生に連絡を取ることになっています。授業等に支障をきたすことから、直接電話口への取次ぎや放送連絡には応じられませんので、あらかじめよく了解し、家族や知人などに周知しておいてください。

◆事務の取り扱い時間・開室時間

窓口の受付時間などは次の通りです。受付時間外の申し出には一切応じられませんので注意してください。
※に関しては試験期間中､長期休業期間中などは､開室時間が変更になることがあります。

| | 総務部<br>(学費・施設に関する事等)<br>1号館2階 | 教務部（教務課、国際交流課、学生課）<br>(授業、留学、奨学金などに関する事)<br>1号館1階 | キャリア教育センター<br>(就職・進路に関する事)<br>ミレニアムハウス2階 |
|---|---|---|---|
| 平日 | 8：30～17：15 | 9：00～11：10<br>12：10～17：15 | 9：00～17：15 |
| 土曜 | 8：30～11：30 | 9：00～11：30 | 9：00～11：30 |

| | 図書館※<br>(図書館の利用に関する事)<br>7号館1階 | メディアプラザ※<br>(メディア利用に関する事)<br>6号館1階 | SALC※<br>(英語と自立学習に関する事)<br>8号館 | MULC※<br>(MULCの利用に関する事)<br>7号館2階 |
|---|---|---|---|---|
| 平日 | 9：00～19：50 | 8：45～19：00 | 8：45～19：00 | 9：00～19：00 |
| 土曜 | 9：00～17：00 | 9：00～17：00 | 9：00～17：00 | |

| | メディカルセンター<br>(健康に関する事、心や身体の悩み相談)<br>ミレニアムハウス1階 | 体育・スポーツセンター<br>(スポーツに関する事)<br>体育館 |
|---|---|---|
| 平日 | 9：00～11：10<br>12：10～17：15 | 9：00～17：15<br>授業期間以外は17：00まで |
| 土曜 | 9：00～11：30 | 取り扱いなし |

# 目　　次


Ⅰ　学籍について …… 1
　1．修業年限と在学年限
　2．休　学
　3．復　学
　4．退　学
　5．除　籍
　6．留　学
　7．転籍（転科・転専攻）
　8．再入学
Ⅱ　授業について …… 3
　1．授業期間
　2．授業時間
　3．休　講
　4．補　講
　5．出席基準について
　6．遅刻／早退の取り扱い
　7．欠席の取り扱い
Ⅲ　卒業の要件 …… 7
　1．外国語学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）
　2．卒業要件
　3．学　位
　4．卒業発表
　5．９月卒業
Ⅳ　進級基準について ……11
Ⅴ　単位と時間数 ……17
Ⅵ　履修登録単位数の上限・「卒業見込証明書」の発行 ……18
　1．各学年における履修登録単位数の上限について
　2．「卒業見込証明書」の発行について
Ⅶ　授業科目について
　【学科・専攻別カリキュラム表】 ……19
　1．外国語学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針） ……31
　2．履修上の注意 ……31
　3．科目ナンバリングについて ……32
　4．授業科目の紹介 ……32
　　⑴　外国語科目 ……32
　　⑵　選択外国語科目 ……35
　　⑶　特別演習科目（国際コミュニケーション学科のみ） ……38
　　⑷　導入科目・教養科目 ……40

(5) 研究科目 ……43
【研究コース履修要項】 ……48
(6) 研究演習 ……71
(7) 卒業研究 ……71
(8) 教職科目 ……71
(9) 自由選択科目 ……71
Ⅷ 試験及び学力評価について ……79
1．試　験
2．学力の評価
3．GPA
4．成績確認制度
5．２年次、３年次への進級再試験（アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科）
6．卒業再試験
7．教職科目再試験
8．選択外国語科目再試験
Ⅸ 他大学及び他機関で修得した単位の認定等について ……85
1．単位の認定
2．必修単位の履修免除制度
3．千葉県内の他大学の授業科目の認定について
4．入学前修得単位の認定について
Ⅹ 海外留学について ……86
1．認定留学制度について
2．海外短期研修について
3．海外留学に関する情報について
Ⅺ 国内留学について ……88
Ⅻ 転籍（転科・転専攻）について ……89
ⅩⅢ 学内ネットワーク、コンピュータの利用について ……92
1．学内IT設備について
2．学内システムの利用
3．大学ネットワーク利用にあたっての注意点
4．その他
ⅩⅣ 教職課程履修要項 ……97
ⅩⅤ 小学校教諭免許取得支援課程履修要項 ……118
ⅩⅥ 日本語教員養成課程履修要項 ……119
ⅩⅦ 児童英語教員養成課程履修要項 ……122
ⅩⅧ 英米語学科通訳・翻訳課程履修要項 ……123
ⅩⅨ Certificate Program in Japan Studies履修要項 ……124
ⅩⅩ 大学院言語科学研究科の概要 ……125

# Ⅰ　学籍について



## 1．修業年限と在学年限

1）修業年限

4年間

本学の教育課程を修了するために必要な期間です。

ただし、3年次編入生の場合は2年間、2年次編入生の場合は3年間です。

2）在学年限

8年間

本学において学生の身分を有している期間で、休学・停学の期間を除きます。

ただし、1年次及び2年次の在学はそれぞれ2年を越えることができません。また、3年次編入生の場合は4年間、2年次編入生の場合は6年間在学することができます。

## 2．休　学

病気その他やむを得ない理由で1学期間（半年）以上に渡り修学することができない者は休学することができます。保証人と十分相談のうえ、申し出てください。

1）休学期間

① 1学期間（半年）あるいは全学期間（1年）

② 特別な理由がある場合は、改めて許可を得た上でさらに3年を限度として延長可

③ 通算して4年を超えることはできない

2）学費一部免除

① 対象：学年の1学期間あるいは全学期間を通じて休学する者

② 免除額：授業料及び施設設備費

ただし、以下の経費の納入が必要です。

| | 1学期間 | 全学期間 |
|---|---|---|
| 在　籍　料 | 5万円 | 10万円 |
| 学　友　会　費 | 5千円 | |
| いしずゑ会費 | 1万円 | |
| 学外宿泊キャンプ費 | 1万円 | |

③ 手続き締め切り：前期は3月末日、後期は8月末日（学生課）

※これを過ぎると休学は認められません

3）必要なもの

① 休学願

② 誓約書

③ （病気の場合）診断書

④ その他

## 3．復　学

休学していた者で復学する者は、復学の手続きが必要です。

1）必要なもの

① 復学願

② 復学年度の学費の納入（分納もしくは全納）

③ （休学理由が病気の場合）診断書

2）復学願提出期限

復学の１ヶ月前（学生課）

**4．退　学**

病気その他やむを得ない理由によって退学を希望する場合は、保証人と十分相談のうえ、申し出てください。

1）必要なもの

① 退学願

保証人連署・捺印

② 学生証

③ 通学証明書

2）退学願提出期限

速やかに提出のこと（学生課）

**5．除　籍**

次のいずれかに該当する者は、除籍される場合があります。

① 在学年限を越える者

② 休学期間を越えても、なお復学もしくは退学しない者

③ 学費納入の義務を怠った者

※除籍された場合、本学での在籍の証明が一切できません。（在籍期間証明書・成績証明書等の発行はできません）

※学則第３条の定めにより、留年は１年次、２年次についてはそれぞれ１回限りとします。２回目の留年をすると除籍となるので、注意してください。

**6．留　学**

本学留学制度を利用し「在学」扱いで留学する場合、その留学期間を修業年限および在学年限に算入します。（国際交流課）

（「Ⅹ 海外留学について」、「Ⅺ 国内留学について」、およびKUIS Campus Web国際交流情報を参照のこと。

**7．転籍（転科・転専攻）**

転籍（転科・転専攻）を希望する者は、所定の期日までに手続きをしてください。（教務課）

（「Ⅻ 転籍（転科・転専攻）について」を参照のこと）

**8．再入学**

1）対象者

本学を退学した者で、退学年度を含めて３学年度以内の者（出願時）

2）再入学先

退学時に在籍していた学科

3）入学年次

原則として退学時の年次としますが、既修得単位が進級基準を充たしている場合は、進級年次に再入学できることもあります。

# Ⅱ　授業について



## 1．授業期間

本学での授業は、原則として前期15週、後期15週の２学期制をとっています。

## 2．授業時間

本学における授業時間は次の通りです。

| | |
|---|---|
| １限目 | 9 ：00～10：30 |
| ２限目 | 10：40～12：10 |
| 昼休み　60分 | |
| ３限目 | 13：10～14：40 |
| ４限目 | 14：50～16：20 |
| ５限目 | 16：30～18：00 |

## 3．休　講

１）授業が教員の都合や大学の行事などにより休講になる場合

教務課掲示板・KUIS Campus Webに掲示します。

２）全学休講になる場合

次のいずれかに該当する場合、授業を全学休講とします。

A．交通機関が運休した場合

B．暴風警報または暴風雪警報が発令された場合

C．自然災害や大規模な事故の発生などで学長が必要と判断した場合

### A．交通機関が運休した場合

判断基準とする路線及び区間（遅延・間引き運転を除く）

・JR総武線（秋葉原～千葉）

・JR京葉線（東京～蘇我）

上記の両路線が運休した場合は休講とします。ただし、いずれかの路線が運行している場合は、その限りではありません。

また、両路線のうち、１路線でも運行を開始した場合は、次の通りとします。

・午前６時00分までに運行開始の場合は、１限から平常通り

・午前10時00分までに運行開始の場合は、３限から平常通り

・午前10時00分を過ぎても不通の場合は、全時限休講とします。

### B．暴風警報または暴風雪警報が発令された場合

千葉県全域もしくは千葉県**北西部**に出された場合は、休講とします。なお、対象となる警報は上記の２つに限り、大雨警報等は含まないので注意して下さい。ただし、警報が解除された場合の授業の取り扱いは、次の通りとします。

・午前６時00分までに解除の場合１限から平常通り

・午前10時00分までに解除の場合は、３限から平常通り

・午前10時00分を過ぎても解除されなかった場合は、全時限休講とします。

上記AまたはBの場合、大学の電話回線は緊急対応専用としますので、学生諸君は大学へ電話で問い合わせはせず、以下の本学ホームページで確認してください。
http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/

C．自然災害や大規模な事故の発生などで学長が必要と判断した場合

上記AまたはBに該当しない場合でも、大規模な自然災害や事故等が発生した場合、これらの取り決めに関わらず、学長が休講を必要と判断した場合には、休講措置をとることがあります。

【注意】

・授業最終週に上記の措置が講じられた場合は、定期試験の取り扱いについては別途掲示等で連絡します。
・上記交通機関または地域以外で不通・暴風警報等の影響を受けた学生は、科目担当教員に、遅延証明等を提示した上で、その旨を申し出て下さい。

4．補　講

授業が休講になった場合、補講を行う場合があります。掲示等で連絡するので注意してください。

5．出席基準について

神田外語大学が開講するすべての科目について、授業回数の３分の１以上の欠席で、「不合格」とします（例：週１コマの授業＝５回欠席で不合格、週２コマの授業＝10回欠席で不合格）。ただし、理由のある欠席と認められた者については、例外的に授業回数の５分の２以下の欠席であれば、単位の認定対象となる場合があります。

なお、各教員または各学科の運営方針が上記と異なる基準を設け、遅刻・欠席回数の成績への反映について規定し学生に伝える場合は、それに従うこととします。

※この参照基準は３分の１に達するまで欠席して良いということではありません。

6．遅刻／早退の取り扱い

授業開始後／終了前20分以内に出席／退席した場合は、遅刻／早退として取り扱います。

なお、遅刻／早退３回で欠席１回とカウントします。

7．欠席の取り扱い

授業においては毎回の出席が要求されますが、授業を欠席する（した）場合は、すみやかに授業時に直接担当教員に欠席理由等を連絡してください。ただし欠席の理由によっては「公欠」「理由のある欠席」として取り扱われることがあります。

公欠：次の場合に限って、所定の手続きを経ることで欠席回数から除外します。

⑴　学校感染症による出席停止
⑵　裁判員制度による欠席

学校感染症の種類と出席停止の基準（学校保健安全法施行規則第18条、第19条による）

<table>
<tr><th>種別</th><th colspan="2">疾　　患　　名</th><th>出席停止の基準</th></tr>
<tr><td rowspan="2">第１種</td><td colspan="2">エボラ出血熱<br>クリミア・コンゴ出血熱<br>痘そう<br>南米出血熱<br>ペスト<br>マールブルグ病<br>ラッサ熱<br>急性灰白髄炎（ポリオ）<br>ジフテリア<br>重症急性呼吸器症候群（ＳＡＲＳコロナウイルス）<br>鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）</td><td rowspan="2">治癒するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">新型インフルエンザ等感染症<br>指定感染症<br>新感染症</td></tr>
<tr><td rowspan="9">第２種</td><td colspan="2">インフルエンザ<br>（鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）除く）</td><td>発症後５日を経過し、かつ、解熱後２日を経過するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">百日咳</td><td>特有の咳が消失するまで又は５日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">麻疹（はしか）</td><td>解熱後３日を経過するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）</td><td>耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹発現後５日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">風疹</td><td>発しんが消失するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">水痘（水ぼうそう）</td><td>すべての発しんが痂皮化するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">咽頭結膜熱（プール熱）</td><td>主要症状消退後２日を経過するまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">結核</td><td>医師が感染のおそれがないと認めるまで</td></tr>
<tr><td colspan="2">髄膜炎菌性髄膜炎</td><td>医師が感染のおそれがないと認めるまで</td></tr>
<tr><td rowspan="2">第３種</td><td colspan="2">コレラ<br>細菌性赤痢<br>腸管出血性大腸菌感染症<br>腸チフス<br>パラチフス<br>流行性角結膜炎<br>急性出血性結膜炎</td><td rowspan="2">医師が感染のおそれがないと認めるまで</td></tr>
<tr><td>【その他の感染症】<br>・溶連菌感染症<br>・ウイルス性肝炎<br>・マイコプラズマ感染症<br>・流行性嘔吐下痢症（感染性胃腸炎）<br>　など</td><td>※条件によっては出席停止となる</td></tr>
</table>

※第３種【その他の感染症】は、条件によっては出席停止となります。受診した医師へ確認してください。

1）「公欠」 学校感染症に罹患した場合

医療機関で、学校感染症と診断された場合は、その時点で**「出席停止」**となります。診断後速やかにメディカルセンターへ電話連絡し、治療に専念してください。（学校感染症の種類は、前ページの表を参照）

登校の際には、医師が記載した**「登校許可書」**をメディカルセンターへ提出してください。以上の手続きを行った場合に限り、欠席扱いとはなりません。

※　**KUIS登校許可書**は、以下よりダウンロードできます。

KUIS Campus Web→キャビネット→各部署情報→メディカルセンター→KUIS登校許可書

KUIS HP→施設案内→５号館（ミレニアムハウス）→メディカルセンター→KUIS登校許可書

2）「公欠」 裁判員制度による欠席

| | |
|---|---|
| 必要となる証明書 | 出頭命令書 |
| 証明書の発行者 | 裁判所 |
| 証明書の教員への提出時期 | 裁判員候補者として選任手続きの期日に出頭した場合：選任手続き期日後１週間以内<br>裁判員、補充裁判員として職務に従事した場合：公判終了後１週間以内 |

**理由のある欠席**：以下の場合に限って、証明書等（注１）を各授業の担当教員に提出し、教員が認めた場合には、理由のある欠席として認められます。

⑴　学校感染症以外の病気や怪我（自宅療養は含まない）
⑵　忌引き（三親等以内の通夜と葬儀。法事は含まない）
⑶　災害（台風・火災・水害・地震）
⑷　交通機関の遅延
⑸　交通事故
⑹　体育スポーツセンターが認定する公式戦への出場
⑺　教育実習（注２）、介護等体験実習

※就職活動による欠席は理由のある欠席とはならないので注意すること。

注１）証明書類については「Ⅷ 試験及び学力評価について」期末試験の追試験に関する証明書を参照してください。

注２）科目の性質により理由のある欠席とならない場合があります。

# Ⅲ　卒 業 の 要 件

## 1．外国語学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

神田外語大学では、高度の外国語運用能力と広い一般知識及び深い専門知識を身につけさせると共に、我が国の伝統文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材の育成を大学全体の目的としています。

また、各学科においても、前述の目的と関連させた学科教育・研究目的を、以下のとおり設定しています。

上述の目的を達成するために編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を修得し、且つ研究コースを修了した場合に、卒業を認定し、学位を授与します。

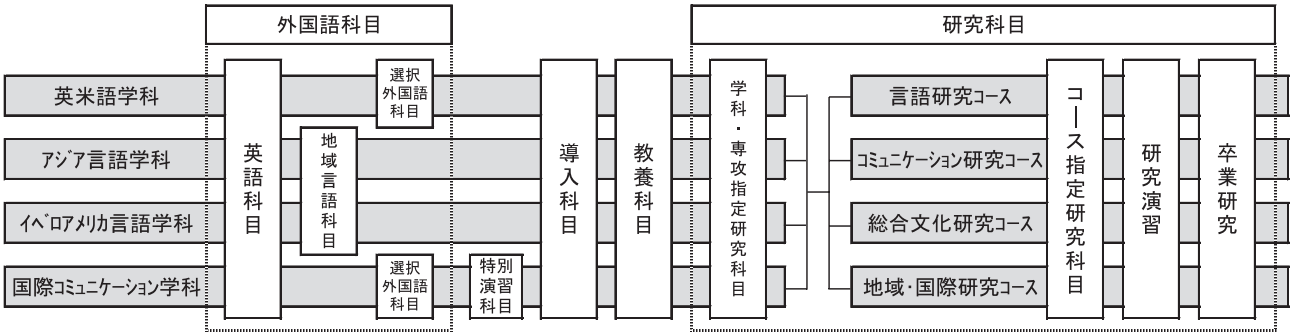
| | |
|---|---|
| 英米語学科 | 多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の英語運用能力を身につけさせると共に言語としての英語及び英語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材を養成する。 |
| アジア言語学科 | 多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の専攻地域言語（中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語）の運用能力を身につけさせると共に英語運用能力養成にも力を注ぎ、また、言語としての専攻地域言語及び同言語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材を養成する。 |
| イベロアメリカ言語学科 | 多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の専攻地域言語（スペイン語、ポルトガル語）の運用能力を身につけさせると共に英語運用能力養成にも力を注ぎ、また、言語としての専攻地域言語及び同言語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材を養成する。 |
| 国際コミュニケーション学科 | 多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の英語運用能力を身につけさせると共にIT関連の運用能力養成にも努め、豊かな教養を有し真のコミュニケーション能力を身につけた国際社会に貢献しうる自立した人材を養成する。 |

## 2．卒業要件

本学を卒業するためには、4年以上在学し、学科及び各科目群で定めた授業科目･単位数の要件を満たし、かつ自分の所属する研究コースを修了しなければなりません。

平成17年度以降入学者の場合、本学での卒業に要する単位数は、124単位です。

卒業するための要件＝1）学科及び各科目群で定めた授業科目・単位数の要件を満たすこと。
2）研究コースを修了すること。




1）学科及び各科目群で定めた授業科目・単位数

| 科目群＼学科専攻 | | 英米語 | アジア言語 | | | イベロアメリカ言語 | | 国際コミュニケーション | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 中国語 | 韓国語 | インドネシア語 ベトナム語 タイ語 | スペイン語 | ブラジル・ポルトガル語 | 国際コミュニケーション | 国際コミュニケーション留学生 | 国際ビジネスキャリア |
| 外国語科目 | 英語科目 | 54 | 22 | 22 | 26 | 22 | 26 | 44 | 36※ | 40 |
| | 地域言語科目 | − | 40 | 40 | 30 | 40 | 30 | − | − | − |
| | 選択外国語科目 | 4 | − | − | − | − | − | 4 | − | 2 |
| 特別演習科目 | | − | − | − | − | − | − | 8 | 6 | 16 |
| 導入科目 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 |
| 教養科目 | | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 研究科目 | 学科・専攻指定研究科目 | 20 | 18 | 18 | 10 | 10 | 10 | 8 | 8 | 14 |
| | コース指定研究科目・研究演習・卒業研究 | 24 | 24 | 24 | 24 | 24 | 24 | 24 | 24 | 24 |
| 自由選択科目 | | 10 | 8 | 8 | 22 | 16 | 22 | 24 | 38 | 16 |
| 合計 | | 124 | 124 | 124 | 124 | 124 | 124 | 124 | 124 | 124 |

※国際コミュニケーション専攻留学生の英語科目36単位には、日本語科目も含まれる。

詳しくはp.19からの【学科・専攻別カリキュラム表】及び「Ⅶ 授業科目について」を参照してください。

2）研究コース修了要件

| 自分の所属する研究コース指定の科目（研究科目）を24単位以上修得してください。 |
|---|

・　研究演習は３年次には２科目（８単位）まで、４年次には１科目（４単位）履修することができます。自分の所属する研究コース以外の研究演習も履修できます。
・　卒業研究は必ず研究演習とともに履修します。（卒業研究のみの履修はできません。）
・　研究演習及び卒業研究を修得した場合は、修得した単位のうち合計８単位までが研究コース修了要件単位として加算され、超過した単位は自由選択科目となります。

＜研究コース登録の流れ＞

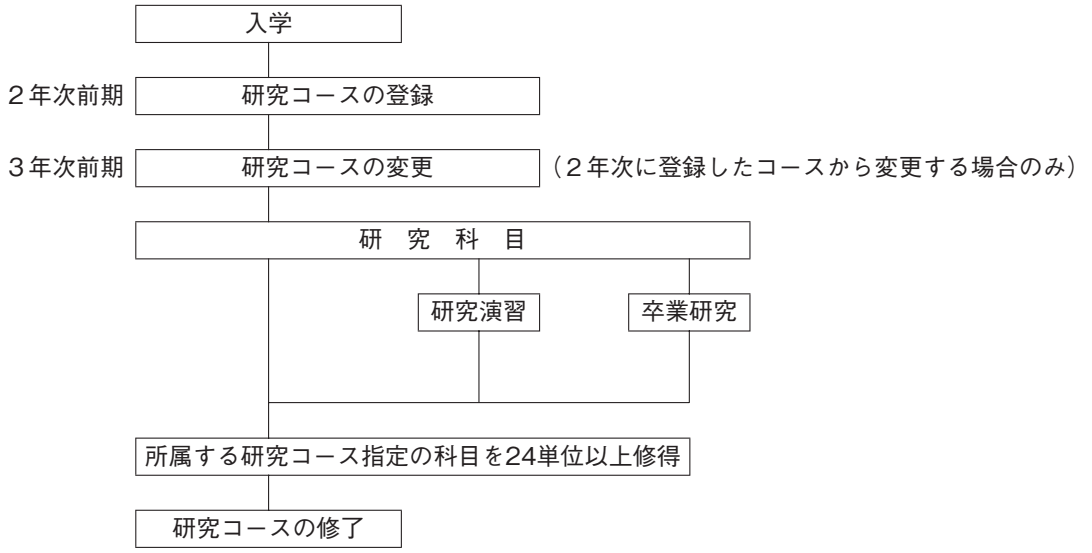
⑴　２年次前期の指定期間（＊１）に、研究コースの登録を行います。各自の興味・関心に合わせて「言語研究コース」、「コミュニケーション研究コース」、「総合文化研究コース」、「地域・国際研究コース」の４つのコース（＊２）から必ず１つを選択し登録してください。

＊１　履修登録期間よりも前（例年３月下旬～４月上旬）。日程はKUIS Campus Web及び掲示でお知らせします。

＊２　各研究コースの詳細は、p.48からの【研究コース履修要項】を参照してください。

⑵　３年次前期の指定期間（上記（＊１）に同じ）に研究コースの変更ができます。２年次に登録した研究コースの変更を希望する場合はこのときに変更できますが、卒業要件（研究コースの修得済み単位数）が異なってくるので、良く理解した上で慎重に行ってください。

なお、２年次に登録した研究コースを変更しない場合は、手続きは不要です。



### 3．学　位

4年以上在学し、卒業要件を満たした学生は、その学科を卒業したものとして、学位が与えられます。

### 4．卒業発表

学期末に掲示をもって行います。定められた期間内に必ず本人が確認してください。

### 5．9月卒業

イ．4年次生として1年以上在学し、卒業要件単位を取得できなかった学生を対象に、9月（前期終了時）卒業制度が適用されます。

ロ．前期終了時点で卒業要件を満たした場合、9月15日付で卒業となります。

ハ．3月卒業希望者は、前期履修登録時に「3月卒業申請書」を提出して手続を行ってください。（手続きを行わない場合は、前期終了時に卒業要件を満たしていれば自動的に9月卒業となります。）

# Ⅳ　進級基準について

各学科専攻とも、１年次、２年次に定められた科目の修得を進級の基準とします。進級基準を満たすことができなかった場合は留年となり、翌年度に未修得科目を履修し、すでに修得した単位を含めて進級基準を満たさなければなりません。

ア．各学科専攻の進級基準対象となる科目の詳細は、以下の表を参照してください。
イ．学則第３条の規定により、留年は１年次、２年次についてはそれぞれ１回限りとします。同一年次で２回目の留年をすると除籍となるので、注意してください。
ウ．３年次以降については基準を設けません。
エ．進級発表は、学年末に掲示（Web及び掲示板）をもって行います。定められた期間内に、必ず本人が確認してください。
オ．アジア言語学科、イベロアメリカ言語学科では、所定の条件を満たした場合のみ、進級再試験を受験することができます。詳細は「Ⅷ 試験及び学力評価」の５．２年次、３年次への進級再試験を参照してください。



**【英米語学科】**

<table>
<tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">授　業　科　目</th><th rowspan="2">単位数</th><th colspan="2">進　級　条　件</th></tr>
<tr><th>１年→２年</th><th>２年→３年</th></tr>
<tr><td rowspan="7">１年次</td><td colspan="2">＜英語総合講座Ⅰ＞</td><td rowspan="7">16単位中<br>12単位<br>以上修得</td><td rowspan="13">28単位中<br>24単位<br>以上修得</td></tr>
<tr><td>Freshman English (a)</td><td>4</td></tr>
<tr><td>Freshman English (b)</td><td>4</td></tr>
<tr><td>Foundational Literacies: Reading & Writing (a)</td><td>2</td></tr>
<tr><td>Foundational Literacies: Reading & Writing (b)</td><td>2</td></tr>
<tr><td>English for Academic Purposes (a)</td><td>2</td></tr>
<tr><td>English for Academic Purposes (b)</td><td>2</td></tr>
<tr><td rowspan="7">２年次</td><td colspan="2">＜英語総合講座Ⅱ＞</td><td rowspan="7"></td></tr>
<tr><td>Media English (a)</td><td>2</td></tr>
<tr><td>Media English (b)</td><td>2</td></tr>
<tr><td>Academic Literacies: Reading (a)</td><td>2</td></tr>
<tr><td>Academic Literacies: Reading (b)</td><td>2</td></tr>
<tr><td>Academic Literacies: Writing (a)</td><td>2</td></tr>
<tr><td>Academic Literacies: Writing (b)</td><td>2</td></tr>
</table>

【アジア言語学科　中国語専攻】

| | 授　業　科　目 | 単位数 | 進　級　条　件 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 1年→2年 | 2年→3年 |
| 1年次 | 中国語総合Ⅰ(a) | 3 | 12単位<br>すべて修得 | 修得済 |
| | 中国語総合Ⅰ(b) | 3 | | |
| | 中国語作文Ⅰ(a) | 1 | | |
| | 中国語作文Ⅰ(b) | 1 | | |
| | 中国語会話Ⅰ(a) | 2 | | |
| | 中国語会話Ⅰ(b) | 2 | | |
| 2年次 | 中国語総合Ⅱ－1(a) | 2 | | 12単位<br>すべて修得 |
| | 中国語総合Ⅱ－1(b) | 2 | | |
| | 中国語総合Ⅱ－2(a) | 1 | | |
| | 中国語総合Ⅱ－2(b) | 1 | | |
| | 中国語作文Ⅱ(a) | 1 | | |
| | 中国語作文Ⅱ(b) | 1 | | |
| | 中国語会話Ⅱ(a) | 1 | | |
| | 中国語会話Ⅱ(b) | 1 | | |
| | LL中国語 (a) | 1 | | |
| | LL中国語 (b) | 1 | | |

【アジア言語学科　韓国語専攻】

| | 授　業　科　目 | 単位数 | 進　級　条　件 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 1年→2年 | 2年→3年 |
| 1年次 | 韓国語基礎Ⅰ | 6 | 12単位<br>すべて修得 | 修得済 |
| | 韓国語基礎Ⅱ | 6 | | |
| 2年次 | 韓国語基礎Ⅲ | 6 | | 12単位<br>すべて修得 |
| | 韓国語基礎Ⅳ | 6 | | |

【アジア言語学科　インドネシア語専攻】

| | 授業科目 | 単位数 | 進級条件 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 1年→2年 | 2年→3年 |
| 1年次 | インドネシア語基礎Ⅰ(a) | 1 | 10単位中8単位以上修得 | 1年次10単位すべて修得かつ2年次10単位中8単位以上修得（合計18単位以上） |
| | インドネシア語基礎Ⅰ(b) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅰ(c) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅰ(d) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅰ(e) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅱ(a) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅱ(b) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅱ(c) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅱ(d) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅱ(e) | 1 | | |
| 2年次 | インドネシア語基礎Ⅲ(a) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅲ(b) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅲ(c) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅲ(d) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅲ(e) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅳ(a) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅳ(b) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅳ(c) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅳ(d) | 1 | | |
| | インドネシア語基礎Ⅳ(e) | 1 | | |

【アジア言語学科　ベトナム語専攻】

| | 授業科目 | 単位数 | 進級条件 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 1年→2年 | 2年→3年 |
| 1年次 | ベトナム語基礎Ⅰ(a) | 1 | 10単位中8単位以上修得 | 1年次10単位すべて修得かつ2年次10単位中8単位以上修得（合計18単位以上） |
| | ベトナム語基礎Ⅰ(b) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅰ(c) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅰ(d) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅰ(e) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅱ(a) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅱ(b) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅱ(c) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅱ(d) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅱ(e) | 1 | | |
| 2年次 | ベトナム語基礎Ⅲ(a) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅲ(b) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅲ(c) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅲ(d) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅲ(e) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅳ(a) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅳ(b) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅳ(c) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅳ(d) | 1 | | |
| | ベトナム語基礎Ⅳ(e) | 1 | | |

【アジア言語学科　タイ語専攻】

| | 授　業　科　目 | 単位数 | 進級条件 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 1年→2年 | 2年→3年 |
| 1年次 | タイ語基礎Ⅰ(a) | 1 | 10単位中<br>8単位<br>以上修得 | 1年次<br>10単位<br>すべて修得<br>かつ<br>2年次<br>10単位中<br>8単位<br>以上修得<br><br>(合計18単位以上) |
| | タイ語基礎Ⅰ(b) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅰ(c) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅰ(d) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅰ(e) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅱ(a) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅱ(b) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅱ(c) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅱ(d) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅱ(e) | 1 | | |
| 2年次 | タイ語基礎Ⅲ(a) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅲ(b) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅲ(c) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅲ(d) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅲ(e) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅳ(a) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅳ(b) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅳ(c) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅳ(d) | 1 | | |
| | タイ語基礎Ⅳ(e) | 1 | | |

【イベロアメリカ言語学科　スペイン語専攻】

| | 授　業　科　目 | 単位数 | 進級条件 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 1年→2年 | 2年→3年 |
| 1年次 | スペイン語基礎Ⅰ(a) | 6 | 12単位<br>すべて修得 | 修得済 |
| | スペイン語基礎Ⅰ(b) | 6 | | |
| 2年次 | スペイン語基礎Ⅱ(a) | 6 | | 12単位<br>すべて修得 |
| | スペイン語基礎Ⅱ(b) | 6 | | |

【イベロアメリカ言語学科　ブラジル・ポルトガル語専攻】

| | 授　業　科　目 | 単位数 | 進　級　条　件 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 1年→2年 | 2年→3年 |
| 1年次 | ポルトガル語基礎会話Ⅰ | 2 | 10単位中<br>8単位<br>以上修得 | 1年次<br>10単位<br>すべて修得<br>かつ<br>2年次<br>8単位中<br>6単位<br>以上修得<br><br>（合計16単位以上） |
| | ポルトガル語基礎文法Ⅰ | 2 | | |
| | ポルトガル語基礎講読Ⅰ | 1 | | |
| | ポルトガル語基礎会話Ⅱ | 2 | | |
| | ポルトガル語基礎文法Ⅱ | 2 | | |
| | ポルトガル語基礎講読Ⅱ | 1 | | |
| 2年次 | ポルトガル語基礎会話Ⅲ | 2 | | |
| | ポルトガル語基礎文法Ⅲ | 1 | | |
| | ポルトガル語基礎講読Ⅲ | 1 | | |
| | ポルトガル語基礎会話Ⅳ | 2 | | |
| | ポルトガル語基礎文法Ⅳ | 1 | | |
| | ポルトガル語基礎講読Ⅳ | 1 | | |

【国際コミュニケーション学科　国際コミュニケーション専攻】

| | 授　業　科　目 | 単位数 | 進　級　条　件 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 1年→2年 | 2年→3年 |
| 1年次 | English for International Communication Ⅰ (a) | 4 | 16単位中<br>12単位<br>以上修得 | 28単位中<br>22単位<br>以上修得 |
| | English for International Communication Ⅰ (b) | 4 | | |
| | Reading/Writing Ⅰ | 4 | | |
| | Reading/Writing Ⅱ | 4 | | |
| 2年次 | English for International Communication Ⅱ (a) | 2 | | |
| | English for International Communication Ⅱ (b) | 2 | | |
| | Media English Ⅰ | 2 | | |
| | Media English Ⅱ | 2 | | |
| | Advanced Reading Ⅰ | 2 | | |
| | Advanced Reading Ⅱ | 2 | | |

【国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション専攻 留学生】

進級基準は定めない。

カリキュラム表に従い、指定されたクラスの卒業要件単位を修得すること。

【国際コミュニケーション学科　国際ビジネスキャリア専攻】

| | 授　業　科　目 | 単位数 | 進級条件 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 1年→2年 | 2年→3年 |
| 1年次 | English for International Communication Ⅰ (a) | 4 | 16単位中<br>12単位<br>以上修得 | 28単位中<br>22単位<br>以上修得 |
| | English for International Communication Ⅰ (b) | 4 | | |
| | Reading/Writing Ⅰ | 4 | | |
| | Reading/Writing Ⅱ | 4 | | |
| 2年次 | English for International Communication Ⅱ (a) | 2 | | |
| | English for International Communication Ⅱ (b) | 2 | | |
| | Media English Ⅰ | 2 | | |
| | Media English Ⅱ | 2 | | |
| | Advanced Reading Ⅰ | 2 | | |
| | Advanced Reading Ⅱ | 2 | | |

# Ⅴ　単位と時間数

## 1．単位制度

単位とは、個々の科目の学修量を示す基準であり、大学での学修はすべて単位制となっています。全ての授業科目には一定の単位が定められており、その科目の履修登録を行い、授業を受け、かつ試験その他の方法により合格と判定された場合、単位が与えられます。

それぞれの授業科目に与えられている単位を一定の基準に従って修得し、修得単位の合計が学則に定められた卒業要件単位数を満たせば卒業の資格が与えられます。

## 2．単位と時間数

イ．１学年は前期・後期の２学期に分かれています。各学期は原則として15週で１学期、30週で１学年としています。

ロ．１単位は原則として、教室の内外合わせて45時間の学修に対して与えられます（教室内の授業時間＋自学自習の時間）。したがって、１週につき教室内外３時間･15週をもって１単位とします。ただし、本学においては授業時間割の１/２時限（45分）を１時間とみなし、１時限は２時間とみなします。

ハ．単位は科目の性質によって次のように分類されます。

| 授業科目 | 学修時間 | 内訳 | |
|---|---|---|---|
| | | 授業（教室内） | 自学自習（教室外） |
| 外国語科目※<br>特別演習科目<br>導入科目<br>教養科目<br>研究科目<br>研究演習 | 45時間<br>（毎週３時間15週） | 15時間<br>（毎週１時間15週） | 30時間<br>（毎週２時間15週） |
| 外国語科目<br>（☆トレーニング科目）<br>選択外国語科目<br>体育・スポーツ | 45時間<br>（毎週３時間15週） | 30時間<br>（毎週２時間15週） | 15時間<br>（毎週１時間15週） |

※　時間数と単位数の計算について本学の外国語科目の中には講義科目の扱いをうけるものがあります。

☆　トレーニング科目とは語学の訓練や実技を中心に行う科目を言います。

# Ⅵ　履修登録単位数の上限・「卒業見込証明書」の発行

## 1．各学年における履修登録単位数の上限について

１～３年次は前期･後期にそれぞれ履修登録できる単位数を24単位までとします。また、４年次は前期･後期にそれぞれ履修登録できる単位数を30単位までとします。これは少数の授業科目をより深く実質的に学習してもらうことをねらいとするものです。但し、例外等については下記の【履修登録上限単位数に関する注意点】を参照して下さい。

| | 前期履修登録 | 後期履修登録 |
|---|---|---|
| １～３年次 | 24単位 | 24単位 |
| ４年次以降 | 30単位 | 30単位 |

**【履修登録上限単位数に関する注意点】**

① 「教職に関する科目（32単位）※」、「Effective Learning Module」の履修は履修登録上限単位数から除外します。

※「ⅩⅣ 教職課程履修要項」中、「B 教職課程の履修について」⑴教職に関する科目を参照

② 夏期集中講義科目の履修登録は、前期登録単位数に数えるものとします。

③ 春期集中講義科目の履修登録は、後期登録単位数に数えるものとします。

④ 通年科目の履修登録は、前期登録単位数と後期登録単位数に２分割して数えるものとします。

⑤ 入学前及び、留学先で修得した科目の認定単位は履修登録上限単位数から除外します。

⑥ 検定試験、海外実地研究、国際ボランティア体験は履修登録上限単位数から除外します。

⑦ 前学期のGPA得点が3.4以上の成績優秀者は、履修登録時に履修登録上限単位数を超えて履修登録できるものとします。

（夏期集中講義科目のGPAは前期分として加算されますが、一部科目を除き成績評価の発表が後期開始後であるため上限単位数免除の計算外とします。）

⑧ 教職課程履修者で考慮すべき事由を有しているものに限り、履修登録上限単位数を超えて履修できる場合があります。但し、事前に教務課に申し出て、教職課程担当教員と面談を行い次の条件を満たしていると認められたものに限ります。

１）履修上限単位数により、４年間での教職課程履修が困難であることが明らかな者。

２）履修上限単位数を超えて登録するに足る学力を有している者。

## 2．「卒業見込証明書」の発行について

３年次終了までに80単位以上を修得していない者に対しては、「卒業見込証明書」（就職活動等で必要とされる）が発行できないので、十分注意して履修計画を立ててください。

## 英米語学科

| | | 1年次 前期 授業科目 | 単位 | 1年次 後期 授業科目 | 単位 | 2年次 前期 授業科目 | 単位 | 2年次 後期 授業科目 | 単位 | 3年次 前期 授業科目 | 単位 | 3年次 後期 授業科目 | 単位 | 4年次 前期 授業科目 | 単位 | 4年次 後期 授業科目 | 単位 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語科目 | 必修 | 英語総合講座Ⅰ | | | | 英語総合講座Ⅱ（☆） | | | | 英語専門講読 （各2単位）<br>履修条件：TOEFL C基準（ITP480, iBT54）以上<br>*3、4年の各年次に2単位(1科目)ずつ履修すること。ただし3年次未修得の場合は、4年次に4単位履修可。<br>*4年次前期において4単位(2科目)を修得し終えた学生は、4年次後期においても自由選択科目として追加履修可(上限は設けない)<br>*「英語専門講読」は留学時の単位振替対象科目とはならない | 4 | | | | | | 52単位 | 54 |
| | | Freshman English (a) | 4 | Freshman English (b) | 4 | Media English (a) | 2 | Media English (b) | 2 | | | | | | | | | | |
| | | Foundational Literacies: Reading & Writing (a) | 2 | Foundational Literacies: Reading & Writing (b) | 2 | Academic Literacies: Reading (a) | 2 | Academic Literacies: Reading (b) | 2 | | | | | | | | | | |
| | | English for Academic Purposes (a) | 2 | English for Academic Purposes (b) | 2 | Academic Literacies: Writing (a) | 2 | Academic Literacies: Writing (b) | 2 | 英語総合講座Ⅲ （各4単位）<br>履修条件：TOEFL C基準（ITP480, iBT54）以上<br>*3年次は半期につき8単位(2科目)まで履修可<br>＊20単位をすべて修得し終えた学生は、自由選択科目として履修可（上限は設けない） | 20 | | | | | | | |
| | | 2年への進級基準：16単位のうち12単位以上修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3年への進級基準：28単位のうち24単位以上修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | ☆ TOEFL500点以上を1年次1月末試験までに取得した学生は、2年次に各学期1講座まで「英語総合講座Ⅲ」の先行履修を認める。2年次の7月末試験までにTOEFL500点以上を取得した場合は、後期に1講座の先行履修が可能となる。ただし、「英語総合講座Ⅲ」を先行履修する場合も、2年次必修科目の履修免除は行わない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | TOEFL ITP480演習 1単位※ 履修条件：TOEFL ITP480演習を未修得 ※TOEFLによるC基準を入学時に達成している学生は、単位認定の上、履修免除する。<br>TOEFL ITP520演習 1単位 履修条件：TOEFL C基準（ITP480, iBT54）以上 B基準（ITP520, iBT68）未満<br>TOEFL ITP550演習 1単位 履修条件：TOEFL B基準（ITP520, iBT68）以上 A基準（ITP550, iBT79）未満<br>TOEFL iBT68演習 2単位 履修条件：TOEFL C基準（ITP480, iBT54）以上 B基準（ITP520, iBT68）未満<br>TOEFL iBT80演習 2単位 履修条件：TOEFL B基準（ITP520, iBT68）以上 iBT80未満 | | | | | | | | | | | | | | | | | 左記のTOEFL ITP・iBT演習から1単位以上を必修として修得すること。<br>1単位を超えて修得した単位は下表の選択必修の単位とする。<br>（TOEFL ITP・iBT演習の詳細についてはpp.32-33参照） | 1 | 2単位 | |
| | | 時事英語Ⅰ 2単位<br>時事英語Ⅱ 2単位 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準<br>ビジネス英語Ⅰ 2単位<br>ビジネス英語Ⅱ 2単位 | | | | | | | | Effective Language Learning Course1 1単位 ※1<br>Effective Language Learning Course2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course1 またはEffective Learning Module1 ※2<br>Effective Learning Module1 1単位 ※1<br>Effective Learning Module2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course1 またはEffective Learning Module1 ※2<br>※1：Effective Language Learning Course1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可（重複履修不可）<br>※2：Effective Language Learning Course2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可（重複履修可） | | | | | | | 1 | | |
| 選択外国語科目 | 選択必修 | 選択外国語Ⅰ(a)/(b)を同じ言語で4単位 | | | | | | | | | | | | | | | | 4単位 | 4 |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 2 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から4科目8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、又は体育・スポーツを修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | 10 |
| 研究科目 | 学科指定 必修 | 英語学概論 （言語研究コース） ＊早い学年での履修を推奨する | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 4単位 | 20単位 | 44 |
| | 学科指定 選択必修A群 | 下表から2単位を修得すること。【履修年次 1～4 】（すべて地域・国際研究コース）<br>英国研究入門Ⅰ 2単位 / 英国研究入門Ⅱ 2単位<br>米国研究入門Ⅰ 2単位 / 米国研究入門Ⅱ 2単位<br>オセアニア研究入門Ⅰ 2単位 / オセアニア研究入門Ⅱ 2単位<br>カナダ研究入門Ⅰ 2単位 / カナダ研究入門Ⅱ 2単位<br>※2単位を超えて修得した単位は、コース指定研究科目または自由選択科目となる | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | | |
| | 学科指定 選択必修B群 | 下表（英語で行われる研究科目）から10単位を修得すること。<br>〈言語研究コース〉<br>Outline of English Phonetics 4単位<br>Issues in Second Language Acquisition 4単位<br>Introduction to Language and Communication 2単位<br>Introduction to English Sentence Structures 2単位<br>Ways of Learning English 4単位<br>Introduction to Discourse Analysis 4単位<br>Issues in Applied Linguistics 4単位<br>Topics in Sociolinguistics 4単位<br>TESOL(英語教授法)海外研修 4単位<br>〈コミュニケーション研究コース〉<br>Public Speaking 4単位<br>Debate 4単位<br>Small Group Communication 4単位<br>Theories of Translation and Interpreting 4単位<br>〈総合文化研究コース〉<br>Survey of American Literature 2単位<br>Themes in American Literature 2単位<br>The Literatures of Japan 2単位<br>Japanese Popular Cultures 2単位<br>〈地域・国際研究コース〉<br>History of the United States Ⅰ 2単位<br>History of the United States Ⅱ 2単位<br>Topics in Oceanian Studies 2単位<br>Topics in Canadian Studies 2単位<br>The History of Modern Japan 2単位<br>英国文化実地研究 4単位<br>米国文化実地研究 4単位<br>オセアニア文化実地研究 4単位<br>カナダ文化実地研究 4単位<br>マレーシア文化実地研究（英語） 4単位<br>※各科目の履修年次、履修条件等の詳細はpp.44-45を参照<br>※10単位を超えて修得した単位は、コース指定研究科目又は自由選択科目となる | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | | |
| | 学科指定 選択必修C群 | 下表から4単位を修得すること。<br>〈言語研究コース〉<br>英語音声学 4単位<br>英語音韻論 4単位<br>英語統語論Ⅰ 4単位<br>現代英文法 4単位<br>英語習得法 4単位<br>第二言語習得研究 4単位<br>英語談話分析 4単位<br>〈コミュニケーション研究コース〉<br>英語通訳法Ⅰ 4単位<br>英日翻訳法Ⅰ 4単位<br>通訳・翻訳理論（英語） 4単位<br>〈総合文化研究コース〉<br>英文学史 Ⅰ 2単位<br>英文学史 Ⅱ 2単位<br>米文学史 Ⅰ 2単位<br>米文学史 Ⅱ 2単位<br>英文学講義 Ⅰ 2単位<br>英文学講義 Ⅱ 2単位<br>米文学講義 Ⅰ 2単位<br>米文学講義 Ⅱ 2単位<br>米国文化論 Ⅰ 2単位<br>米国文化論 Ⅱ 2単位<br>日英比較文化論 Ⅰ 2単位<br>日英比較文化論 Ⅱ 2単位<br>日米比較文化論 Ⅰ 2単位<br>日米比較文化論 Ⅱ 2単位<br>〈地域・国際研究コース〉<br>英国史概論 Ⅰ 2単位<br>英国史概論 Ⅱ 2単位<br>米国史概論 Ⅰ 2単位<br>米国史概論 Ⅱ 2単位<br>米国政治論 Ⅰ 2単位<br>米国政治論 Ⅱ 2単位<br>米国外交論 Ⅰ 2単位<br>米国外交論 Ⅱ 2単位<br>米国経済論 Ⅰ 2単位<br>米国経済論 Ⅱ 2単位<br>米国社会論 Ⅰ 2単位<br>米国社会論 Ⅱ 2単位<br>※各科目の履修年次、履修条件等の詳細はpp.44-45を参照<br>※4単位を超えて修得した単位は、コース指定研究科目又は自由選択科目となる | | | | | | | | | | | | | | | | 4単位 | | |
| | コース指定 | コース指定研究科目 24単位<br>（自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。<br>なお学科指定研究科目選択必修科目の各群で指定の単位数を超えて修得した単位のうち<br>自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。） | | | | | | | | | | | | | | 研究演習（ゼミ） | 4 | 24単位 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | 卒業研究<br>（研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる） | 4 | | | |
| 自由選択科目 | | 自由選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | 10 |

**合計124単位**

## アジア言語学科 中国語専攻

| | | 1年次 前期 | | 1年次 後期 | | 2年次 前期 | | 2年次 後期 | | 3年次 前期 | | 3年次 後期 | | 4年次 前期 | | 4年次 後期 | | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | | |
| 英語科目 | 必修 | Freshman English (a)（CSK） | 2 | Freshman English (b)（CSK） | 2 | Sophomore English (a)（CSK） | 2 | Sophomore English (b)（CSK） | 2 | English for Multicultural Communication（各4単位）<br>（アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科共通開講科目）<br>履修条件：Freshman English(a)(b)(CSK) 4単位およびSophomore English(a)(b)(CSK)の4単位<br>＊「English for Multicultural Communication」は、3年次は前期4単位、後期4単位を履修上限とする。ただし前期未修得の場合は、後期に8単位履修可。8単位修得し終えた学生は、自由選択科目として追加履修可（上限は設けない） | | | | | | | 20単位 | 22 |
| | | | | | | 履修条件：Freshman English (a)(b) (CSK)4単位を修得済 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 総合英語Ⅰ(a) | 1 | 総合英語Ⅰ (b) | 1 | 総合英語Ⅱ(a) | 1 | 総合英語Ⅱ (b) | 1 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 履修条件：総合英語Ⅰ(a)(b)2単位を修得済 | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | 以下の科目から2単位を修得すること【履修年次 1～4】<br>時事英語Ⅰ 2単位<br>時事英語Ⅱ 2単位 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準（4単位まで履修可）<br>ビジネス英語Ⅰ 2単位<br>ビジネス英語Ⅱ 2単位<br>Effective Language Learning Course1 1単位 ※1<br>Effective Language Learning Course2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course1またはEffective Learning Module1 ※2<br>Effective Learning Module 1 1単位 ※1<br>Effective Learning Module 2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course1またはEffective Learning Module1 ※2<br>TOEIC550演習（オンライン） 1単位 履修条件：TOEIC L&R 550点未満<br>TOEIC600演習 1単位 履修条件：TOEIC L&R 600点未満<br>TOEIC650演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 500点以上650点未満 ※3<br>TOEIC730演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 600点以上730点未満<br>TOEIC860演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 700点以上860点未満<br>検定試験（英語） 2～6単位<br>※1：Effective Language Learning Course1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可（重複履修不可）<br>※2：Effective Language Learning Course2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可（重複履修可）<br>※3：TOEIC演習については、p.76自由選択科目別表3を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | |
| 地域言語科目 | 必修 | 中国語総合Ⅰ(a) | 3 | 中国語総合Ⅰ(b) | 3 | 中国語総合Ⅱ-1(a) | 2 | 中国語総合Ⅱ-1(b) | 2 | | | | | | | | | 24単位 | 40 |
| | | 中国語作文Ⅰ(a) | 1 | 中国語作文Ⅰ(b) | 1 | 中国語総合Ⅱ-2(a) | 1 | 中国語総合Ⅱ-2(b) | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 中国語会話Ⅰ(a) | 2 | 中国語会話Ⅰ(b) | 2 | 中国語作文Ⅱ(a) | 1 | 中国語作文Ⅱ(b) | 1 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 中国語会話Ⅱ(a) | 1 | 中国語会話Ⅱ(b) | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 2年への進級基準：12単位すべて修得 | | | | LL中国語(a) | 1 | LL中国語(b) | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 3年への進級基準：24単位すべて修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | | | | | | | | | 5分野のうち4分野以上を選択すること<br>中国文学講読：中国文学講読Ⅰ(a)、中国文学講読Ⅰ(b)、中国文学講読Ⅱ(a)、中国文学講読Ⅱ(b) 各2単位<br>時事中国語：時事中国語Ⅰ(a)、時事中国語Ⅰ(b)、時事中国語Ⅱ(a)、時事中国語Ⅱ(b) 各2単位<br>中国語翻訳法：中国語翻訳法Ⅰ(a)、中国語翻訳法Ⅰ(b)、中国語翻訳法Ⅱ(a)、中国語翻訳法Ⅱ(b) 各2単位<br>中国語討論・スピーチ：中国語討論・スピーチⅠ(a)、中国語討論・スピーチⅠ(b)、中国語討論・スピーチⅡ(a)、中国語討論・スピーチⅡ(b) 各2単位<br>中国語表現法：中国語表現法Ⅰ(a)、中国語表現法Ⅰ(b)、中国語表現法Ⅱ(a)、中国語表現法Ⅱ(b) 各2単位<br>＊ 3年次の選択必修科目は12単位を履修上限とする<br>＊ 1分野4単位までを選択必修科目の単位とし、それを超える修得単位は自由選択科目の単位とする | | | | | | | 16単位 | |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 2 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から4科目8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、又は体育・スポーツを修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | 10 |
| 研究科目 | 専攻指定 必修 | アジア研究入門、中国社会事情Ⅰ、中国社会事情Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | 各2 | 6単位 | 18単位 / 42 |
| | 専攻指定 選択必修 | 下表から12単位を習得すること<br>中国古典講読Ⅰ 2単位<br>中国古典講読Ⅱ 2単位<br>中国語学概論Ⅰ 2単位<br>中国語学概論Ⅱ 2単位<br>中国思想概論Ⅰ 2単位<br>中国思想概論Ⅱ 2単位<br>中国文化概論Ⅰ 2単位<br>中国文化概論Ⅱ 2単位<br>中国文学概論Ⅰ 2単位<br>中国文学概論Ⅱ 2単位<br>中国史概論Ⅰ 2単位<br>中国史概論Ⅱ 2単位<br>中国経済概論Ⅰ 2単位<br>中国経済概論Ⅱ 2単位<br>中国政治外交概論Ⅰ 2単位<br>中国政治外交概論Ⅱ 2単位<br>中国現代史Ⅰ 2単位<br>中国現代史Ⅱ 2単位<br>※ 中国古典講読Ⅰ・Ⅱの履修年次は3年生以上とする | | | | | | | | | | | | | | | | 12単位 | |
| | コース指定 | コース指定研究科目 24単位<br>（自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。<br>なお学科・専攻指定選択必修科目を指定の単位数を超えて修得した単位のうち<br>自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。） | | | | | | | | | | | | 研究演習（ゼミ） | 4 | | | 24単位 | |
| | | | | | | | | | | | | | | 卒業研究<br>（研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる） | 4 | | | | |
| 自由選択科目 | | 自由選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | 8単位 | 8 |

**合計124単位**

## アジア言語学科 韓国語専攻

| | | 1年次 前期 授業科目 | 単位 | 1年次 後期 授業科目 | 単位 | 2年次 前期 授業科目 | 単位 | 2年次 後期 授業科目 | 単位 | 3年次 前期 授業科目 | 単位 | 3年次 後期 授業科目 | 単位 | 4年次 前期 授業科目 | 単位 | 4年次 後期 授業科目 | 単位 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語科目 | 必修 | Freshman English (a)（CSK） | 2 | Freshman English (b)（CSK） | 2 | Sophomore English (a)（CSK） | 2 | Sophomore English (b)（CSK） | 2 | English for Multicultural Communication（各4単位）<br>（アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科共通開講科目）<br>履修条件：Freshman English(a)(b)(CSK) 4単位およびSophomore English(a)(b)(CSK)の4単位<br>＊「English for Multicultural Communication」は、3年次は前期4単位、後期4単位を履修上限とする。ただし前期未修得の場合は、後期に8単位履修可。8単位修得し終えた学生は、自由選択科目として追加履修可（上限は設けない） | 8 | | | | 20単位 | 22 |
| | | | | | | 履修条件：Freshman English (a)(b) (CSK)4単位を修得済 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 総合英語Ⅰ(a) | 1 | 総合英語Ⅰ (b) | 1 | 総合英語Ⅱ(a) | 1 | 総合英語Ⅱ (b) | 1 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 履修条件：総合英語Ⅰ(a)(b)2単位を修得済 | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | 以下の科目から2単位を修得すること【履修年次 1～4】<br>時事英語Ⅰ 2単位<br>時事英語Ⅱ 2単位 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準（4単位まで履修可）<br>ビジネス英語Ⅰ 2単位<br>ビジネス英語Ⅱ 2単位<br>Effective Language Learning Course1 1単位 ※1<br>Effective Language Learning Course2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course1またはEffective Learning Module1 ※2<br>Effective Learning Module 1 1単位 ※1<br>Effective Learning Module 2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course1またはEffective Learning Module1 ※2<br>TOEIC550演習（オンライン） 1単位 履修条件：TOEIC L&R 550点未満<br>TOEIC600演習 1単位 履修条件：TOEIC L&R 600点未満<br>TOEIC650演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 500点以上650点未満<br>TOEIC730演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 600点以上730点未満<br>TOEIC860演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 700点以上860点未満<br>※3<br>検定試験（英語） 2～6単位<br>※1：Effective Language Learning Course1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可（重複履修不可）<br>※2：Effective Language Learning Course2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可（重複履修可）<br>※3：TOEIC演習については、p.76自由選択科目別表3を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | |
| 地域言語科目 | 必修 | 韓国語基礎Ⅰ | 6 | 韓国語基礎Ⅱ | 6 | 韓国語基礎Ⅲ | 6 | 韓国語基礎Ⅳ | 6 | | | | | | | | | 24単位 | 40 |
| | | 2年への進級要件：12単位すべて修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3年への進級要件：24単位すべて修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | | | | | | | | | 下記科目から16単位を修得すること<br>韓国語口頭表現Ⅰ 2単位<br>韓国語口頭表現Ⅱ 2単位<br>韓日通訳法 2単位<br>日韓通訳法 2単位<br>韓日翻訳法 2単位<br>日韓翻訳法 2単位<br>時事韓国語Ⅰ 2単位<br>時事韓国語Ⅱ 2単位<br>韓国語対話文Ⅰ 2単位<br>韓国語対話文Ⅱ 2単位<br>韓国語講読Ⅰ 2単位<br>韓国語講読Ⅱ 2単位<br>韓国語上級会話Ⅰ 2単位<br>韓国語上級会話Ⅱ 2単位<br>＊3年次の選択必修科目は12単位を履修上限とする | | | | | 16単位 | |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 2 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から4科目8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、又は体育・スポーツを修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | 10 |
| 研究科目 | 専攻指定 必修 | アジア研究入門 2単位 ＊早い学年での履修を推奨 | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 42 |
| | 専攻指定 選択必修 | 下記科目から16単位を修得すること<br>【履修年次 1～4】<br>韓国文化概論Ⅰ 2単位 韓国史概論Ⅰ 2単位<br>韓国文化概論Ⅱ 2単位 韓国史概論Ⅱ 2単位<br>【履修年次 2～4】<br>韓国語学概論Ⅰ 2単位 韓国語文法論Ⅰ 2単位 日韓関係史Ⅰ 2単位 韓国の宗教・社会Ⅰ 2単位<br>韓国語学概論Ⅱ 2単位 韓国語文法論Ⅱ 2単位 日韓関係史Ⅱ 2単位 韓国の宗教・社会Ⅱ 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | 16単位 | 18単位 |
| | コース指定 | コース指定研究科目 24単位<br>（自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。<br>なお学科・専攻指定選択必修科目を指定の単位数を超えて修得した単位のうち<br>自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。） | | | | | | | | | | | | 研究演習（ゼミ） 4<br>卒業研究 4<br>（研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる） | | | | 24単位 | |
| 自由選択科目 | | 自由選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | 8単位 | 8 |

**合計124単位**

## アジア言語学科 インドネシア語専攻

| | | 1年次 前期 授業科目 | 単位 | 1年次 後期 授業科目 | 単位 | 2年次 前期 授業科目 | 単位 | 2年次 後期 授業科目 | 単位 | 3年次 前期 授業科目 | 単位 | 3年次 後期 授業科目 | 単位 | 4年次 前期 授業科目 | 単位 | 4年次 後期 授業科目 | 単位 | 卒業要件 単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語科目 | 必修 | Freshman English Ⅰ(ML) | 2 | Freshman English Ⅱ(ML) | 2 | Sophomore English Ⅰ(ML) | 2 | Sophomore English Ⅱ(ML) | 2 | English for Multicultural Communication （各4単位）<br>（アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科共通開講科目）<br>履修条件：Sophomore English Ⅰ,Ⅱ(ML)の4単位およびMedia English Ⅰ,Ⅱ(ML)の4単位<br>＊「English for Multicultural Communication」は、3年次は前期4単位、後期4単位を履修上限とする。ただし前期未修得の場合は、後期に8単位履修可。 8単位修得し終えた学生は、自由選択科目として追加履修可（上限は設けない） | 8 | | | 24単位 | 26 |
| | | アカデミック英語 Ⅰ | 2 | アカデミック英語 Ⅱ | 2 | Media English Ⅰ(ML) | 2 | Media English Ⅱ(ML) | 2 | | | | | | | | | | |
| | | ＊Freshman English Ⅰ,Ⅱ、アカデミック英語 Ⅰ,Ⅱのうち未修得科目がある場合は、翌年度に履修すること。年度を空けて履修することは認めない | | | | 履修条件：Freshman English Ⅰ,Ⅱ(ML)およびアカデミック英語 Ⅰ,Ⅱ | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | 下表から2単位を修得すること 【履修年次 1～4】<br>時事英語Ⅰ 2単位<br>時事英語Ⅱ 2単位 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準（4単位まで履修可）<br>ビジネス英語Ⅰ 2単位<br>ビジネス英語Ⅱ 2単位<br>Language Lab(ML) 1単位<br>Oral Communication 1単位<br>Effective Language Learning Course 1 1単位 ※1<br>Effective Language Learning Course 2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course 1 またはEffective Learning Module 1 ※2<br>Effective Learning Module 1 1単位 ※1<br>Effective Learning Module 2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course 1 またはEffective Learning Module 1 ※2<br>TOEIC550演習（オンライン） 1単位 履修条件：TOEIC L&R 550点未満<br>TOEIC600演習 1単位 履修条件：TOEIC L&R 600点未満<br>TOEIC650演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 500点以上650点未満 ※3<br>TOEIC730演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 600点以上730点未満<br>TOEIC860演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 700点以上860点未満<br>※1：Effective Language Learning Course 1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可（重複履修不可）<br>※2：Effective Language Learning Course 2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可（重複履修可）<br>※3：TOEIC演習については、p.76自由選択科目別表3を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | |
| 地域言語科目 | 必修 | インドネシア語 基礎Ⅰ(a)(b)(c)(d)(e) | 5（各1） | インドネシア語 基礎Ⅱ(a)(b)(c)(d)(e) | 5（各1） | インドネシア語 基礎Ⅲ(a)(b)(c)(d)(e) | 5（各1） | インドネシア語 基礎Ⅳ(a)(b)(c)(d)(e) | 5（各1） | インドネシア語総合 （各2単位）<br>＊3年・4年の各年次に4単位を超えて修得した場合は、自由選択科目となる | 8 | | | | | | | 28単位 | 30 |
| | | 2年への進級基準：10単位のうち8単位修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3年への進級基準：インドネシア語基礎Ⅰ,Ⅱ（10単位）およびインドネシア語基礎Ⅲ,Ⅳのうち8単位修得（合計18単位） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | | | | | | | | | インドネシア語応用Ⅰ・インドネシア語応用Ⅱ （各2単位）<br>＊2単位を超えて修得した場合は、自由選択科目となる | 2 | | | | | | | 2単位 | |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 2 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から4科目8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、又は体育・スポーツを修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | 10 |
| 研究科目 | 専攻指定 必修 | アジア研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する | | | | | | | | | 2 | | | | | | | 4単位 | 34 |
| | | インドネシア研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | |
| | 専攻指定 選択必修 | | | | | インドネシアの民族・地理 | | | | | 2 | | | | | | | 6単位 | |
| | | | | | | インドネシアの歴史 | | | | | 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | インドネシアの文化・芸術 | | | | | 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | インドネシアの宗教・社会 | | | | | 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | インドネシアの政治・経済Ⅰ | | | | | 2 | | | | | | | | |
| | | | | | | インドネシアの政治・経済Ⅱ | | | | | 2 | | | | | | | | |
| | コース指定 | コース指定研究科目 24単位<br>（自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。<br>なお学科・専攻指定選択必修科目を指定の単位数を超えて修得した単位のうち<br>自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。） | | | | | | | | 研究演習（ゼミ） | 4 | | | | | | | 24単位 | |
| | | | | | | | | | | 卒業研究<br>（研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる） | 4 | | | | | | | | |
| 自由選択科目 | | 自由選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | 22単位 | 22 |

■留年した場合の英語科目の履修について

1年次で留年した学生：英語科目の履修条件を満たした場合、翌年度にSophmore English Ⅰ, Ⅱ(ML)およびMedia English Ⅰ, Ⅱ(ML)を履修すること。

2年次で留年した学生：1年次、2年次の英語科目の履修条件を満たした場合、翌年度にEnglish for Multicultural Communicationを履修することができる。

**合計124単位**

## アジア言語学科 ベトナム語専攻

| | | 1年次 前期 授業科目 | 単位 | 1年次 後期 授業科目 | 単位 | 2年次 前期 授業科目 | 単位 | 2年次 後期 授業科目 | 単位 | 3年次 前期 授業科目 | 単位 | 3年次 後期 授業科目 | 単位 | 4年次 前期 授業科目 | 単位 | 4年次 後期 授業科目 | 単位 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語科目 | 必修 | Freshman English Ⅰ(ML) | 2 | Freshman English Ⅱ(ML) | 2 | Sophomore English Ⅰ(ML) | 2 | Sophomore English Ⅱ(ML) | 2 | English for Multicultural Communication(各4単位)<br>(アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科共通開講科目)<br>履修条件:Sophomore EnglishⅠ,Ⅱ(ML)の4単位およびMedia EnglishⅠ,Ⅱ(ML)の4単位<br>＊「English for Multicultural Communication」は、3年次は前期4単位、後期4単位を履修上限とする。ただし前期未修得の場合は、後期に8単位履修可。 8単位修得し終えた学生は、自由選択科目として追加履修可(上限は設けない) | | | 8 | 24単位 | 26 |
| | | アカデミック英語 Ⅰ | 2 | アカデミック英語 Ⅱ | 2 | Media English Ⅰ(ML) | 2 | Media English Ⅱ(ML) | 2 | | | | | | | | | | |
| | | ＊Freshman EnglishⅠ,Ⅱ、アカデミック英語Ⅰ,Ⅱのうち未修得科目がある場合は、翌年度に履修すること。年度を空けて履修することは認めない | | | | 履修条件:Freshman EnglishⅠ,Ⅱ(ML)およびアカデミック英語Ⅰ. Ⅱ | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | 下表から2単位を修得すること【履修年次 1～4】<br>時事英語Ⅰ 2単位<br>時事英語Ⅱ 2単位 履修条件:時事英語ⅠまたはC基準(4単位まで履修可)<br>ビジネス英語Ⅰ 2単位<br>ビジネス英語Ⅱ 2単位<br>Language Lab(ML) 1単位<br>Oral Communication 1単位<br>Effective Language Learning Course 1 1単位 ※1<br>Effective Language Learning Course 2 1単位 履修条件:Effective Language Learning Course 1 または Effective Learning Module 1 ※2<br>Effective Learning Module 1 1単位 ※1<br>Effective Learning Module 2 1単位 履修条件:Effective Language Learning Course 1 またはEffective Learning Module 1 ※2<br>TOEIC550演習(オンライン) 1単位 履修条件:TOEIC L&R 550点未満<br>TOEIC600演習 1単位 履修条件:TOEIC L&R 600点未満<br>TOEIC650演習 2単位 履修条件:TOEIC L&R 500点以上650点未満 ※3<br>TOEIC730演習 2単位 履修条件:TOEIC L&R 600点以上730点未満<br>TOEIC860演習 2単位 履修条件:TOEIC L&R 700点以上860点未満<br>※1:Effective Language Learning Course 1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可(重複履修不可)<br>※2:Effective Language Learning Course 2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可(重複履修可)<br>※3:TOEIC演習については、p.76自由選択科目別表3を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | |
| 地域言語科目 | 必修 | ベトナム語 基礎Ⅰ(a)(b)(c)(d)(e) | 5(各1) | ベトナム語 基礎Ⅱ(a)(b)(c)(d)(e) | 5(各1) | ベトナム語 基礎Ⅲ(a)(b)(c)(d)(e) | 5(各1) | ベトナム語 基礎Ⅳ(a)(b)(c)(d)(e) | 5(各1) | ベトナム語総合 (各2単位)<br>＊3年・4年各年次に4単位を超えて修得した場合は、自由選択科目となる | | | | | | | | 8 | 28単位 | 30 |
| | | 2年への進級基準:10単位のうち8単位修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3年への進級基準:ベトナム語基礎Ⅰ,Ⅱ(10単位)およびベトナム語基礎Ⅲ,Ⅳのうち8単位修得(合計18単位) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | | | | | | | | | ベトナム語応用Ⅰ・ベトナム語応用Ⅱ (各2単位)<br>＊2単位を超えて修得した場合は、自由選択科目となる | | | | | | | | 2 | 2単位 | |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 12 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から4科目8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、又は体育・スポーツを修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | |
| 研究科目 | 専攻指定 必修 | アジア研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 4単位 | 34 |
| | | ベトナム研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | 専攻指定 選択必修 | | | | | ベトナムの民族・地理 | | | | | | | | | | | | 2 | 6単位 10単位 | |
| | | | | | | ベトナムの歴史 | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | | | | | ベトナムの文化・芸術 | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | | | | | ベトナムの宗教・社会 | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | | | | | ベトナムの政治・経済Ⅰ | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | | | | | ベトナムの政治・経済Ⅱ | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | コース指定 | コース指定研究科目 24単位<br>(自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。<br>なお学科・専攻指定選択必修科目を指定の単位数を超えて修得した単位のうち<br>自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。) | | | | | | | | 研究演習(ゼミ) | | | | | | | | 4 | 24単位 | |
| | | | | | | | | | | | | | | 卒業研究<br>(研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる) | | | | 4 | | |
| 自由選択科目 | | 自由選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | 22単位 | 22 |

**合計124単位**

■留年した場合の英語科目の履修について

1年次で留年した学生:英語科目の履修条件を満たした場合、翌年度にSophmore EnglishⅠ, Ⅱ(ML)およびMedia EnglishⅠ, Ⅱ(ML)を履修すること。

2年次で留年した学生:1年次、2年次の英語科目の履修条件を満たした場合、翌年度にEnglish for Multicultural Communicationを履修することができる。

## アジア言語学科 タイ語専攻

| | | 1年次 前期 授業科目 | 単位 | 1年次 後期 授業科目 | 単位 | 2年次 前期 授業科目 | 単位 | 2年次 後期 授業科目 | 単位 | 3年次 前期 授業科目 | 単位 | 3年次 後期 授業科目 | 単位 | 4年次 前期 授業科目 | 単位 | 4年次 後期 授業科目 | 単位 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語科目 | 必修 | Freshman English Ⅰ(ML) | 2 | Freshman English Ⅱ(ML) | 2 | Sophomore English Ⅰ(ML) | 2 | Sophomore English Ⅱ(ML) | 2 | English for Multicultural Communication（各4単位）<br>（アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科共通開講科目）<br>履修条件：Sophomore English Ⅰ,Ⅱ(ML)の4単位およびMedia English Ⅰ,Ⅱ(ML)の4単位<br>＊「English for Multicultural Communication」は、3年次は前期4単位、後期4単位を履修上限とする。ただし前期未修得の場合は、後期に8単位履修可。 8単位修得し終えた学生は、自由選択科目として追加履修可（上限は設けない） | | | | | | | 8 | 24単位 | 26 |
| | | アカデミック英語 Ⅰ | 2 | アカデミック英語 Ⅱ | 2 | Media English Ⅰ(ML) | 2 | Media English Ⅱ(ML) | 2 | | | | | | | | | | |
| | | ＊Freshman English Ⅰ,Ⅱ、アカデミック英語 Ⅰ,Ⅱのうち未修得科目がある場合は、翌年度に履修すること。年度を空けて履修することは認めない | | | | 履修条件：Freshman English Ⅰ,Ⅱ(ML)およびアカデミック英語 Ⅰ,Ⅱ | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | 下表から2単位を修得すること 【履修年次 1～4】<br>時事英語Ⅰ 2単位<br>時事英語Ⅱ 2単位 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準（4単位まで履修可）<br>ビジネス英語Ⅰ 2単位<br>ビジネス英語Ⅱ 2単位<br>Language Lab (ML) 1単位<br>Oral Communication 1単位<br>Effective Language Learning Course 1 1単位 ※1<br>Effective Language Learning Course 2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course 1 または Effective Learning Module 1 ※2<br>Effective Learning Module 1 1単位 ※1<br>Effective Learning Module 2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course 1 またはEffective Learning Module 1 ※2<br>TOEIC550演習（オンライン） 1単位 履修条件：TOEIC L&R 550点未満<br>TOEIC600演習 1単位 履修条件：TOEIC L&R 600点未満<br>TOEIC650演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 500点以上650点未満 ※3<br>TOEIC730演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 600点以上730点未満<br>TOEIC860演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 700点以上860点未満<br>※1：Effective Language Learning Course 1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可（重複履修不可）<br>※2：Effective Language Learning Course 2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可（重複履修可）<br>※3：TOEIC演習については、p.76自由選択科目別表3を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | |
| 地域言語科目 | 必修 | タイ語 基礎Ⅰ(a)(b)(c)(d)(e) | 5（各1） | タイ語 基礎Ⅱ(a)(b)(c)(d)(e) | 5（各1） | タイ語 基礎Ⅲ(a)(b)(c)(d)(e) | 5（各1） | タイ語 基礎Ⅳ(a)(b)(c)(d)(e) | 5（各1） | タイ語総合（各2単位）<br>＊3年・4年各年次に4単位を超えて修得した場合は、自由選択科目となる | | | | | | | | 8 | 28単位 | 30 |
| | | 2年への進級基準：10単位のうち8単位修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3年への進級基準：タイ語基礎Ⅰ,Ⅱ（10単位）およびタイ語基礎Ⅲ,Ⅳのうち8単位修得（合計18単位） | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | | | | | | | | | タイ語応用Ⅰ・タイ語応用Ⅱ（各2単位）<br>＊2単位を超えて修得した場合は、自由選択科目となる | | | | | | | | 2 | 2単位 | |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 12 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から4科目8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、又は体育・スポーツを修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | |
| 研究科目 | 専攻指定 必修 | アジア研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 4単位 | 34 |
| | | タイ研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | |
| | 専攻指定 選択必修 | タイの民族・地理 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 6単位 | 10単位 |
| | | タイの歴史 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | タイの文化・芸術 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | タイの宗教・社会 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | タイの政治・経済Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | タイの政治・経済Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | コース指定 | コース指定研究科目 24単位<br>（自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。<br>なお学科・専攻指定選択必修科目を指定の単位数を超えて修得した単位のうち<br>自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。） | | | | | | | | 研究演習（ゼミ） | | | | | | | | 4 | 24単位 | |
| | | | | | | | | | | | | | | 卒業研究<br>（研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる） | | | | 4 | | |
| 自由選択科目 | | 自由選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | 22単位 | 22 |

**合計124単位**

■留年した場合の英語科目の履修について

1年次で留年した学生：英語科目の履修条件を満たした場合、翌年度にSophmore English Ⅰ, Ⅱ(ML)およびMedia English Ⅰ, Ⅱ(ML)を履修すること。

2年次で留年した学生：1年次、2年次の英語科目の履修条件を満たした場合、翌年度にEnglish for Multicultural Communicationを履修することができる。

## イベロアメリカ言語学科 スペイン語専攻

| | | 1年次 前期 | | 1年次 後期 | | 2年次 前期 | | 2年次 後期 | | 3年次 前期 | | 3年次 後期 | | 4年次 前期 | | 4年次 後期 | | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | | |
| 英語科目 | 必修 | Freshman English (a)（CSK） | 2 | Freshman English (b)（CSK） | 2 | Sophomore English (a)（CSK） | 2 | Sophomore English (b)（CSK） | 2 | English for Multicultural Communication（各4単位）<br>（アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科共通開講科目）<br>履修条件：Freshman English(a)(b)(CSK) 4単位およびSophomore English(a)(b)(CSK)の4単位<br>＊「English for Multicultural Communication」は、3年次は前期4単位、後期4単位を履修上限とする。ただし前期未修得の場合は、後期に8単位履修可。8単位修得し終えた学生は、自由選択科目として追加履修可（上限は設けない） | | | | | 8 | 20単位 | 22 |
| | | | | | | 履修条件：Freshman English (a)(b) (CSK)4単位を修得済 | | | | | | | | | | | | | |
| | | 総合英語Ⅰ(a) | 1 | 総合英語Ⅰ (b) | 1 | 総合英語Ⅱ(a) | 1 | 総合英語Ⅱ (b) | 1 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 履修条件：総合英語Ⅰ(a)(b)2単位を修得済 | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | 以下の科目から2単位を修得すること【履修年次 1～4】<br>時事英語Ⅰ 2単位<br>時事英語Ⅱ 2単位 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準（4単位まで履修可）<br>ビジネス英語Ⅰ 2単位<br>ビジネス英語Ⅱ 2単位<br>Effective Language Learning Course1 1単位 ※1<br>Effective Language Learning Course2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course1またはEffective Learning Module1 ※2<br>Effective Learning Module 1 1単位 ※1<br>Effective Learning Module 2 1単位 履修条件：Effective Language Learning Course1またはEffective Learning Module1 ※2<br>TOEIC550演習（オンライン） 1単位 履修条件：TOEIC L&R 550点未満<br>TOEIC600演習 1単位 履修条件：TOEIC L&R 600点未満<br>TOEIC650演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 500点以上650点未満 ※3<br>TOEIC730演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 600点以上730点未満<br>TOEIC860演習 2単位 履修条件：TOEIC L&R 700点以上860点未満<br>検定試験（英語） 2～6単位<br>※1：Effective Language Learning Course1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可（重複履修不可）<br>※2：Effective Language Learning Course2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可（重複履修可）<br>※3：TOEIC演習については、p.76自由選択科目別表3を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | |
| 地域言語科目 | 必修 | スペイン語基礎Ⅰ(a) | 6 | スペイン語基礎Ⅰ(b) | 6 | スペイン語基礎Ⅱ(a) | 6 | スペイン語基礎Ⅱ(b) | 6 | | | | | | | | | 24単位 | 40 |
| | | 2年への進級基準：12単位すべて修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3年への進級基準：24単位すべて修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | | | | | | | | | 5分野のうち4分野でそれぞれ4単位以上修得すること<br>スペイン語研究Ⅰ：スペイン語研究Ⅰ-1／Ⅰ-2／Ⅰ-3／Ⅰ-4 各2単位<br>スペイン語研究Ⅱ：スペイン語研究Ⅱ-1／Ⅱ-2／Ⅱ-3／Ⅱ-4 各2単位<br>スペイン語研究Ⅲ：スペイン語研究Ⅲ-1／Ⅲ-2／Ⅲ-3／Ⅲ-4 各2単位<br>スペイン語研究Ⅳ：スペイン語研究Ⅳ-1／Ⅳ-2／Ⅳ-3／Ⅳ-4 各2単位<br>スペイン語研究Ⅴ：スペイン語研究Ⅴ-1／Ⅴ-2／Ⅴ-3／Ⅴ-4 各2単位<br>＊ 3年次のスペイン語選択必修科目は12単位を履修上限とする<br>＊ 1分野につき4単位までを選択必修科目の単位とし、それを超える修得単位は自由選択科目の単位とする | | | | | | | | | 16単位 | |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 2 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、又は体育・スポーツを修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | 10 |
| 研究科目 | 専攻指定 必修 | イベロアメリカ研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 34 |
| | 専攻指定 選択必修 | 以下の科目から8単位を取得すること<br>【履修年次 1～4】<br>スペイン文学史Ⅰ 2単位／スペイン文学史Ⅱ 2単位<br>イベリア史概論Ⅰ 2単位／イベリア史概論Ⅱ 2単位<br>ラテンアメリカ史概論Ⅰ 2単位／ラテンアメリカ史概論Ⅱ 2単位<br>【履修年次 2～4】<br>スペイン語学概論Ⅰ 2単位／スペイン語学概論Ⅱ 2単位 | | | | | | | | | | | | | | | | 8単位 | 10単位 |
| | コース指定 | コース指定研究科目 24単位<br>（自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。<br>なお学科・専攻指定選択必修科目を指定の単位数を超えて修得した単位のうち<br>自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。） | | | | | | | | | | | | 研究演習（ゼミ） 4<br>卒業研究（研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる） 4 | | | | 24単位 | |
| 自由選択科目 | | 自由選択科目 | | | | | | | | 【履修年次 3～4】<br>ポルトガル語特講Ⅰ(a)(スペイン語専攻) 2単位<br>ポルトガル語特講Ⅰ(b)(スペイン語専攻) 2単位 履修条件：ポルトガル語特講Ⅰ(a)(スペイン語専攻)を修得済みまたは右に相当するポルトガル語能力を有すること<br>ポルトガル語特講Ⅱ(a)(スペイン語専攻) 2単位 履修条件：ポルトガル語特講Ⅰ(b)(スペイン語専攻)を修得済みまたは右に相当するポルトガル語能力を有すること<br>ポルトガル語特講Ⅱ(b)(スペイン語専攻) 2単位 履修条件：ポルトガル語特講Ⅱ(a)(スペイン語専攻)を修得済みまたは右に相当するポルトガル語能力を有すること | | | | | | | | | 16単位 | 16 |

■選択外国語科目の「ポルトガル語」を履修する場合：「ポルトガル語Ⅰ」および「ポルトガル語Ⅱ」ではなく、「ポルトガル語特講Ⅰ（スペイン語専攻）」および「ポルトガル語特講Ⅱ（スペイン語専攻）」を履修しなければならない。

**合計124単位**

## イベロアメリカ言語学科 ブラジル・ポルトガル語専攻

| | | 1年次 前期 授業科目 | 単位 | 1年次 後期 授業科目 | 単位 | 2年次 前期 授業科目 | 単位 | 2年次 後期 授業科目 | 単位 | 3年次 前期 授業科目 | 単位 | 3年次 後期 授業科目 | 単位 | 4年次 前期 授業科目 | 単位 | 4年次 後期 授業科目 | 単位 | 卒業要件単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語科目 | 必修 | Freshman English Ⅰ(ML) | 2 | Freshman English Ⅱ(ML) | 2 | Sophomore English Ⅰ(ML) | 2 | Sophomore English Ⅱ(ML) | 2 | English for Multicultural Communication(各4単位)<br>(アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科共通開講科目)<br>履修条件:Sophomore EnglishⅠ,Ⅱ(ML)の4単位およびMedia EnglishⅠ,Ⅱ(ML)の4単位<br>＊「English for Multicultural Communication」は、3年次は前期4単位、後期4単位を履修上限とする。ただし前期未修得の場合は、後期に8単位履修可。 8単位修得し終えた学生は、自由選択科目として追加履修可(上限は設けない) | | | | 8 | | | 24単位 | 26 |
| | | アカデミック英語 Ⅰ | 2 | アカデミック英語 Ⅱ | 2 | Media English Ⅰ(ML) | 2 | Media English Ⅱ(ML) | 2 | | | | | | | | | | |
| | | ＊FreshmanEnglishⅠ,Ⅱ、アカデミック英語Ⅰ,Ⅱのうち未修得科目がある場合は、翌年度に履修すること。年度を空けて履修することは認めない | | | | 履修条件:Freshman EnglishⅠ,Ⅱ(ML)およびアカデミック英語Ⅰ,Ⅱ | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | 下表から2単位を修得すること 【履修年次 1～4】<br>時事英語Ⅰ 2単位<br>時事英語Ⅱ 2単位 履修条件:時事英語ⅠまたはC基準(4単位まで履修可)<br>ビジネス英語Ⅰ 2単位<br>ビジネス英語Ⅱ 2単位<br>Language Lab(ML) 1単位<br>Oral Communication 1単位<br>Effective Language Learning Course 1 1単位 ※1<br>Effective Language Learning Course 2 1単位 履修条件:Effective Language Learning Course 1 または Effective Learning Module 1 ※2<br>Effective Learning Module 1 1単位 ※1<br>Effective Learning Module 2 1単位 履修条件:Effective Language Learning Course 1 またはEffective Learning Module 1 ※2<br>TOEIC550演習(オンライン) 1単位 履修条件:TOEIC L&R 550点未満<br>TOEIC600演習 1単位 履修条件:TOEIC L&R 600点未満<br>TOEIC650演習 2単位 履修条件:TOEIC L&R 500点以上650点未満 ※3<br>TOEIC730演習 2単位 履修条件:TOEIC L&R 600点以上730点未満<br>TOEIC860演習 2単位 履修条件:TOEIC L&R 700点以上860点未満<br>※1:Effective Language Learning Course 1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可(重複履修不可)<br>※2:Effective Language Learning Course 2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可(重複履修不可)<br>※3:TOEIC演習については、p.76自由選択科目別表3を参照 | | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | |
| 地域言語科目 | 必修 | ポルトガル語基礎会話Ⅰ | 2 | ポルトガル語基礎会話Ⅱ | 2 | ポルトガル語基礎会話Ⅲ | 2 | ポルトガル語基礎会話Ⅳ | 2 | ポルトガル語応用Ⅰ | 2 | ポルトガル語応用Ⅱ | 2 | | | | | 22単位 | 30 |
| | | ポルトガル語基礎文法Ⅰ | 2 | ポルトガル語基礎文法Ⅱ | 2 | ポルトガル語基礎文法Ⅲ | 1 | ポルトガル語基礎文法Ⅳ | 1 | | | | | | | | | | |
| | | ポルトガル語基礎講読Ⅰ | 1 | ポルトガル語基礎講読Ⅱ | 1 | ポルトガル語基礎講読Ⅲ | 1 | ポルトガル語基礎講読Ⅳ | 1 | | | | | | | | | | |
| | | 2年への進級基準:10単位のうち8単位修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3年への進級基準:1年次の10単位すべてと2年次の8単位のうち6単位修得(合計16単位) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | 下表から「ポルトガル語総合」1科目2単位を含む8単位を修得すること<br>ポルトガル語総合 各2単位 複数クラス8単位まで履修可 少なくとも1科目2単位を4年次で修得すること<br>スペイン語特講Ⅰ(a)(ブラジル・ポルトガル語専攻) 2単位<br>スペイン語特講Ⅰ(b)(ブラジル・ポルトガル語専攻) 2単位 履修条件:スペイン語特講Ⅰ(a)(ブラジル・ポルトガル語専攻)を修得済み、またはこれに相当するスペイン語能力を有すること<br>スペイン語特講Ⅱ(a)(ブラジル・ポルトガル語専攻) 2単位 履修条件:スペイン語特講Ⅰ(b)(ブラジル・ポルトガル語専攻)を修得済み、またはこれに相当するスペイン語能力を有すること<br>スペイン語特講Ⅱ(b)(ブラジル・ポルトガル語専攻) 2単位 履修条件:スペイン語特講Ⅱ(a)(ブラジル・ポルトガル語専攻)を修得済み、またはこれに相当するスペイン語能力を有すること | | | | | | | | | | | | | | | | | 8単位 | |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 2 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から4科目8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、又は体育・スポーツを修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | 10 |
| 研究科目 | 専攻指定 必修 | イベロアメリカ研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 4単位 | 34 |
| | | ブラジル研究入門 ＊早い学年での履修を推奨する | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | 専攻指定 選択必修 | ブラジルの民族・地理 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 6単位 | 10単位 |
| | | ブラジルの歴史 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | ブラジルの文化・芸術 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | ブラジルの宗教・社会 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | ブラジルの政治・経済Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | ブラジルの政治・経済Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | ポルトガル語圏の世界 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | ポルトガル語学概論Ⅰ | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | ポルトガル語学概論Ⅱ | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| | コース指定 | コース指定研究科目 24単位<br>(自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。<br>なお学科・専攻指定選択必修科目を指定の単位数を超えて修得した単位のうち<br>自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。) | | | | | | | | 研究演習(ゼミ) | | | | | | | 4 | 24単位 | |
| | | | | | | | | | | | | | | 卒業研究<br>(研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる) | | | 4 | | |
| 自由選択科目 | | 自由選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | 22単位 | 22 |

■留年した場合の英語科目の履修について

1年次で留年した学生:英語科目の履修条件を満たした場合、翌年度にSophmore EnglishⅠ, Ⅱ(ML)およびMedia EnglishⅠ, Ⅱ(ML)を履修すること。

2年次で留年した学生:1年次、2年次の英語科目の履修条件を満たした場合、翌年度にEnglish for Multicultural Communicationを履修することができる。

**合計124単位**

## IC学科 国際コミュニケーション専攻

| | | 1年次 前期 授業科目 | 単位 | 1年次 後期 授業科目 | 単位 | 2年次 前期 授業科目 | 単位 | 2年次 後期 授業科目 | 単位 | 3年次 前期 授業科目 | 単位 | 3年次 後期 授業科目 | 単位 | 4年次 前期 授業科目 | 単位 | 4年次 後期 授業科目 | 単位 | 卒業要件 単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語科目 | 必修 | English for International Communication Ⅰ(a) | 4 | English for International Communication Ⅰ(b) | 4 | English for International Communication Ⅱ(a) | 2 | English for International Communication Ⅱ(b) | 2 | English for International Communication Ⅲ（各4単位）<br>*3年次は、前期4単位、後期4単位を履修上限とする<br>（ただし前期未修得の場合のみ、後期に8単位履修可）<br>*16単位まで履修可 | | | | | | | | 12 | 40単位 | 44 |
| | | Reading/Writing Ⅰ | 4 | Reading/Writing Ⅱ | 4 | Media English Ⅰ | 2 | Media English Ⅱ | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 2年への進級基準：16単位のうち12単位以上修得 | | | | Advanced Reading Ⅰ | 2 | Advanced Reading Ⅱ | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 3年への進級基準：28単位のうち22単位以上修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | 下表から4単位を修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | 4単位 | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 時事英語Ⅰ | 2 | 単位 | | |
| 時事英語Ⅱ | 2 | 単位 | 履修条件：時事英語ⅠまたはC基準 | |
| ビジネス英語Ⅰ | 2 | 単位 | | |
| ビジネス英語Ⅱ | 2 | 単位 | | |
| TOEIC550演習（オンライン） | 1 | 単位 | 履修条件：TOEIC L&R 550点未満 1年次のみ履修可 | ※1 |
| TOEIC600演習 | 1 | 単位 | 履修条件：TOEIC L&R 600点未満 1年次のみ履修可 | |
| TOEIC730演習 | 2 | 単位 | 履修条件：TOEIC L&R 600点以上730点未満 | |
| TOEIC860演習 | 2 | 単位 | 履修条件：TOEIC L&R 700点以上860点未満 | |
| TOEFL iBT68演習 | 2 | 単位 | 履修条件：TOEFL C基準（ITP480，iBT54）以上<br>B基準（ITP520，iBT68）未満 | |
| TOEFL iBT80演習 | 2 | 単位 | 履修条件：TOEFL B基準（ITP520，iBT68）以上iBT80未満 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| Effective Language Learning Course1 | 1 | 単位 | ※2 |
| Effective Language Learning Course2 | 1 | 単位 | 履修条件：Effective Language Learning Course1<br>もしくはEffective Learning Module1 ※3 |
| Effective Learning Module1 | 1 | 単位 | ※2 |
| Effective Learning Module2 | 1 | 単位 | 履修条件：Effective Language Learning Course1<br>もしくはEffective Learning Module1 ※3 |

※1：TOEIC演習及びTOEFL演習については、p.76～77自由選択科目別表3を参照
※2：Effective Language Learning Course1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可（重複履修不可）
※3：Effective Language Learning Course2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可（重複履修可）

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 選択外国語科目 | 選択必修 | 選択外国語Ⅰ(a)/(b)（各2単位）を同じ言語で4単位。どの学年で履修しても良いが2年次の履修が望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | 4単位 | 4 |
| 特別演習科目 | 必修 | 国際コミュニケーション入門 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 8単位 | 8 |
| | | 情報リテラシー演習Ⅰ | 2 | 情報リテラシー演習Ⅱ | 2 | TOEIC演習(IC)＊ | 2 | *履修対象：1年次TOEIC L&R スコアが650点未満の者<br>*履修免除：TOEIC L&R 650点以上の者は履修免除、他の科目で2単位充当すること | | | | | | | | | | | |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 2 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から4科目8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、または体育・スポーツを修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | 10 |

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 研究科目 | 専攻指定 | 必修 | コミュニケーション論Ⅰ | 2 | 4単位 | 8単位 | 32 | | |
| | | | 異文化コミュニケーション論Ⅰ | 2 | | | | | |
| | | 選択必修A群 | 国際関係論Ⅰ、国際関係論Ⅱ、国際関係史Ⅰ、国際関係史Ⅱ、国際社会が見えてくる の中から2単位を修得すること | 各2 | 2単位 | | | | |
| | | 選択必修B群 | 日本近代史、日本現代史、日本文化論Ⅰ の中から2単位を修得すること | 各2 | 2単位 | | | | |
| | コース指定 | コース指定研究科目 24単位<br>（自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。<br>なお学科・専攻指定選択必修科目の各群で指定の単位数を超えて修得した単位のうち<br>自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。） | 研究演習（ゼミ） | 4 | 24単位 | | | | |
| | | | 卒業研究<br>（研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる） | 4 | | | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 自由選択科目 | 自由選択科目 | 24単位 | 24 |

**合計124単位**

## IC 専攻留学生

| | | | 1年次 前期 | | 1年次 後期 | | 2年次 前期 | | 2年次 後期 | | 3年次 前期 | | 3年次 後期 | | 4年次 前期 | | 4年次 後期 | | 卒業要件単位数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | 授業科目 | 単位 | | | |
| 外国語科目 | 日本語科目 | 必修 | 日本語特別演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 10 | 36 |
| | | 選択必修 A群 | 日本語チュートリアルⅠ | 1 | 日本語チュートリアルⅡ | 1 | ※日本語チュートリアルⅠ/Ⅱは1年次のみ履修可 | | | | | | | | | | | | 6単位 | | |
| | | | 日本語総合講座Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ/Ⅴ | | | | | | | | | | | | | | | | 各2 | | |
| | | | | | | | | | 日本語表現演習 | | | | | | | | | | 2 | | |
| | | | ※6単位を超える修得単位は、英語・日本語 選択科目の単位とする。14単位まで履修可。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 選択必修 B群 | | | | | | | | | ビジネス日本語Ⅰ/Ⅱ から2単位以上　※2単位を超える修得単位は、英語・日本語選択科目の単位とする。4単位まで履修可。 | | | | | | | | 各2 | 2単位 | |
| | 英語科目 | 英語能力判定試験結果に応じる EIS・A | 必修 | Guided Independent Study Ⅰ | 1 | Guided Independent Study Ⅱ | 1 | Intermediate English Ⅰ | 2 | Intermediate English Ⅱ | 2 | | | | | | | | 10単位 | 16 | |
| | | | | | | | | Academic Writing Ⅰ | 2 | Academic Writing Ⅱ | 2 | | | | | | | | | | |
| | | | 選択必修 | Basic English Ⅰ(☆) | 4 | Basic English Ⅱ(☆) | 4 | Guided Independent Study Ⅲ (*1) | 1 | Guided Independent Study Ⅳ (*1) | 1 | Oral Communication Ⅰ(EIS) | 2 | Oral Communication Ⅱ(EIS) | 2 | ※6単位を超える修得単位は、英語・日本語選択科目の単位とする。18単位まで履修可。 | | | 6単位 | | |
| | | | (☆) 指定された学生は必修 | | | | | | | | Communicative Grammar Ⅰ (EIS) | 2 | Communicative Grammar Ⅱ (EIS) | 2 | | | | | | | |
| | | EIS・B | 必修 | Guided Independent Study Ⅰ | 1 | Guided Independent Study Ⅱ | 1 | (*1)履修条件:Intermediate English Ⅰおよび Ⅱ。3～4年次も履修可 | | | | | | | | | | | 10単位 | | |
| | | | | Intermediate English Ⅰ | 2 | Intermediate English Ⅱ | 2 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | Academic Writing Ⅰ | 2 | Academic Writing Ⅱ | 2 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 選択必修 | | | | | Guided Independent Study Ⅲ (*1) | 1 | Guided Independent Study Ⅳ (*1) | 1 | ※6単位を超える修得単位は、英語・日本語科目選択科目の単位とする。10単位まで履修可。 | | | | | | | 6単位 | | |
| | | | | | | | | Oral Communication Ⅰ(EIS) | 2 | Oral Communication Ⅱ(EIS) | 2 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | Communicative Grammar Ⅰ (EIS) | 2 | Communicative Grammar Ⅱ (EIS) | 2 | | | | | | | | | | |
| | | EIC | 必修 | English for International Communication Ⅰ(a) | 4 | English for International Communication Ⅰ(b) | 4 | | | | | | | | | | | | 16単位 | | |
| | | | | Reading/Writing Ⅰ | 4 | Reading/Writing Ⅱ | 4 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 英語・日本語選択科目 | EIS・AとB/EIC共通 | 選択 | ※履修者は3科目全てを同時履修すること | | | | English for International Communication Ⅱ(a) | 2 | English for International Communication Ⅱ(b) | 2 | English for International Communication Ⅲ(各4単位) | | | | | | | | 10 | |
| | | | | | | | | Media English Ⅰ | 2 | Media English Ⅱ | 2 | *前期4単位、後期4単位を履修上限とする。 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | Advanced Reading Ⅰ | 2 | Advanced Reading Ⅱ | 2 | *16単位まで履修可 | | | | | | | | | |

【履修年次　1～4】

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 時事英語Ⅰ | 2単位 | 履修条件:EISの学生は、Intermediate English Ⅰ、Ⅱ | TOEFL ITP480演習 | 1単位 | 履修条件:TOEFL ITP480演習未修得 | TOEIC550演習(オンライン) | 1単位 | 履修条件:TOEIC L&R 550点未満 |
| 時事英語Ⅱ | 2単位 | 履修条件:時事英語ⅠまたはC基準 (4単位まで履修可) | TOEFL ITP520演習 | 1単位 | 履修条件:TOEFL C基準(ITP480, iBT54)以上B基準(ITP520, iBT68)未満 | TOEIC600演習 | 1単位 | 履修条件:TOEIC L&R 600点未満 |
| ビジネス英語Ⅰ | 2単位 | 履修条件:EISの学生は、Intermediate English Ⅰ、Ⅱ | TOEFL ITP550演習 | 1単位 | 履修条件:TOEFL B基準(ITP520, iBT68)以上A基準(ITP550, iBT79)未満 | TOEIC650演習 | 2単位 | 履修条件:TOEIC L&R 500点以上650点未満 |
| ビジネス英語Ⅱ | 2単位 | 履修条件:EISの学生は、Intermediate English Ⅰ、Ⅱ | TOEFL iBT68演習 | 2単位 | 履修条件:TOEFL C基準(ITP480, iBT54)以上B基準(ITP520, iBT68)未満 | TOEIC730演習 | 2単位 | 履修条件:TOEIC L&R 600点以上730点未満 |
| Effective Language Learning Course1 | 1単位 | ※1 | TOEFL iBT80演習 | 2単位 | 履修条件:TOEFL B基準(ITP520, iBT68)以上 iBT80未満 | TOEIC860演習 | 2単位 | 履修条件:TOEIC L&R 700点以上860点未満 |
| Effective Language Learning Course2 | 1単位 | 履修条件:Effective Language Learning Course1 またはEffective Learning Module1 ※2 | | | | 検定試験(英語) | 2～4単位 | 詳しくは「自由選択科目 別表2」 検定試験(英語)を参照 |
| Effective Learning Module 1 | 1単位 | ※1 | | | | | | |
| Effective Learning Module 2 | 1単位 | 履修条件:Effective Language Learning Course1 またはEffective Learning Module1 ※2 | | | | | | |

※1:Effective Language Learning Course1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可(重複履修不可)
※2:Effective Language Learning Course2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可(重複履修可)

◎ TOEFL演習、TOEIC演習については、p.76～77自由選択科目別表3を参照

【検定試験(日本語)】
- 日本語能力試験N1(160～180点)
- BJTビジネス日本語能力テストJ1レベル(530～599点)
- J.TEST実用日本語検定　B級(800点以上)

} いずれか1つ 2 単位

- BJTビジネス日本語能力テストJ1+レベル(600～800点)
- J.TEST実用日本語検定　A級(900点以上)

} いずれか1つ 4 単位

※検定試験(日本語)は上限4単位までを修得単位として認め、英語・日本語選択科目の単位とする

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 特別演習科目 | 必修 | 国際コミュニケーション入門 | 2 | | | 6単位 | 6 |
| | | 情報リテラシー演習Ⅰ | 2 | 情報リテラシー演習Ⅱ | 2 | | |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | 2単位 | 2 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から4科目8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、または体育・スポーツを修得すること | | | | 10単位 | 10 |
| 研究科目 | 専攻指定 必修 | コミュニケーション論Ⅰ | 2 | | | 4単位 | 8単位 | 32 |
| | | 異文化コミュニケーション論Ⅰ | 2 | | | | |
| | 専攻指定 選択必修 A群 | 国際関係論Ⅰ、国際関係論Ⅱ、国際関係史Ⅰ、国際関係史Ⅱ、国際社会が見えてくる　の中から2単位を修得すること | 各2 | | | 2単位 | |
| | 専攻指定 選択必修 B群 | 日本近代史、日本現代史、日本文化論Ⅰ　の中から2単位を修得すること | 各2 | | | 2単位 | |
| | コース指定 | コース指定研究科目　24単位<br>(自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。<br>なお学科・専攻指定選択必修科目の各群で指定の単位数を超えて修得した単位のうち<br>自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。) | 研究演習(ゼミ) | 4 | | 24単位 | |
| | | | 卒業研究<br>(研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる) | 4 | | | |
| 自由選択科目 | | 自由選択科目 | | | | 38単位 | 38 |

■留学生は入学時の英語能力判定試験の結果により EIS・Aクラス、EIS・Bクラス、EICクラスのいずれかを指定されます。

**合計124単位**

■EIS:English for International Students は留学生のための英語クラス、EIC:English for International Communication は一般学生(IC専攻)の英語クラスです。

■外国語科目の卒業要件は36単位。「英語科目」16単位、「日本語科目」10単位は必ず履修すること。残り10単位は、「英語科目」「日本語科目」「英語・日本語選択科目」の中から自由に選択してよい。

■「英語科目」および「日本語科目」の選択必修科目修得単位数が指定単位数を超えた場合は「英語・日本語選択科目」の単位とする。 また、外国語科目の修得単位数が卒業要件の36単位を超えた場合は「自由選択科目」の単位とする。

■卒業要件にTOEICの得点基準は設けない。

| IC学科 国際ビジネスキャリア専攻 | | 1年次 前期 授業科目 | 単位 | 1年次 後期 授業科目 | 単位 | 2年次 前期 授業科目 | 単位 | 2年次 後期 授業科目 | 単位 | 3年次 前期 授業科目 | 単位 | 3年次 後期 授業科目 | 単位 | 4年次 前期 授業科目 | 単位 | 4年次 後期 授業科目 | 単位 | 卒業要件 単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 英語科目 | 必修 | English for International Communication Ⅰ(a) | 4 | English for International Communication Ⅰ(b) | 4 | English for International Communication Ⅱ(a) | 2 | English for International Communication Ⅱ(b) | 2 | English for International Communication Ⅲ(IBC) ※クラス指定(前期または後期、同内容) | 4 | | | | | | | 32単位 | 40 |
| | | Reading/Writing Ⅰ | 4 | Reading/Writing Ⅱ | 4 | Media English Ⅰ | 2 | Media English Ⅱ | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 2年への進級基準:16単位のうち12単位以上修得 | | | | Advanced Reading Ⅰ | 2 | Advanced Reading Ⅱ | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 3年への進級基準:28単位のうち22単位以上修得 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 選択必修 | ※ビジネス英語Ⅰ,Ⅱ及び English for International Communication Ⅲの中から4単位以上を含み、下表の科目と合わせて8単位を修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | 8単位 | |
| | | ビジネス英語Ⅰ *どの学年で取っても良い | 2 | ビジネス英語Ⅱ *どの学年で取っても良い | 2 | | | | | English for International Communication Ⅲ (English for International Communication Ⅲ(IBC)とは別科目) | 4 | | | | | | | | |
| | | 【履修年次 1～4】 時事英語Ⅰ 2単位 / 時事英語Ⅱ 2単位 履修条件:時事英語ⅠまたはC基準 / TOEIC550演習(オンライン) 1単位 履修条件:TOEIC L&R 550点未満 1年次のみ履修可 / TOEIC600演習 1単位 履修条件:TOEIC L&R 600点未満 1年次のみ履修可 / TOEIC730演習 2単位 履修条件:TOEIC L&R 600点以上730点未満 / TOEIC860演習 2単位 履修条件:TOEIC L&R 700点以上860点未満 ※1 / TOEFL iBT68演習 2単位 履修条件:TOEFL C基準(ITP480, iBT54)以上 B基準(ITP520, iBT68)未満 / TOEFL iBT80演習 2単位 履修条件:TOEFL B基準(ITP520, iBT68)以上 iBT80未満 | | | | | | | | | Effective Language Learning Course1 1単位 ※2 / Effective Language Learning Course2 1単位 履修条件:Effective Language Learning Course1 もしくはEffective Learning Module1 ※3 / Effective Learning Module1 1単位 ※2 / Effective Learning Module2 1単位 履修条件:Effective Language Learning Course1 もしくはEffective Learning Module1 ※3 | 4 | | | | | | | | |
| | | ※1:TOEIC演習及びTOEFL演習については、p.76～77自由選択科目別表3を参照 ※2:Effective Language Learning Course1、Effective Learning Module 1のいずれか1科目のみ履修可(重複履修不可) ※3:Effective Language Learning Course2、Effective Learning Module 2のいずれか1科目のみ履修可(重複履修可) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 選択外国語科目 | 必修 | 選択外国語Ⅰ(a)(2単位) ※履修前に英語履修基準のB基準以上に達していることが望ましい。どの学年で履修しても良いが3年次からの履修が望ましい。 | | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 2 |
| 特別演習科目 | 必修 | 情報リテラシー演習Ⅰ | 2 | 情報リテラシー演習Ⅱ | 2 | ビジネスリサーチ演習Ⅰ | 2 | ビジネスリサーチ演習Ⅱ | 2 | | | | | | | | | 16単位 | 16 |
| | | | | キャリア研究基礎 | 2 | 企業インターンシップⅠ *2年夏期実習、報告書提出 | 2 | 企業インターンシップⅡ *2年春期または3年夏期実習、報告書提出 | 2 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | TOEIC演習(IC) *1 | 2 | *1履修対象:1年次TOEIC L&R スコアが650点未満の者 *1履修免除:TOEIC L&R 650点以上の者は履修免除、他の科目で2単位充当すること | | | | | | | | | | |
| 導入科目 | 必修 | 基礎演習 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2単位 | 2 |
| 教養科目 | 選択必修 | 講義系科目から4科目8単位を修得し、残りの2単位は講義系科目、又は体育・スポーツを修得すること | | | | | | | | | | | | | | | | 10単位 | 10 |
| 研究科目 | 専攻指定 必修 | | | | | 企業研究Ⅰ | 2 | 企業研究Ⅱ | 2 | | | | | | | | | 8単位 | 38 |
| | | | | | | 簿記会計Ⅰ | 2 | 簿記会計Ⅱ | 2 | | | | | | | | | | |
| | 専攻指定 選択必修 | 下表から6単位を修得すること(学期ごとに1科目のみ履修可) 【履修年次 1～4】 国際経営論Ⅰ 2単位 / 【履修年次 3～4】 マーケティングリサーチ 2単位 / アントレプレナーシップ論 2単位 / 企業行動論Ⅰ 2単位 / 企業行動論Ⅱ 2単位 / Leadership Communication Ⅰ 2単位 (前期・後期同内容で開講) / Leadership Communication Ⅱ 2単位 (前期・後期同内容で開講) | | | | | | | | | | | | | | | | 6単位 | 14単位 |
| | コース指定 | コース指定研究科目 24単位 (自分の所属する研究コースの科目を24単位修得すること。 なお学科・専攻指定選択必修科目を指定の単位数を超えて修得した単位のうち 自分の所属する研究コースに指定されている科目はこれに含めることができる。) | | | | | | | | 研究演習(ゼミ) | 4 | | | | | | | 24単位 | |
| | | | | | | | | | | 卒業研究 (研究演習・卒業研究の修得単位は合計8単位までコース指定研究科目になり、超過分は自由選択科目となる) | 4 | | | | | | | | |
| 自由選択科目 | | 自由選択科目 | | | | | | | | | | | | | | | | 16単位 | 16 |

**合計124単位**

# Ⅶ　授業科目について

## 1．外国語学部のカリキュラム・ポリシー（教育課程に関する方針）

神田外語大学では、建学の理念に基づき、高度の外国語運用能力を涵養すると共に、専攻言語圏の様々な事柄に対する知識を教授することで、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる人材の育成を教育の目標としています。

・授業科目は、外国語科目、特別演習科目、導入科目、教養科目、研究科目、研究演習、卒業研究及び自由選択科目に区分され、これらを適切な年次に配当することによって、「言葉」と「文化」の両面について、バランス良く、また体系的に学習できるカリキュラムを構成しています。

・外国語教育に関しては、各専攻言語に具体的な到達目標を設定し、「読む・書く・話す・聞く」の４技能を総合的に駆使することのできる言語運用能力の養成を目指しています。これに加え、通訳・翻訳・討論・スピーチやプレゼンテーションの訓練を取り入れる等、高度で実践的な専攻言語の運用能力を養成するための教育課程を編成しています。

・今日の国際社会における使用言語としての英語の役割を重視し、英語以外の言語を専攻している学生に対し、英語科目を必修とし、あわせて具体的な到達目標を設定しています。これにより、専攻言語に加え、英語の実践的な運用能力の養成も図ります。

・言語の背景にある歴史・文化・社会・経済等の教育については、研究科目や研究演習の他、体系的かつ学際的に学習できるように、研究コースを設置しています。様々な知識を系統立って修得させ、より豊かな教養を身につけさせるために、研究コースの修了を卒業要件の一つとしています。

## 2．履修上の注意

イ．授業科目の履修にあたっては、履修年次に注意してください。
「履修年次」欄の「１～４」という表記は、１年次から４年次までの間にいつでも履修できるということを示しています。「１～２」「２～４」「３～４」についても同様です。

ロ．必修・選択必修について十分注意してください。

ハ．履修条件を設けている授業科目があるので、科目表及びシラバスで確認してください。なお語学検定試験のスコアを用いた履修基準については、以下の表を参照して下さい。

| | TOEIC® L&R ※ | TOEFL® iBT | TOEFL® ITP | IELTS | 実用英語技能検定 |
|---|---|---|---|---|---|
| A基準 | 730 | 79 | 550 | 6.0 | 準１級１次試験合格 |
| B基準 | 650 | 68 | 520 | 5.5 | |
| C基準 | 600 | 54 | 480 | 4.5 | |

※　TOEIC L&R IPを含みます。

前ページまでの折り込み表は、各学科・専攻別のカリキュラムをまとめたものです。履修にあたっては、自身の学科・専攻のカリキュラム表と、「４.授業科目の紹介」を参照してください。

## 3．科目ナンバリングについて

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付して分類し、学習段階や順序を整理し、教育課程をより体系的に理解するためのツールです。履修科目を選択する際などに活用してください。

### ⑴ 科目ナンバリングの付番原則

例）Freshman English(a)－１　ENG11501

| ＥＮＧ | １ | １５ | ０１ |
|---|---|---|---|
| ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 科目区分 | 授業レベル | 科目コード | クラス番号 |

### ⑵ コードの詳細

⑵－１．科目区分コード

| 科　目　群 | 科　目　区　分　コ　ー　ド |
|---|---|
| 英　語　科　目 | ENG |
| 地 域 言 語 科 目 | 各言語の国コード３桁（JISコード） |
| 選 択 外 国 語 科 目 | ElectiveのE＋各言語の国コード２桁（JISコード） |
| 導　入　科　目 | 研究分野により付与 |
| 教　養　科　目 | |
| 研　究　科　目 | |
| 研　究　演　習 | SEM |
| 卒　業　研　究 | GRR |

⑵－２．授業レベル

| コード | レ ベ ル | 受講に必要な能力 | 身に付く能力 | 科　目　群 |
|---|---|---|---|---|
| 0 | 設定　なし | | | |
| 1 | 入門 | 予備知識を必要としない科目群 | 各科目や大学としての学びの第一段階としての力がつく | 概論系の科目 |
| 2 | 初級 | 基礎的な素養を持っていることを前提とする科目群 | 専門知識の修得に必要となる基礎的な力がつく | 総論系、概論系の科目 |
| 3 | 中級 | 各分野での基礎的な知識を必要とする科目群 | 専門知識を修得することができる | 各論系、特論系の科目 |
| 4 | 上級 | 各分野での専門的な知識が必要な科目群 | 高い専門性や応用力を養い、発信力が身につく | 専門的、応用的な科目 |

## 4．授業科目の紹介

### ⑴ 外国語科目

外国語科目（各学科の英語必修科目及びアジア言語学科・イベロアメリカ言語学科の地域言語科目）は、他学科の学生は履修できません。

【英米語学科　英語科目分野　選択必修科目　TOEFL演習】

＜履修についての注意＞

英語科目分野のうち選択必修科目は、あらかじめ決められた科目群から２単位以上を修得することが必要ですが、このうち１単位は必ず「TOEFL ITP 480演習」で修得してください。

「TOEFL演習」は、他の科目と同様に前期または後期の決められた期間に履修登録した上で、①授業に出席し、②課題の提出等を行い、③TOEFL ITPまたはTOEFL iBTを受験してそれぞれのレベルで目標とするスコアを取得することで単位を修得する科目です。

TOEFL演習　※英米語学科以外の学生が履修する場合はp.77自由選択科目別表３を参照してください。

| 科　目　名 | 履修年次 | 単位数 | 履　修　条　件　・　備　考 |
|---|---|---|---|
| TOEFL ITP 480演習 | 1～4 | 1 | TOEFL C基準を目指すコース<br>TOEFL ITP 480演習未修得 |
| TOEFL ITP 520演習 | | 1 | TOEFL B基準を目指すコース<br>TOEFL C基準（ITP 480, iBT 54）以上<br>TOEFL B基準（ITP 520, iBT 68）未満<br>TOEFL iBT 68演習との同時履修可 |
| TOEFL ITP 550演習 | | 1 | TOEFL A基準を目指すコース<br>TOEFL B基準（ITP 520, iBT 68）以上<br>TOEFL A基準（ITP 550, iBT 79）未満<br>TOEFL iBT 80演習との同時履修可 |
| TOEFL iBT 68演習 | | 2 | TOEFL iBT B基準を目指すコース<br>TOEFL C基準（ITP 480, iBT 54）以上<br>TOEFL B基準（ITP 520, iBT 68）未満<br>TOEFL ITP 520演習との同時履修可 |
| TOEFL iBT 80演習 | | 2 | TOEFL iBT 80を目指すコース<br>TOEFL ITP 520以上<br>TOEFL iBT 68以上80未満<br>TOEFL ITP 550演習との同時履修可 |

（それぞれの基準については「2. 履修上の注意」の表を参照）

英米語学科の学生は、英語科目選択必修科目の必要単位（２単位）の一部として、必ずこの科目群のうち「TOEFL ITP 480演習」（１単位）を修得しなければなりません。授業を履修したが①～③のいずれかの条件が整わず不合格の場合は、次の学期以降に再履修してください。

TOEFL ITP 480点は、英米語学科英語科目分野３～４年次の必修科目である「英語総合講座Ⅲ」および「英語専門講読」の履修基準であるTOEFL C基準を充たすスコアでもあるので、授業に真面目に取り組みできるだけ早い学年で単位を修得できるようにしてください。

＜履修上の特例措置＞

「TOEFL ITP 480演習」を履修する以前にTOEFL ITP 480点（iBT54点）以上を取得した場合は、次のように扱います。

ア．入学前に学内実施するTOEFL ITPを受験し480点以上取得した場合（入学時にスコア取得済）

１年次前期の「TOEFL ITP 480演習」（１単位）を単位認定した上で履修免除する。

英語科目選択必修科目の必要単位数は、所定の科目群からその他の科目を履修し認定済の１単位とあわせて２単位以上修得すること。

イ．入学後に受験したTOEFLテストで480点以上を取得した場合

取得したスコアは③の取得スコアとして有効とするが、英語科目選択必修科目として「TOEFL ITP 480演習」（１単位）を履修し、①、②の条件を充たして単位を修得すること。

なお、希望する場合は「TOEFL ITP 480演習」ではなく「TOEFL ITP 520演習」（１単位）または「TOEFL iBT 68演習」（２単位）を履修し、①、②、③の条件を充たして単位修得することも認める。（履修条件に注意すること）

【アジア言語学科　中国語専攻・韓国語専攻／イベロアメリカ言語学科　スペイン語専攻　英語科目】

＜必修英語科目の履修についての注意＞

イ．基本的には以下の順番で履修してください。

１年次、２年次の各科目で、もし前期(a)が修得できなかった場合でも、後期(b)を履修することができます。その場合は、未修得単位を必ず卒業までに修得しなければなりません。

| 履修年次 | | 科　目　名 | 単位数 | 履　修　条　件 |
|---|---|---|---|---|
| １年 | 前期 | Freshman English (a) (CSK) | 2 | |
| | | 総合英語Ⅰ(a) | 1 | |
| | ↓ | | | |
| | 後期 | Freshman English (b) (CSK) | 2 | |
| | | 総合英語Ⅰ(b) | 1 | |
| ↓ | | | | |
| ２年 | 前期 | Sophomore English (a) (CSK) | 2 | FE (a)及びFE (b)を修得済 |
| | | 総合英語Ⅱ(a) | 1 | 総合英語Ⅰ(a)及びⅠ(b)を修得済 |
| | ↓ | | | |
| | 後期 | Sophomore English (b) (CSK) | 2 | FE (a)及びFE (b)を修得済 |
| | | 総合英語Ⅱ(b) | 1 | 総合英語Ⅰ(a)及びⅠ(b)を修得済 |
| ↓ | | | | |
| ３年 | 前期 | English for Multicultural Communication | 4 | FE (a), FE (b)及びSE (a), SE (b)を修得済 |
| | ↓ | | | |
| | 後期 | English for Multicultural Communication | 4 | FE (a), FE (b)及びSE (a), SE (b)を修得済<br>前期に履修したクラスと内容の異なるクラスを履修 |

※本項目内での各科目の略称

Freshman English (a) (CSK) = FE (a)、Freshman English (b) (CSK) = FE (b)

Sophomore English (a) (CSK) = SE (a)、Sophomore English (b) (CSK) = SE (b)

English for Multicultural Communication = EMC

ロ．必修の英語科目のうち、EMC以外はあらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかは、後期の分も含め年度始めにCampus Web、学内掲示等で確認してください。

ハ．２・３年次に下位学年の未修得科目がある場合、あらかじめクラスが設定されていますので、指定されたクラスで履修してください。

ニ．留年し、２度目の１年生になった場合のSE・EMCの履修について

| １年前期 | １年後期 | ２度目の１年前期 | ２度目の１年後期 | ２年前期 | ２年後期 |
|---|---|---|---|---|---|
| FE (a) | FE (b) | SE (a) | SE (b) | EMC | EMC |

イ．では、Sophomore English (CSK)は基本的に２年次にならないと履修できない科目となっていますが、留年し２度目の１年生になった場合に限り、Freshman English (a) (CSK)とFreshman English (b) (CSK)を修得済みの場合、１年生でもSophomore English (CSK)は履修できることとします。また上表のように、同様のケースにおいてSophomore English (a) (CSK)とSophomore English (b) (CSK)を修得済みの場合、２年生でもEnglish for Multicultural Communicationを履修できることとします。なお、総合英語Ⅱの履修についてもこれに準じます。

ホ．英語科目が原因で卒業できないケース

３年次終了までに、最低限、以下の条件を満たさないと、４年次に必要な英語科目の履修ができず、４年間で卒業できなくなるので十分注意してください。

＜必要条件＞

３年次終了までにFE (a)・FE (b)及びSE (b)と総合英語Ⅰ(a)・総合英語Ⅰ(b)を修得していること

【全学科・専攻　英語科目分野・選択必修科目(＊)　Effective Learning Module】
＜履修についての注意＞

| 科　　目　　名 | 履修年次 | 単位数 | 備　　考 |
|---|---|---|---|
| Effective Learning Module 1 (ELM 1) | 1～4 | 1 | SALCラーニングアドバイザーのサポートを受けながら自立学習者になるための方法を学ぶコース。<br>重複履修は不可、評価は「P」 |
| Effective Learning Module 2 (ELM 2) | 1～4 | 1 | ELM 1またはELLC 1で学んだことを踏まえ、SALCラーニングアドバイザーのサポートを受けながら自分の決めた目標に取り組み、自立学習者としての力を更に伸ばすコース。<br>履修条件:ELM 1またはELLC 1を履修済みであること。<br>重複履修可、評価は「P」 |

イ．履修登録は必要ありませんが、モジュールの登録は必要です。各学期の初めに出されるCampus WebのSALCモジュールの受講に関する情報に従い、オンライン登録してください。
ロ．オンライン登録後に行われる各モジュールの説明会に必ず出席してください。
ハ．各モジュールの履修期間は1学期間です。
ニ．ELM 1とEffective Language Learning Course 1 (ELLC 1)は同時履修できません。
ホ．ELM 2とEffective Language Learning Course 2 (ELLC 2)は同時履修できません。
ヘ．履修登録上限単位数には含まれません。
(＊) 国際コミュニケーション学科留学生が履修した場合、英語・日本語選択科目となります。

### (2) 選択外国語科目

選択外国語科目は、12の言語（中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、アラビア語、ポルトガル語、ベトナム語、インドネシア語、タイ語）が開講されています。12の言語とも、Ⅰ(a)、Ⅰ(b)、Ⅱ(a)、Ⅱ(b)が設定されています。また、履修希望者の多い一部の言語にはⅢ(a)、Ⅲ(b)が設定されています。科目の詳細は以下のとおりです。

| | 難易度 | 開講期 | 授業回数 | 科目区分 | 単位数 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| Ⅰ(a) | 初級 | 前期 | 週2回 | 英米･IC学科(＊)<br>選択必修 | 各2 | ＊ IC学科IBC専攻はⅠ(a)のみ選択必修 |
| Ⅰ(b) | | 後期 | | | | |
| Ⅱ(a) | 中級 | 前期 | 週1回 | 選択 | 各1 | (a)(b)それぞれ2単位まで、最大4単位まで履修可 |
| Ⅱ(b) | | 後期 | | | | |
| Ⅲ(a) | 上級 | 前期 | | | | (a)(b)それぞれ4単位まで、最大8単位まで履修可 |
| Ⅲ(b) | | 後期 | | | | |

イ．英米語学科、国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻（留学生を除く）
次ページ表の「中国語Ⅰ」、「スペイン語Ⅰ」、「韓国語Ⅰ」、「フランス語Ⅰ」、「ドイツ語Ⅰ」、「ロシア語Ⅰ」、「イタリア語Ⅰ」、「アラビア語Ⅰ」、「ポルトガル語Ⅰ」、「ベトナム語Ⅰ」、「インドネシア語Ⅰ」、「タイ語Ⅰ」のうちから1つの外国語を選択し、必ず同じ言語でⅠ(a)、Ⅰ(b)4単位を修得しなければなりません。
ロ．国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻
次ページ表の「中国語Ⅰ」、「スペイン語Ⅰ」、「韓国語Ⅰ」、「フランス語Ⅰ」、「ドイツ語Ⅰ」、「ロシア語Ⅰ」、「イタリア語Ⅰ」、「アラビア語Ⅰ」、「ポルトガル語Ⅰ」、「ベトナム語Ⅰ」、「インドネシア語

| 授業科目の名称 | | 履修年次 | 単位数 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 選択必修※ | 選択 |
| 中国語 | 中国語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | 中国語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | 中国語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | 中国語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| | 中国語Ⅲ(a) | 3～4 | | 1～4 |
| | 中国語Ⅲ(b) | 3～4 | | 1～4 |
| スペイン語 | スペイン語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | スペイン語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | スペイン語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | スペイン語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| | スペイン語Ⅲ(a) | 3～4 | | 1～4 |
| | スペイン語Ⅲ(b) | 3～4 | | 1～4 |
| 韓国語 | 韓国語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | 韓国語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | 韓国語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | 韓国語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| | 韓国語Ⅲ(a) | 3～4 | | 1～4 |
| | 韓国語Ⅲ(b) | 3～4 | | 1～4 |
| フランス語 | フランス語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | フランス語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | フランス語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | フランス語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| | フランス語Ⅲ(a) | 3～4 | | 1～4 |
| | フランス語Ⅲ(b) | 3～4 | | 1～4 |
| ドイツ語 | ドイツ語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | ドイツ語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | ドイツ語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | ドイツ語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| | ドイツ語Ⅲ(a) | 3～4 | | 1～4 |
| | ドイツ語Ⅲ(b) | 3～4 | | 1～4 |
| ロシア語 | ロシア語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | ロシア語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | ロシア語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | ロシア語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| イタリア語 | イタリア語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | イタリア語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | イタリア語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | イタリア語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| | イタリア語Ⅲ(a) | 3～4 | | 1～4 |
| | イタリア語Ⅲ(b) | 3～4 | | 1～4 |
| アラビア語 | アラビア語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | アラビア語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | アラビア語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | アラビア語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| ポルトガル語 | ポルトガル語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | ポルトガル語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | ポルトガル語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | ポルトガル語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| ベトナム語 | ベトナム語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | ベトナム語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | ベトナム語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | ベトナム語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| インドネシア語 | インドネシア語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | インドネシア語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | インドネシア語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | インドネシア語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |
| タイ語 | タイ語Ⅰ(a) | 1～4 | 2 | |
| | タイ語Ⅰ(b) | 1～4 | 2 | |
| | タイ語Ⅱ(a) | 2～4 | | 1～2 |
| | タイ語Ⅱ(b) | 2～4 | | 1～2 |

※英米語学科、国際コミュニケーション学科が対象。詳しくは前ページのイ. 及びロ. を参照してください。

Ⅰ」、「タイ語Ⅰ」のうちから１つの外国語を選択し、Ⅰ(a)２単位を修得しなければなりません。

ハ．アジア言語学科、イベロアメリカ言語学科

選択外国語科目を修得した場合、自由選択科目となります。

卒業必修単位としての選択外国語Ⅰの履修について（前記イ．の４年生対象）

４年次前期で選択外国語Ⅰ(a)が不合格だった場合、卒業を勘案した特別措置として、後期に選択外国語Ⅰ(b)を履修することができます。該当する者は、前期と同じクラスを履修してください。

Web履修登録では、選択外国語Ⅰ(a)を修得していないと選択外国語Ⅰ(b)を登録出来ないので、履修登録期間中に教務課カウンターで登録を希望することを申し出てください。

なお、その場合のⅠ(a)の再試験については、「Ⅷ 試験及び学力評価について　８．選択外国語科目再試験」を参照してください。ただし、すべての科目で再試験が実施されるとは限りません。

ニ．選択外国語科目は、同じ外国語をⅠ(a)→Ⅰ(b)の順で履修しなくてはなりません。

① 前期に (a) を修得できなかった場合、後期に (b) を履修することはできません。この場合、次年度にまた (a) から履修します。

② 選択外国語Ⅱは、Ⅰ の続きです。Ⅱ(a)･Ⅱ(b) の履修には同じ言語のⅠ(a) 及びⅠ (b) を履修済みでなければなりません。Ⅱ(a) →Ⅱ(b) の順で履修することが望ましいですが、Ⅱ(a) を履修しなくてもⅡ(b) を履修することができます。Ⅱ(a)、Ⅱ(b) とも２単位（２回）まで履修できます。

ホ．選択外国語Ⅰは、週２回授業があります。クラスは指定されないので、各自クラスを選び、登録してください。登録希望者が多い場合は人数調整を行う場合もあります。

ヘ．選択外国語Ⅱは１単位以上、２単位まで､前･後期とも履修することができます｡クラスは指定されないので､各自クラスを選び､登録してください。登録希望者が多い場合は人数調整を行う場合もあります。

ト．同じ外国語の、ⅠとⅡを同時に履修することはできません。

チ．選択外国語Ⅲは、中国語、スペイン語、韓国語、フランス語、ドイツ語、イタリア語が開講されています。Ⅰを４単位、Ⅱ(a) を１単位以上、Ⅱ(b) を１単位以上、修得すれば履修可能です。１単位以上８単位まで履修することができます。また、Ⅲ(a)を履修しなくてもⅢ(b)を履修することができます。

リ．「トライ・外国語」

言語と文化の入門的な体験ができる「トライ・外国語」を自由選択科目として開講します。多くの場合集中講義として開講します。12の選択外国語のうち、毎年いくつかの外国語を開講しますが､「トライ・ことばと文化」として上記12の外国語以外の言語も開講することがあります。詳しくは「（９）自由選択科目」を参照してください。

ヌ．短期海外語学研修単位認定制度

① 下記の選択外国語は、海外短期語学研修の単位認定を実施しています。

「中国語」「スペイン語」「韓国語」「ベトナム語」「インドネシア語」「タイ語」「ポルトガル語」

② 下記の選択外国語は、春期及び夏期休暇中の海外短期語学研修（約４週間）について単位認定を行います。原則的に個人で申込みを行います。

「フランス語」「ドイツ語」「イタリア語」

③ 海外研修での単位認定にあたり、次の言語に関しては、下記条件のいずれかを充たしている必要があります。

対象言語：「中国語」「スペイン語」「韓国語」「ベトナム語」「インドネシア語」「フランス語」
「ドイツ語」「イタリア語」

条件：

1）当該外国語の選択外国語Ⅰ(a)（2単位）を修得済み

2）当該外国語のトライ・外国語（1単位）を修得済み

3）当該外国語の選択外国語Ⅰ(a)・Ⅰ(b) の飛び級基準を充たしている（ベトナム語を除く）

ル．選択外国語科目飛び級制度

1）下記の条件を満たしている者は、それぞれの選択外国語のⅠ(a)・Ⅰ(b)、Ⅱ (a)・Ⅱ (b) を飛ばして、Ⅱ (a)・Ⅱ (b)、Ⅲ (a)・Ⅲ (b) に飛び級履修することができます。

| | | |
|---|---|---|
| Ⅰ(a)・Ⅰ(b)<br>の<br>飛び級 | 中国語 | 中国語検定試験4級以上 |
| | スペイン語 | スペイン語技能検定6級以上、DELE A1級以上 |
| | 韓国語 | ハングル能力検定試験4級以上または韓国語能力試験2級以上 |
| | インドネシア語 | インドネシア語技能検定D級以上 |
| | ブラジル<br>・ポルトガル語 | 国際ポルトガル語検定準初級以上　または<br>ブラジル教育省による外国人のためのポルトガル語検定試験中級以上 |
| | フランス語 | 実用フランス語技能検定4級以上 |
| | ドイツ語 | ドイツ語技能検定4級以上 |
| | イタリア語 | 実用イタリア語検定4級以上 |
| | アラビア語 | 実用アラビア語検定6級以上 |

| | | |
|---|---|---|
| Ⅱ(a)・Ⅱ(b)<br>の<br>飛び級 | 中国語 | 中国語検定試験3級以上 |
| | スペイン語 | スペイン語技能検定5級以上またはDELE A2級以上 |
| | 韓国語 | ハングル能力検定試験3級以上または韓国語能力試験3級以上 |
| | フランス語 | 実用フランス語技能検定3級以上 |
| | ドイツ語 | ドイツ語技能検定3級以上 |
| | イタリア語 | 実用イタリア語検定3級以上 |

2）学生は選択外国語ⅡまたはⅢの最初の授業でスコアのコピーを持参し、担当教員から履修の許可を得て、履修することになります。

3）履修登録期間と同じ時期に、学生は飛び級の条件を満たしているスコアのコピー及び申請書を記入して教務課に提出することが必要です。

【注意】

① 飛び級するⅠまたはⅡの単位認定は行いません。

② 英米語学科及び国際コミュニケーション学科の学生は選択外国語Ⅰの飛び級履修をすることができますが、卒業要件単位（英米語学科及び国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻（留学生を除く）：選択必修4単位、国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻：選択必修2単位）は、その他の選択外国語Ⅰで修得する必要があります。

### ⑶ 特別演習科目（国際コミュニケーション学科のみ）

イ．国際コミュニケーション学科の学生は、次ページの科目表の中から決められた単位を修得しなければなりません。

ロ．特別演習科目は、国際コミュニケーション学科の学生しか履修できません。

ハ．「情報リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ」については、あらかじめクラスが設定されています。自分がどのクラスに属するかは、年度始めの掲示で確認してください。

【国際コミュニケーション専攻】

| 授業科目の名称 | 履修年次 | 単位数 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|
| 国際コミュニケーション入門 | 1 | 2 | 全8単位必修 |
| 情報リテラシー演習Ⅰ | 1 | 2 | |
| 情報リテラシー演習Ⅱ | 1 | 2 | |
| TOEIC演習（IC）★　※1 | 2 | 2 | |

【国際コミュニケーション専攻　留学生】

| 授業科目の名称 | 履修年次 | 単位数 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|
| 国際コミュニケーション入門 | 1 | 2 | 全6単位必修 |
| 情報リテラシー演習Ⅰ | 1 | 2 | |
| 情報リテラシー演習Ⅱ | 1 | 2 | |

【国際ビジネスキャリア専攻】

| 授業科目の名称 | 履修年次 | 単位数 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|
| 情報リテラシー演習Ⅰ | 1 | 2 | 全16単位必修 |
| 情報リテラシー演習Ⅱ | 1 | 2 | |
| キャリア研究基礎 | 1 | 2 | |
| TOEIC演習（IC）★　※1 | 2 | 2 | |
| ビジネスリサーチ演習Ⅰ | 2 | 2 | |
| ビジネスリサーチ演習Ⅱ | 2 | 2 | |
| 企業インターンシップⅠ　※1　※2 | 2年夏期 | 2 | |
| 企業インターンシップⅡ　※1　※2 | 2年春期又は3年夏期 | 2 | |

※1　評価は「P」

※2　学期始めの履修登録期間での履修登録手続きは不要ですが、キャリア教育センターの指導のもとに、しっかりと履修計画を立てて授業に臨んでください。

★「TOEIC演習（IC）」について

履修時期：2年次前期に履修します。あらかじめクラスが設定されています。クラス分けは年度はじめにCampus Webのあなた宛てのお知らせで通知します。

再履修について：TOEIC L&R 650点以上を取得できなかった場合には、2年次後期以降も履修を続けてください。TOEIC L&R 650点以上を取得しないと卒業要件を満たせませんので注意してください。

履修対象者:入学時ならびに入学後、1年次でTOEIC L&R公開テストまたはIP（1年次1月実施のIPのスコアまで認められます）でTOEIC L&Rスコアが650点に満たない者とします。

国際コミュニケーション専攻留学生は、「TOEIC演習（IC）」を履修することはできませんが、同一レベルの「TOEIC 650演習」を、外国語科目英語・日本語選択科目として履修することができます。

履修免除について：TOEIC L&R 650点以上を取得した場合は、同科目の履修が免除されます。ただし、この単位は認定されないので、2単位分は卒業までに他の科目の単位で充当してください。（充当する科目はどの科目でも構いません。）なお、希望し、かつ所定の手続きを行えば取得した点数に応じて「自由選択科目」の「検定試験」としての単位が認定されます（詳細は「⑼自由選択科目」別表2の「検定試験」を参照）。

### ⑷ 導入科目・教養科目

どのような分野の学問でも、ある程度学習が進んだ段階で改めて基本を見直すことが必要です。自然とは何か、社会とは何か、人間とは何か。これらの問いは、一見自明と思われるものが少し考えてみるとそれほど明確なものでないことを教えてくれます。導入科目・教養科目は、そうした趣旨から、１年から４年までかけてじっくり学ぶために設定されています。したがって、３・４年生になってから履修する方がよい場合もあります。研究科目との関係を意識しながら、履修計画を立てて下さい。

【導入科目】

| 授業科目の名称 | 履修年次 | 単位数 | | 履修条件 |
|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | |
| 基礎演習 | 1(前期) | 2 | | |
| 情報基礎Ⅰ | 1～4 | | 1 | オンライン科目：履修希望者は学期のはじめに行われる説明会に出席すること |
| 情報基礎Ⅱ | 1～4 | | 1 | |
| 日本語表現力基礎 | 1～4 | | 1 | |
| 本を読む | 1～4 | | 1 | |

イ.「基礎演習」は、大学での研究の仕方について学ぶ導入科目であり、そのために１年次前期の必修科目で、２単位を修得しなければなりません。あらかじめクラスが設定されているので、指定されたクラスで履修して下さい。

ロ.「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」および「日本語表現力基礎」は、インターネットを通じて自習する科目です。前者はPCを扱うスキルだけでなく情報を扱う際に注意すべきことがら（リテラシー）も含んでいます。また、後者は、レポート作成を主な課題とする「基礎演習」にも役立つはずです。したがってこれらの科目は、早めに履修することが望ましいものです。

ハ.「本を読む」も講義系科目とは性格を異にし、履修方法も異なります。各教員と個別に対応できる機会を利用して本の読み方を学び、大学生の間にできるだけ多くの本に親しんで下さい。

【教養科目】

| 授業科目の名称 | 履修年次 | 単位数 | | 必要単位数 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | | |
| 体育・スポーツ | 1～4 | | 1～4 | | 10単位 |
| 歴史学Ⅰ | 1～4 | | 2 | 左記の講義系科目から少なくとも4科目8単位を修得しなくてはならない | |
| 歴史学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 哲学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 哲学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 倫理学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 倫理学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 宗教学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 宗教学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 文学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 文学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 美術史学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 美術史学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 言語学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 言語学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 社会学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 社会学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 法学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 法学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 憲法Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 憲法Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 政治学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 政治学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 経済学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 経済学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 心理学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 心理学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 教育学 | 1～4 | | 2 | | |
| 経営学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 経営学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 統計学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 統計学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 生物学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 生物学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 化学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 化学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 物理学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 物理学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| 自然科学概論Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| 自然科学概論Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |

## 体育・スポーツの履修について

1．単位について

「体育･スポーツ」は、半期１種目１単位とし、４年間で最大４単位まで履修することができます。半期で１単位を超えて履修することはできません。また、同一種目を１単位を超えて履修することもできません。半期１単位（１種目）より多く履修登録をした場合、「体育･スポーツ」の履修登録が無効になります。

2．種目について

「体育・スポーツ」は、学内施設を利用して次の種目を履修することができます。

テニス、フライングディスク、卓球、フットサル、バドミントン、フィットネス、バスケットボール、ダンス、ダイエットエクササイズ、合気道、バレーボール、タッチラグビー、アドベンチャーコミュニケーションプログラム

※アドベンチャーコミュニケーションプログラムⅡは、同Ⅰを修得済の場合のみ履修可

3．履修登録について

イ．「体育・スポーツ」の履修登録は、他の授業科目と同様に行います。

履修を希望する種目の最初の授業に出席し、受講票を提出してください。授業の形態や施設の関係から人数調整を行うことがあるので、履修を希望する種目の初回授業には必ず出席し、履修が許可された種目の科目を登録してください。

ロ．第１回目の授業を実施する場所は、学内掲示板で確認してください。

### ⑸ 研究科目

研究科目は、言語研究コース／コミュニケーション研究コース／総合文化研究コース／地域・国際研究コースの４コースのいずれかに指定されています。

研究科目の卒業要件単位数は、１）学科専攻指定研究科目が８～20単位、２）コース指定研究科目が24単位です。

１）学科専攻指定研究科目（８～20単位）

学科専攻で指定されている研究科目を修得してください。

・　必修科目は全て修得してください。

・　選択必修科目は、選択必修科目の一覧から卒業要件単位数を修得してください。なお、英米語学科は、選択必修Ａ群、Ｂ群、Ｃ群に、国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻は選択必修Ａ群、Ｂ群に分かれています。各々の群から卒業に必要な単位を修得してください。

２）コース指定研究科目（24単位）

自分の所属するコース研究科目を24単位以上修得してください。

・　１）で修得した学科専攻指定研究科目に自分の所属するコースの指定研究科目が含まれている場合、修得した単位は学科専攻指定研究科目のみに加算され、コース指定研究科目の修得単位として二重に加算されることはありません。ただし、学科専攻指定研究科目の選択必修科目を卒業要件単位数を超えて修得した場合には、超過分のうち自分の所属するコース指定研究科目の単位は、コース指定研究科目に加算されます。

・　研究演習及び卒業研究を修得した場合は、修得した単位のうち合計８単位までがコース指定研究科目単位として加算されます（８単位を超えて修得した場合は自由選択科目として加算)。

**【研究科目に関する諸注意】**

イ．学科専攻指定研究科目の必修科目は、自分の所属する学科専攻科目を必ず修得すること。

ロ．学科専攻指定研究科目の選択必修科目は、一覧の中から指定単位数を修得すること。なお、学科専攻の指定単位数を超えて修得した場合はコースの種類に応じて、コース指定研究科目あるいは自由選択科目の単位とする。

・　自分の所属するコースの研究科目を指定単位数以上修得した場合：コース指定研究科目の単位

・　自分の所属するコース以外の研究科目を指定単位数以上修得した場合：自由選択科目の単位

ハ．英米語学科及び国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻の学科専攻指定研究科目の選択必修科目は群別に分類されているので、各群で指定の単位数を修得すること。

研究コース制の概要ならびに各研究コースの概要については、p.48からの【研究コース履修要項】を良く読んでください。履修について不明な点がある場合は、必ず教務課窓口で問い合わせてください。

学科専攻指定研究科目一覧

【英米語学科】

| 区　分 | 必要単位数 | 履　修　年　次 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 単位 | 履　修　条　件 | 研究コース指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 必修 | 4 | 英語学概論 | | | | 4 | | 言語 |
| 選択必修A群 | 2 | 英国研究入門Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 英国研究入門Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国研究入門Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国研究入門Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | オセアニア研究入門Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | オセアニア研究入門Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | カナダ研究入門Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | カナダ研究入門Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| 選択必修B群 | 10 | Outline of English Phonetics | | | | 4 | C基準／「Outline of English Phonetics」と「英語音声学」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 言語 |
| | | | Issues in Second Language Acquisition | | | 4 | 「第二言語習得研究」かつC基準 | 言語 |
| | | Introduction to Language and Communication | | | | 2 | | 言語 |
| | | Introduction to English Sentence Structures | | | | 2 | | 言語 |
| | | Ways of Learning English | | | | 4 | 「Ways of Learning English」と「英語習得法」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可能とする | 言語 |
| | | | Introduction to Discourse Analysis | | | 4 | 「Introduction to Discourse Analysis」と「英語談話分析」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 言語 |
| | | | Issues in Applied Linguistics | | | 4 | C基準かつ「応用言語学」又は「第二言語習得研究」 | 言語 |
| | | | Topics in Sociolinguistics | | | 4 | C基準 | 言語 |
| | | TESOL（英語教授法）海外研修 | | | | 4 | C基準 | 言語 |
| | | Public Speaking | | | | 4 | C基準 | コミュニケーション |
| | | Debate | | | | 4 | B基準 | コミュニケーション |
| | | Small Group Communication | | | | 4 | B基準 | コミュニケーション |
| | | | Theories of Translation and Interpreting | | | 4 | C基準／「Theories of Translation and Interpreting」と「通訳・翻訳理論（英語）」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | コミュニケーション |
| | | Survey of American Literature | | | | 2 | C基準／「Survey of American Literature」と「米文学史Ⅱ」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 総合文化 |
| | | Themes in American Literature | | | | 2 | C基準／「Themes in American Literature」と「米文学講義Ⅱ」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 総合文化 |
| | | The Literatures of Japan | | | | 2 | C基準 | 総合文化 |
| | | Japanese Popular Cultures | | | | 2 | C基準 | 総合文化 |
| | | History of the United States Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | History of the United States Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | Topics in Oceanian Studies | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | Topics in Canadian Studies | | | | 2 | C基準 | 地域・国際 |
| | | The History of Modern Japan | | | | 2 | C基準 | 地域・国際 |
| | | 英国文化実地研究 | | | | 4 | | 地域・国際 |
| | | 米国文化実地研究 | | | | 4 | | 地域・国際 |
| | | オセアニア文化実地研究 | | | | 4 | | 地域・国際 |
| | | カナダ文化実地研究 | | | | 4 | | 地域・国際 |
| | | マレーシア文化実地研究（英語） | | | | 4 | | 地域・国際 |

| 区　分 | 必要単位数 | 履　修　年　次 | | | | 単位 | 履　修　条　件 | 研究コース指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 選択必修C群 | 4 | 英語音声学 | | | | 4 | 「Outline of English Phonetics」と「英語音声学」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 言語 |
| | | 英語音韻論 | | | | 4 | 「英語学概論」かつ「英語音声学」又は「Outline of English Phonetics」のいずれか | 言語 |
| | | 英語統語論Ⅰ | | | | 4 | 「英語学概論」 | 言語 |
| | | 現代英文法 | | | | 4 | 「英語学概論」 | 言語 |
| | | 英語習得法 | | | | 4 | 「Ways of Learning English」と「英語習得法」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 言語 |
| | | | 第二言語習得研究 | | | 4 | 「英語学概論」 | 言語 |
| | | | 英語談話分析 | | | 4 | 「Introduction to Discourse Analysis」と「英語談話分析」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 言語 |
| | | 英日翻訳法Ⅰ | | | | 4 | B基準 | コミュニケーション |
| | | 英語通訳法Ⅰ | | | | 4 | | コミュニケーション |
| | | | 通訳・翻訳理論（英語） | | | 4 | B基準 / 「Theories of Translation and Interpreting」と「通訳・翻訳理論（英語）」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可<br>※「通訳・翻訳理論（英語）」は、対象言語が英語であることを示しているものであり、英語で行われる研究科目（B群）ではない。 | コミュニケーション |
| | | 英文学史Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 英文学史Ⅱ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 米文学史Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 米文学史Ⅱ | | | | 2 | 「Survey of American Literature」と「米文学史Ⅱ」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 総合文化 |
| | | 英文学講義Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 英文学講義Ⅱ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 米文学講義Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 米文学講義Ⅱ | | | | 2 | 「Themes in American Literature」と「米文学講義Ⅱ」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 総合文化 |
| | | 米国文化論Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 米国文化論Ⅱ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 日英比較文化論Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 日英比較文化論Ⅱ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 日米比較文化論Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 日米比較文化論Ⅱ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | 英国史概論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 英国史概論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国史概論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国史概論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国政治論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国政治論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国外交論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国外交論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国経済論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国経済論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国社会論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | 米国社会論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |

※選択必修A群、B群、C群の修得単位数の合計が卒業要件単位数を超えた場合、超過分のうち自分の所属する研究コース指定科目の単位は、「コース指定研究科目」の卒業要件単位に加算されます。

学科専攻指定研究科目一覧

【アジア言語学科】

| 区分 | | 必要単位数 | 履修年次 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 単位 | 履修条件 | 研究コース指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科共通必修 | | 2 | アジア研究入門 | | | | 2 | | 地域・国際 |
| 中国語専攻 | 必修 | 4 | 中国社会事情Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 中国社会事情Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | 選択必修 | 12 | 中国語学概論Ⅰ | | | | 2 | | 言語 |
| | | | 中国語学概論Ⅱ | | | | 2 | | 言語 |
| | | | 中国思想概論Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | 中国思想概論Ⅱ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | 中国文化概論Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | 中国文化概論Ⅱ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | 中国文学概論Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | 中国文学概論Ⅱ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | | 中国古典講読Ⅰ | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | | 中国古典講読Ⅱ | | 2 | | 総合文化 |
| | | | 中国史概論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 中国史概論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 中国現代史Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 中国現代史Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 中国経済概論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 中国経済概論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 中国政治外交概論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 中国政治外交概論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| 韓国語専攻 | 選択必修 | 16 | | 韓国語学概論Ⅰ | | | 2 | | 言語 |
| | | | | 韓国語学概論Ⅱ | | | 2 | | 言語 |
| | | | | 韓国語文法論Ⅰ | | | 2 | | 言語 |
| | | | | 韓国語文法論Ⅱ | | | 2 | | 言語 |
| | | | 韓国文化概論Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | 韓国文化概論Ⅱ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | 韓国の宗教・社会Ⅰ | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | 韓国の宗教・社会Ⅱ | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | 韓国史概論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 韓国史概論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | 日韓関係史Ⅰ | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | 日韓関係史Ⅱ | | | 2 | | 地域・国際 |
| インドネシア語専攻 | 必修 | 2 | インドネシア研究入門 | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | 選択必修 | 6 | | インドネシアの文化・芸術 | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | インドネシアの民族・地理 | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | インドネシアの歴史 | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | インドネシアの宗教・社会 | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | インドネシアの政治・経済Ⅰ | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | インドネシアの政治・経済Ⅱ | | | 2 | | 地域・国際 |
| ベトナム語専攻 | 必修 | 2 | ベトナム研究入門 | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | 選択必修 | 6 | | ベトナムの文化・芸術 | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | ベトナムの民族・地理 | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | ベトナムの歴史 | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | ベトナムの宗教・社会 | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | ベトナムの政治・経済Ⅰ | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | ベトナムの政治・経済Ⅱ | | | 2 | | 地域・国際 |
| タイ語専攻 | 必修 | 2 | タイ研究入門 | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | 選択必修 | 6 | | タイの文化・芸術 | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | タイの民族・地理 | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | タイの歴史 | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | タイの宗教・社会 | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | タイの政治・経済Ⅰ | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | タイの政治・経済Ⅱ | | | 2 | | 地域・国際 |

※各専攻の選択必修科目を卒業要件単位数を超えて修得した場合、超過分のうち自分の所属する研究コース指定科目の単位は、「コース指定研究科目」の卒業要件単位に加算されます。

学科専攻指定研究科目一覧

【イベロアメリカ言語学科】

| 区分 | | 必要単位数 | 履修年次 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 単位 | 履修条件 | 研究コース指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学科共通必修 | | 2 | イベロアメリカ研究入門 | | | | 2 | | 地域・国際 |
| スペイン語専攻 | 選択必修 | 8 | | スペイン語学概論Ⅰ | | | 2 | | 言語 |
| | | | | スペイン語学概論Ⅱ | | | 2 | | 言語 |
| | | | スペイン文学史Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | スペイン文学史Ⅱ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | イベリア史概論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | イベリア史概論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | ラテンアメリカ史概論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | ラテンアメリカ史概論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| ブラジル・ポルトガル語専攻 | 必修 | 2 | ブラジル研究入門 | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | 選択必修 | 6 | | ポルトガル語学概論Ⅰ | | | 2 | | 言語 |
| | | | | ポルトガル語学概論Ⅱ | | | 2 | | 言語 |
| | | | | ブラジルの文化・芸術 | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | ブラジルの宗教・社会 | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | | ブラジルの民族・地理 | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | ブラジルの歴史 | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | ブラジルの政治・経済Ⅰ | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | ブラジルの政治・経済Ⅱ | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | ポルトガル語圏の世界 | | | 2 | | 地域・国際 |

※各専攻の選択必修科目を卒業要件単位数を超えて修得した場合、超過分のうち自分の所属する研究コース指定科目の単位は、「コース指定研究科目」の卒業要件単位に加算されます。

【国際コミュニケーション学科】

| 区分 | | 必要単位数 | 履修年次 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 単位 | 履修条件 | 研究コース指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 国際コミュニケーション専攻 ※留学生含む | 必修 | 4 | コミュニケーション論Ⅰ | | | | 2 | | コミュニケーション |
| | | | | 異文化コミュニケーション論Ⅰ | | | 2 | | コミュニケーション |
| | 選択必修A群 | 2 | 国際社会が見えてくる | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 国際関係史Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 国際関係史Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 国際関係論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 国際関係論Ⅱ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | 選択必修B群 | 2 | 日本文化論Ⅰ | | | | 2 | | 総合文化 |
| | | | 日本近代史 | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | 日本現代史 | | | | 2 | | 地域・国際 |
| 国際ビジネスキャリア専攻 | 必修 | 8 | | 企業研究Ⅰ | | | 2 | 2年前期必修 | 地域・国際 |
| | | | | 企業研究Ⅱ | | | 2 | 2年後期必修 | 地域・国際 |
| | | | | 簿記会計Ⅰ | | | 2 | 2年前期必修 | 地域・国際 |
| | | | | 簿記会計Ⅱ | | | 2 | 2年後期必修 | 地域・国際 |
| | 選択必修 | 6 | | | Leadership Communication Ⅰ | | 2 | | コミュニケーション |
| | | | | | Leadership Communication Ⅱ | | 2 | | コミュニケーション |
| | | | 国際経営論Ⅰ | | | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | | マーケティングリサーチ | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | | アントレプレナーシップ論 | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | | 企業行動論Ⅰ | | 2 | | 地域・国際 |
| | | | | | 企業行動論Ⅱ | | 2 | | 地域・国際 |

※各専攻の選択必修科目（IC専攻の場合はA群、B群それぞれについて）を卒業要件単位数を超えて修得した場合、超過分のうち自分の所属する研究コース指定科目の単位は、「コース指定研究科目」の卒業要件単位に加算されます。

# 【研究コース履修要項】

## A　研究コース制の概要

### 1．研究コース制の目的

外国語学部の授業は、大きく分けて、「言語教育」と「教養教育」とからなります。皆さんは、大学生活の４年間に多くの時間と労力を使って、専攻する言語を学習していくことになります。アジア言語学科やイベロ・アメリカ言語学科の学生であれば、専攻する言語だけでなく、英語の学習にも努力することが必要です。こうした語学の習得は、外国語学部の学生にとって重要なものであり、関心もまずはそこに集中しがちです。しかし、大学での＜学び＞は、それだけではありません。大学で言語を学び、高度な外国語運用能力を修得するためには、言語の背景にある歴史・文化・社会、また言語の使い手である人間などについての深い理解が必要なのです。先に「教養教育」といいましたが、ここでいう教養とは、広く入門的な知識の学習のことではなく、豊かな学問的な知識の教育を意味しています。自己と世界に関して、あるいは人間と社会に関して、今日の学問レベルに即し、幅広く、筋道立って学ぶことを目指します。本学では、教養教育のための授業科目として、「導入科目」「教養科目」「研究科目」「研究演習」「卒業研究」などが設定されていますが、これらの科目で修得した知識を外国語学習と有機的に結びつけることが大切です。高度な言語運用能力は、豊かな教養の＜学び＞を可能にするとともに、豊かな教養が高度な言語運用能力を実現することにもなるのです。

教養教育の目的は、言語の背後にある歴史・文化・社会について幅広く知識を修得することだけではありません。知識を活用する能力、応用力を養うことが大切です。真の教養人になるためには、単に講義を聴いてその内容の理解を深めるだけではなく、自ら研究テーマを設定し、探求するという経験が必要です。

学生は、２年次に４つの研究コースから一つを選び、登録を行うことになります。これは、早い段階から自分の研究テーマを考え、研究テーマに即して学習を組み立てることが望ましいと考えるからです。研究コースには多くの科目が用意されています。単にコースで指定している科目だからといって、漫然と履修していては、まとまりのある＜学び＞を実現することはできません。学生諸君には、自分の知的関心を自覚し、それに即して科目を選択することを期待します。そうしてこそ、知的に実りのある＜学び＞が実現されるのです。

本学の研究コース制で設定しているコースは、次の４つです。

〈言語研究コース〉

〈コミュニケーション研究コース〉

〈総合文化研究コース〉

〈地域・国際研究コース〉

学生は、上記の４つの「研究コース」のうちから一つを選択し、登録します。その上で、必要な単位数を修得して研究コースを修了することになります。

（注意１）

登録した研究コース以外のコースで求められる単位を修得した場合でも、あらかじめ登録したコース以外では卒業することはできません。

（注意２）

2016年度までの入学者は、研究プログラム制という別のカリキュラムで学習しています。先輩などからア

ドバイスを受けるとき、カリキュラムが変更になっていることを理解して、誤解の無いように気を付けてください。

## 2．研究コースの科目の概要

本学を卒業するためには、各学科および各科目群の指定する単位数を修得すると同時に、研究コースを修了しなくてはなりません。研究コースを修了するには、「コース指定研究科目」および「研究演習」「卒業研究」から合計24単位以上を修得する必要があります。「Ⅲ 卒業の要件　2)研究コース修了要件」を参照してください。

① コース指定研究科目

「研究科目」は、〈言語研究〉〈コミュニケーション研究〉〈総合文化研究〉〈地域・国際研究〉の４つのコースの中心となる科目です。ほとんどの科目は４つの研究コースの指定する「コース指定研究科目」から成り、一部は学科・専攻指定も受けています。

「研究科目」を履修する場合は、どの学科･専攻の指定科目なのか、どの研究コースの指定科目なのかについて注意する必要があります。

研究コースを修了するには、自分が選択した研究コースの指定研究科目から24単位を修得しなくてはなりません。注意が必要なのは、研究コースの指定科目で、学科・専攻からも学科・専攻の指定科目となっている科目の取り扱いです。学科・専攻の指定科目の卒業要件を満たすためにカウントした科目の単位を、コースの卒業要件の単位としても計算すること、つまり一つの科目の単位を研究コースと学科・専攻両方の卒業要件単位として、二重にカウントすることはできません。その場合には、その科目とは別の科目でコースの卒業要件を満たす必要があります。

自分が所属する学科・専攻の指定科目及び自分が選択した研究コース以外の科目も自由に履修することができます。その場合の単位は、自由選択科目として計算されます。

② 「研究演習」

研究演習とは、いわゆる少人数制のゼミナール（ゼミ）です。講義とは異なり、学生が自ら積極的に授業に参加し、発表したり、討論することで進行していきます。科目によっては、研究だけでなく、成果物の作成を目指すような内容のものもあります。

３年次には２科目（８単位）まで履修することができますが、４年次には１科目（４単位）しか履修することができません。

③ 「卒業研究」

「卒業研究」は普通の科目とは大きく異なり、教員の指導の下、学生が自ら論文ないしは作成物をまとめ上げるものです。評価は、そのプロセスおよび結果に対して行われます。

４年次に「研究演習」を履修し、なおかつ「卒業研究」の履修を希望する場合、「研究演習」担当教員の指導の下で卒業研究に取り組むことになります。「研究演習」の担当教員以外の教員を「卒業研究」の指導教員とすることはできません。

## 3．研究コース履修上の心構え

・研究コースの登録

研究コースは、２年次前期に登録をします。適切な研究コースを選択するためには、１年次から、自分がどのような分野に関心があるのか、関連する科目を履修して考えておく必要があります。２年次になる

と、大学生活にも慣れて、皆さんの知的世界は急速に広がることでしょう。知的関心の対象が広がることによって、自分がどのような分野を探求したいのか、より明確になるはずです。その結果、２年次に登録した研究コースから他の研究コースへの変更を希望する場合には、３年次前期に登録変更ができます。これが最終的な選択となり、以後は登録した研究コースを変えることはできません。詳しくはp.9＜研究コース登録の流れ＞を参照してください。

・研究演習（ゼミ）の履修

「研究演習」には、研究コースの指定はありません。したがって、どの「研究演習」を選択しても、自分が選択した研究コースの科目に含めることができます。これは、他の研究科目と取り扱いの異なる点です。ただし、自分がコースを選択した背景にあった関心と結びつきの深い「研究演習」をとる方が良いでしょう。

「卒業研究」も、コース指定は無く、どの研究コースの卒業要件単位としても数えることができます。ただし、卒業論文や卒業制作のテーマを決める際に、コースを選択した背景にあった関心を考慮して判断することが良いだろうと思われます。

「研究演習」および「卒業研究」の修得単位は、８単位まで研究コース指定科目の修得単位に含まれます。このように単位数を設定したのは、皆さんが自分で研究テーマを設定し、それを探求する際に、研究コース指定科目に限定することなく、自分のテーマに関連する研究演習を幅広く履修して欲しいという考えからです。

研究コース制の趣旨からいえば、１年次から４年次までの学年進行において、どのような科目を履修するのかに配慮することが重要です。授業担当教員に相談したり、「ゼミ説明会」・「オープンドア」等にも積極的に参加して、適切な情報に基づいて判断するようにしてください。

# B　各研究コースの概要

## 1　言語研究コース

**【コースの目的と概要】**

ここで紹介されている４つのコースはいずれも、専攻言語の学習とは独立して、大学ならではの学問を追求するために用意された研究コースです。その中にあって、〈言語研究コース〉は、各言語の習熟を主眼とする専攻語科目と異なり、言語そのものを研究の対象にし、各自が専攻する言語のみならず、人間のことば一般についての深い洞察力を養い、言語の研究を手がかりにして人間や社会に関する理解を深める研究コースと言えます。

ことばそのものに関する研究には、それぞれの言語の音声・音韻（言語の中の音と音の組み合わせ方の仕組み）・語彙・文構造（語と語をつなぎ合わせて文を作る仕組み）・意味・語用（状況に応じたことばの用いられ方）・言語の歴史・共通方言と他の方言の関わりなど、さまざまな領域があります。これらの言語現象を観察し分析するのが「音声学」「音韻論」「統語論」「文法論」「意味論」「談話分析」といった科目群です。また、人間はどのようにして言語を習得するのかなどの問題を研究する「心理言語学」、言葉と社会の関わり合いを研究する「社会言語学」、日本語と専攻言語の間にはどのような違いがあるのかを考える比較対照研究、言語類型論の視点から東南アジア言語を考察する「東南アジア言語概論」の科目群があります。言語をめぐるこれらの多種多様な現象の研究の中で、情報を収集・吟味し、問題を把握・分析することを通じて思考力が養われますが、こうした能力は言語をめぐる考察に限らず、将来、社会の様々な場面で役立つでしょう。

一方、外国語の習得に焦点を当てて研究する科目もあります。効果的な外国語学習法を学ぶ「英語習得法」、外国語としての言語の習得の問題を研究する「第二言語習得研究」、言語学の研究成果を言語教育などに応用する「応用言語学」などは、専攻言語の能力を伸ばすためにも大いに役立つでしょう。また、「現代英文法」とその各論である「英語語法研究」「英語構文研究」は、英文法を様々な観点から研究する科目ですが、英語運用能力を高める上でも有効です。

言語研究コースの科目として、母語である日本語の研究、外国人に対する日本語教授法の研究など、「日本語教員養成課程」の科目群の一部が履修できます。また、児童に対する英語指導法の研究など、「児童英語教員養成課程」の科目群の一部も履修できます。

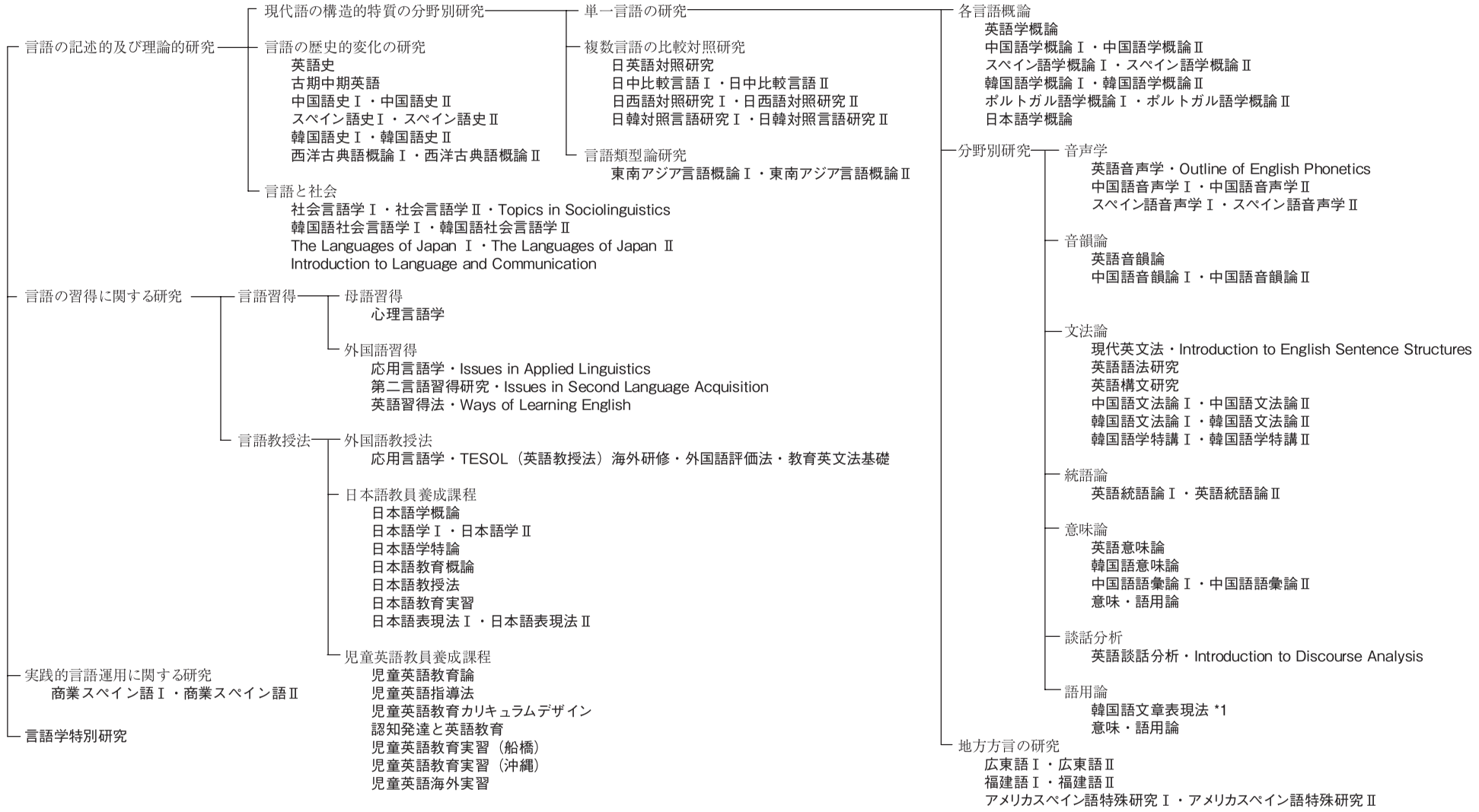
**【コースを選択する心構えとして】**

〈言語研究コース〉は「ことば」そのものを研究するコースですから、人一倍ことばに関する興味と好奇心を持っていることがなにより大切です。これまで日本語や外国語の文法や語法に関して「どうしてだろう？」という疑問を持ったことがある人、ことばの意味や用法について思考をめぐらすのが好きな人、何ごとにも興味をもつと同時に徹底的にやらないと気がすまないという凝り性の人、そういう人に〈言語研究コース〉は向いています。また外国語の学習は、自然に習得されてしまう母語の場合とは大きく異なりますので、〈言語研究コース〉に設定された多様な科目の履修を通して、専攻言語の特質に関する幅広い知識とすぐれた知見を得ることは、言語運用能力の向上にも必ず役立つはずです。

## 言語研究コース科目分類表（指定授業科目一覧）

※表中の**太字**が科目名

**言語学Ⅰ・言語学Ⅱ**（教養科目：コース指定ではないが履修を推奨）
**言語哲学Ⅰ・言語哲学Ⅱ**




*1 平成20年度より「韓国文字論」より科目名変更

コース研究科目一覧

【言語研究コース】

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 英語学概論 | | | | 4 | | 英米：必修 |
| Outline of English Phonetics | | | | 4 | C基準 /「Outline of English Phonetics」と「英語音声学」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修B |
| 英語音声学 | | | | 4 | 「Outline of English Phonetics」と「英語音声学」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修C |
| 英語音韻論 | | | | 4 | 「英語学概論」かつ「英語音声学」又は「Outline of English Phonetics」 | 英米：選択必修C |
| 英語統語論Ⅰ | | | | 4 | 「英語学概論」 | 英米：選択必修C |
| | 英語統語論Ⅱ | | | 4 | 「英語統語論Ⅰ」 | |
| | 英語意味論 | | | 4 | 「英語統語論Ⅰ」又は「現代英文法」 | |
| 現代英文法 | | | | 4 | 「英語学概論」 | 英米：選択必修C |
| | 英語語法研究 | | | 4 | 「英語統語論Ⅰ」又は「現代英文法」 | |
| Introduction to English Sentence Structures | | | | 2 | | 英米：選択必修B |
| | 英語構文研究 | | | 4 | 「英語統語論Ⅰ」 | |
| Ways of Learning English | | | | 4 | 「Ways of Learning English」と「英語習得法」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可能とする | 英米：選択必修B |
| 英語習得法 | | | | 4 | 「Ways of Learning English」と「英語習得法」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修C |
| | 第二言語習得研究 | | | 4 | 「英語学概論」 | 英米：選択必修C |
| | Issues in Second Language Acquisition | | | 4 | 「第二言語習得研究」かつC基準 | 英米：選択必修B |
| | Introduction to Discourse Analysis | | | 4 | 「Introduction to Discourse Analysis」と「英語談話分析」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修B |
| | 英語談話分析 | | | 4 | 「Introduction to Discourse Analysis」と「英語談話分析」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修C |
| Introduction to Language and Communication | | | | 2 | | 英米：選択必修B |
| | Issues in Applied Linguistics | | | 4 | C基準かつ「応用言語学」又は「第二言語習得研究」 | 英米：選択必修B |
| | Topics in Sociolinguistics | | | 4 | C基準 | 英米：選択必修B |
| TESOL（英語教授法）海外研修 | | | | 4 | C基準 | 英米：選択必修B |
| | 教育英文法基礎 | | | 2 | | |
| | 外国語評価法 | | | 2 | | |
| | 英語史 | | | 4 | 「英語学概論」かつ「英語音声学」又は「Outline of English Phonetics」 | |
| | 古期中期英語 | | | 4 | 「英語史」 | |
| | 日英語対照研究 | | | 4 | 「英語統語論Ⅰ」又は「現代英文法」 | |
| 認知発達と英語教育 | | | | 4 | | |
| 児童英語教育論 | | | | 4 | | |
| | 児童英語指導法 | | | 4 | 「児童英語教育論」および「認知発達と英語教育」を修得済み、かつC基準又は英検2級以上 | |
| | 児童英語教育カリキュラムデザイン | | | 4 | 「児童英語教育論」および「認知発達と英語教育」を修得済み、かつC基準又は英検2級以上 | |
| | | 児童英語教育実習（船橋） | | 2 | 「児童英語指導法」および「児童英語教育カリキュラムデザイン」 | |
| | 児童英語教育実習（沖縄） | | | 2 | 「児童英語教育論」および「認知発達と英語教育」を修得済み、かつTOEFL ITP500点又はiBT60点程度の英語力 | |
| | 児童英語海外実習 | | | 2 | 「児童英語教育論」および「認知発達と英語教育」 | |
| 中国語学概論Ⅰ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国語学概論Ⅱ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| | 中国語文法論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 中国語文法論Ⅱ | | | 2 | | |
| | 中国語語彙論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 中国語語彙論Ⅱ | | | 2 | | |
| | 中国語音韻論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 中国語音韻論Ⅱ | | | 2 | | |
| | 中国語音声学Ⅰ | | | 2 | | |
| | 中国語音声学Ⅱ | | | 2 | | |
| | 中国語史Ⅰ | | | 2 | | |
| | 中国語史Ⅱ | | | 2 | | |
| | | 日中比較言語Ⅰ | | 2 | | |
| | | 日中比較言語Ⅱ | | 2 | | |
| | | 広東語Ⅰ | | 2 | | |
| | | 広東語Ⅱ | | 2 | | |

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| | | 福建語Ⅰ | | 2 | | |
| | | 福建語Ⅱ | | 2 | | |
| | 韓国語学概論Ⅰ | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| | 韓国語学概論Ⅱ | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| | 韓国語文法論Ⅰ | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| | 韓国語文法論Ⅱ | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| | 日韓対照言語研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | 日韓対照言語研究Ⅱ | | | 2 | | |
| | 韓国語学特講Ⅰ | | | 2 | | |
| | 韓国語学特講Ⅱ | | | 2 | | |
| | 韓国語社会言語学Ⅰ | | | 2 | | |
| | 韓国語社会言語学Ⅱ | | | 2 | | |
| | 韓国語文章表現法 | | | 2 | | |
| | 韓国語意味論 | | | 2 | | |
| | 韓国語史Ⅰ | | | 2 | | |
| | 韓国語史Ⅱ | | | 2 | | |
| | 東南アジア言語概論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 東南アジア言語概論Ⅱ | | | 2 | | |
| | スペイン語学概論Ⅰ | | | 2 | | スペイン：選択必修 |
| | スペイン語学概論Ⅱ | | | 2 | | スペイン：選択必修 |
| | スペイン語音声学Ⅰ | | | 2 | | |
| | スペイン語音声学Ⅱ | | | 2 | | |
| | スペイン語史Ⅰ | | | 2 | | |
| | スペイン語史Ⅱ | | | 2 | | |
| | | アメリカスペイン語特殊研究Ⅰ | | 2 | | |
| | | アメリカスペイン語特殊研究Ⅱ | | 2 | | |
| | 日西語対照研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | 日西語対照研究Ⅱ | | | 2 | | |
| | 商業スペイン語Ⅰ | | | 2 | | |
| | 商業スペイン語Ⅱ | | | 2 | | |
| | ポルトガル語学概論Ⅰ | | | 2 | | ブラジル・ポルトガル：選択必修 |
| | ポルトガル語学概論Ⅱ | | | 2 | | ブラジル・ポルトガル：選択必修 |
| The Languages of Japan Ⅰ | | | | 2 | C基準 | |
| The Languages of Japan Ⅱ | | | | 2 | C基準 | |
| 日本語学概論 | | | | 4 | | |
| 日本語学Ⅰ | | | | 4 | | |
| 日本語学Ⅱ | | | | 4 | | |
| 日本語学特論 | | | | 4 | | |
| | 日本語教育概論 | | | 2 | 「日本語学概論」「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」 3科目全て | |
| | 日本語教授法 | | | 4 | 「日本語教育概論」修得済み、かつ全体のGPAが2.7以上留学生：上記に加え「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格 | |
| | | 日本語教育実習 | | 2 | 4単位まで履修可 | |
| 日本語表現法Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本語表現法Ⅱ | | | | 2 | | |
| | 社会言語学Ⅰ | | | 4 | | |
| | 社会言語学Ⅱ | | | 4 | | |
| | 心理言語学 | | | 4 | | |
| | 応用言語学 | | | 4 | | |
| | 意味・語用論 | | | 4 | | |
| 言語学特別研究 | | | | 4 | | |
| 言語哲学Ⅰ | | | | 2 | | |
| 言語哲学Ⅱ | | | | 2 | | |
| 西洋古典語概論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 西洋古典語概論Ⅱ | | | | 2 | | |

## 2　コミュニケーション研究コース

**【コースの目的と概要】**

私たちは日々、コミュニケーションを取りながら生活しています。そして、社会のグローバル化と情報技術の発達とともに、コミュニケーションの範囲も地球規模に拡大しました。このコースでは、コミュニケーションとは何かという、単純そうでありながら、実は広がりと奥行きに満ちた問いを考えます。

コミュニケーションの研究範囲は多種多様です。送り手と受け手で考えても、国家間、民族間、社会階層間、世代間などがあります。その形態も、各国の文化と歴史を背景とした言語コミュニケーション、身振り手振りや図表数式などによる非言語コミュニケーションなどさまざまです。

コミュニケーションの場面も多様であり、少人数でのスモールグループ･コミュニケーション、議論によって互いの理解を深めるディベート、みんなの前で発表するプレゼンテーションなどがあります。そして互いに顔を突き合わせての対面のコミュニケーションから、電話や手紙のようなコミュニケーション、ネットワークを活用したSNSなど多彩です。

**【コースを選択する心構え】**

コミュニケーションを学び始めるきっかけと探求していく道筋は人それぞれです。例えば良きコミュニケーターになりたいという漠然とした思いからコースを開始するのもよいでしょう。視点を変えることで見えるものがあるでしょう。国内で見つかりにくい答えが外国の文化を考えることで見つかったり、言語にないものが映像の中に含まれていたり、調和にあっては気づかないものが衝突で明らかになったりすることもあります。何気ない日々の中にも多くのヒントが得られるかもしれません。

コミュニケーション研究へのアプローチも多様です。そこで、それぞれの関心や興味に基づいて研究ができるように講義は５つの群に分類されています。特定の分野を深く探求する方法もあれば、幅広く学んで新たな発見を楽しむという方法もあります。コミュニケーションの窓を開くのは皆さん自身です。

## コミュニケーション研究コース　科目分類表（指定授業科目一覧）

### Ⅰ群　コミュニケーションとは何か

コミュニケーションは私たちが意思疎通を図るための行為です。円滑にコミュニケーションを行うためには、コミュニケーション行為の周囲にある状況・環境を考慮にいれなくてはいけません。この科目群ではコミュニケーション研究の意義、理論を学び、コミュニケーションにまつわるさまざまな事例を考えます。

| | | |
|---|---|---|
| コミュニケーション論Ⅰ | 非言語コミュニケーション論Ⅰ | 対人コミュニケーション論 |
| コミュニケーション論Ⅱ | 非言語コミュニケーション論Ⅱ | レトリカルコミュニケーション論 |
| | | コミュニケーション論特講Ⅰ |
| | | コミュニケーション論特講Ⅱ |

### Ⅱ群　グローバル・コミュニケーション

地球規模で人と情報の往来が激しくなった現代では、国家や組織といった縦糸での相互理解が今まで以上に重要になるだけでなく、文化や地域を越えた横糸でのつながりの重要性も高まります。この科目群ではグローバル化する世界で必要とされるコミュニケーションを考察します。

| | | |
|---|---|---|
| 異文化コミュニケーション論Ⅰ | 日米コミュニケーション論 | 国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ |
| 異文化コミュニケーション論Ⅱ | 組織コミュニケーション論Ⅰ | 国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅱ |
| 多文化社会コミュニケーション論Ⅰ | 組織コミュニケーション論Ⅱ | ビジネス中国語Ⅰ(a) |
| 多文化社会コミュニケーション論Ⅱ | | ビジネス中国語Ⅰ(b) |
| | | ビジネス中国語Ⅱ(a) |
| | | ビジネス中国語Ⅱ(b) |

### Ⅲ群　オーラル・コミュニケーション

言葉は私たちにとって一番身近なコミュニケーション・シンボルです。私たちは日常会話のみならず、スピーチ、討論などでも意思決定を行っています。この科目群ではコミュニケーションにおける言葉の役割、その効果的・戦略的な使い方を考え、その批評・分析などを行います。

| | | |
|---|---|---|
| 日本語プレゼンテーション | Public Speaking | スペイン語スピーチコミュニケーションⅠ |
| 日本語ディベート | Debate | スペイン語スピーチコミュニケーションⅡ |
| 日本語スモールグループ･コミュニケーション | Small Group Communication | |
| Leadership Communication Ⅰ | 英語オーラルインタープリテーション | |
| Leadership Communication Ⅱ | 英語説得コミュニケーション論 | |

### Ⅳ群　情報社会のメディアコミュニケーション

メディアとしての情報技術は大きな可能性を担っています。マスメディアを超える勢いのネットメディアは、企業・政府・研究者には一次情報の役割も持ち、SNSやブログは市民メディアを支えています。この群では情報化が社会やビジネスに与える影響、情報を判断する力、表現力、情報発信力を身につけます。

| | | |
|---|---|---|
| メディアリテラシー | メディアと社会Ⅰ | コンピュータグラフィックデザインⅠ |
| メディア・コミュニケーション論Ⅰ | メディアと社会Ⅱ | コンピュータグラフィックデザインⅡ |
| メディア・コミュニケーション論Ⅱ | ビジネスデータマネジメントⅠ | マルチメディアⅠ |
| スペイン語圏マスコミュニケーション論Ⅰ | ビジネスデータマネジメントⅡ | マルチメディアⅡ |
| スペイン語圏マスコミュニケーション論Ⅱ | プログラミングⅠ | ウェブサイトデザインⅠ |
| Media and Japanese Society | プログラミングⅡ | ウェブサイトデザインⅡ |

### Ⅴ群　通訳翻訳で文化をつなぐコミュニケーション

異なる言葉をつなぐ上では、どのような配慮が必要なのでしょうか。通訳と翻訳とは、単に言葉を訳すことではなく、それぞれの文化に配慮した相互理解の架け橋の役目を果たします。この科目群では、通訳翻訳に必要とされるコミュニケーションの知識およびその技能の養成を目指します。

| | | |
|---|---|---|
| 通訳・翻訳への招待 | コミュニティー英語通訳法 | 中国語通訳法Ⅰ(a) |
| 通訳・翻訳理論（英語） | 英語映像翻訳法 | 中国語通訳法Ⅰ(b) |
| Theories of Translation and Interpreting | 通訳演習(a) | 中国語通訳法Ⅱ(a) |
| 日英翻訳法Ⅰ | 通訳演習(b) | 中国語通訳法Ⅱ(b) |
| 日英翻訳法Ⅱ | 翻訳演習(a) | 日中通訳法Ⅰ |
| 英日翻訳法Ⅰ | 翻訳演習(b) | 日中通訳法Ⅱ |
| 英日翻訳法Ⅱ | スペイン語通訳法Ⅰ | 韓国語映像翻訳法Ⅰ |
| 英語通訳法Ⅰ | スペイン語翻訳法Ⅰ | 韓国語映像翻訳法Ⅱ |
| 英語通訳法Ⅱ | スペイン語翻訳法Ⅱ | 日韓・韓日通訳法Ⅰ |
| 英語通訳法Ⅲ | スペイン語映像翻訳法Ⅰ | 日韓・韓日通訳法Ⅱ |
| 英語通訳法Ⅳ | スペイン語映像翻訳法Ⅱ | |

コース研究科目一覧

【コミュニケーション研究コース】

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| Public Speaking | | | | 4 | C基準 | 英米：選択必修B |
| Debate | | | | 4 | B基準 | 英米：選択必修B |
| Small Group Communication | | | | 4 | B基準 | 英米：選択必修B |
| | 日米コミュニケーション論 | | | 4 | | |
| | 英語オーラルインタープリテーション | | | 4 | C基準かつ「英語音声学」又は「Outline of English Phonetics」 | |
| 英語説得コミュニケーション論 | | | | 4 | B基準 | |
| 日英翻訳法Ⅰ | | | | 4 | B基準 | |
| | 日英翻訳法Ⅱ | | | 4 | B基準かつ「時事英語Ⅱ」「Media English (a)/ (b)（英米）」「Media English Ⅱ (IC)」のいずれか | |
| 英日翻訳法Ⅰ | | | | 4 | B基準 | 英米：選択必修C |
| | 英日翻訳法Ⅱ | | | 4 | B基準かつ「時事英語Ⅱ」「Media English (a)/ (b)（英米）」「Media English Ⅱ (IC)」のいずれか | |
| 英語通訳法Ⅰ | | | | 4 | | 英米：選択必修C |
| 英語通訳法Ⅱ | | | | 4 | C基準 | |
| | 英語通訳法Ⅲ | | | 4 | B基準 | |
| | 英語通訳法Ⅳ | | | 4 | A基準 | |
| | 英語映像翻訳法 | | | 4 | B基準 | |
| | コミュニティー英語通訳法 | | | 4 | 「英語通訳法Ⅲ」 | |
| | Theories of Translation and Interpreting | | | 4 | C基準 /「Theories of Translation and Interpreting」と「通訳・翻訳理論（英語）」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修B |
| | 通訳・翻訳理論（英語） | | | 4 | B基準 /「Theories of Translation and Interpreting」と「通訳・翻訳理論（英語）」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修C |
| | | 通訳演習（a） | | 2 | 英米語学科通訳翻訳課程履修者以外の学生は履修不可 | |
| | | 通訳演習（b） | | 2 | 英米語学科通訳翻訳課程履修者以外の学生は履修不可 | |
| | | 翻訳演習（a） | | 2 | 英米語学科通訳翻訳課程履修者以外の学生は履修不可 | |
| | | 翻訳演習（b） | | 2 | 英米語学科通訳翻訳課程履修者以外の学生は履修不可 | |
| | | ビジネス中国語Ⅰ（a） | | 2 | | |
| | | ビジネス中国語Ⅰ（b） | | 2 | | |
| | | ビジネス中国語Ⅱ（a） | | 2 | | |
| | | ビジネス中国語Ⅱ（b） | | 2 | | |
| | | 中国語通訳法Ⅰ（a） | | 2 | | |
| | | 中国語通訳法Ⅰ（b） | | 2 | | |
| | | 中国語通訳法Ⅱ（a） | | 2 | | |
| | | 中国語通訳法Ⅱ（b） | | 2 | | |
| | 韓国語映像翻訳法Ⅰ | | | 2 | | |
| | 韓国語映像翻訳法Ⅱ | | | 2 | | |
| | | スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅰ | | 2 | | |
| | | スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅱ | | 2 | | |
| | | スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅠ | | 2 | | |
| | | スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅡ | | 2 | | |
| | | スペイン語通訳法Ⅰ | | 2 | | |
| | スペイン語翻訳法Ⅰ | | | 2 | | |
| | スペイン語翻訳法Ⅱ | | | 2 | | |
| | | スペイン語映像翻訳法Ⅰ | | 2 | | |
| | | スペイン語映像翻訳法Ⅱ | | 2 | | |

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| コミュニケーション論Ⅰ | | | | 2 | | IC専攻（留学生含む）：必修 |
| コミュニケーション論Ⅱ | | | | 2 | | |
| | 異文化コミュニケーション論Ⅰ | | | 2 | | IC専攻（留学生含む）：必修 |
| | 異文化コミュニケーション論Ⅱ | | | 2 | | |
| | 組織コミュニケーション論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 組織コミュニケーション論Ⅱ | | | 2 | | |
| メディア・コミュニケーション論Ⅰ | | | | 2 | | |
| メディア・コミュニケーション論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 非言語コミュニケーション論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 非言語コミュニケーション論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 対人コミュニケーション論 | | | | 2 | | |
| | | Leadership Communication Ⅰ | | 2 | | IBC専攻：選択必修 |
| | | Leadership Communication Ⅱ | | 2 | | IBC専攻：選択必修 |
| | 国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅱ | | | 2 | | |
| 日本語プレゼンテーション | | | | 4 | | |
| 日本語ディベート | | | | 4 | | |
| 日本語スモールグループ・コミュニケーション | | | | 4 | | |
| | | コミュニケーション論特講Ⅰ | | 2 | 重複履修可 | |
| | | コミュニケーション論特講Ⅱ | | 2 | 重複履修可 | |
| レトリカルコミュニケーション論 | | | | 2 | | |
| 多文化社会コミュニケーション論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 多文化社会コミュニケーション論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 通訳・翻訳への招待 | | | | 2 | | |
| | 日中通訳法Ⅰ | | | 4 | 留学生：「日本語特別演習Ⅰ」修得済み、かつ「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格 一般学生：「中国語検定1級」相当 | |
| | 日中通訳法Ⅱ | | | 4 | 留学生：「日本語特別演習Ⅰ」修得済み、かつ「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格 一般学生：「中国語検定1級」相当 | |
| | 日韓・韓日通訳法Ⅰ | | | 2 | 留学生：「日本語特別演習Ⅰ」修得済み、かつ「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格 一般学生：「ハングル能力検定1級」相当 | |
| | 日韓・韓日通訳法Ⅱ | | | 2 | 留学生：「日本語特別演習Ⅰ」修得済み、かつ「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格 一般学生：「ハングル能力検定1級」相当 | |
| メディアと社会Ⅰ | | | | 2 | | |
| メディアと社会Ⅱ | | | | 2 | | |
| Media and Japanese Society | | | | 2 | C基準 | |
| | メディアリテラシー | | | 2 | | |
| | ビジネスデータマネジメントⅠ | | | 2 | | |
| | ビジネスデータマネジメントⅡ | | | 2 | | |
| | ウェブサイトデザインⅠ | | | 2 | | |
| | ウェブサイトデザインⅡ | | | 2 | | |
| | マルチメディアⅠ | | | 2 | | |
| | マルチメディアⅡ | | | 2 | | |
| | コンピュータグラフィックデザインⅠ | | | 2 | | |
| | コンピュータグラフィックデザインⅡ | | | 2 | | |
| | プログラミングⅠ | | | 2 | | |
| | プログラミングⅡ | | | 2 | | |

## 3　総合文化研究コース

**【コースの目的と概要】**

「文化」という言葉は非常に多くの内容をもっています。というのも、人間を含めて与えられたものである「自然」に対し、人間の作り出したもの、作り出すものすべてが「文化」だといえるからです。人間は文化を作り出すことで、自然から抜け出し、自分たちの歴史を作ってきました。自然としての人間は、そのような文化的な存在としてしかありえません。したがって、文化への問いとは、人間自体への問いでもあるのです。

文化について関心をもつようになる動機にはいろいろあるでしょう。ある外国語を学んでいくうちに、その言語を話している人たちの背景にある文化に関心をもつようになることはきわめて自然な流れです。逆に、ある文化に興味を抱き、そこからその言語を学ぼうと決意した人もいるはずです。「文化とはなにか」「人間とはなにか」という根源的・哲学的な問題に興味の向かう人もいるでしょう。外国語の書物をたくさん読み込んで、文化や人間についてさまざまな知識を得たいと思う人もいるに違いありません。

〈総合文化研究コース〉は、このような文化と人間そのものに関心をもち、それを学習の中心に据えていこうとする学生向けのコースです。文化研究をおこなう場合には、どのような場合でも自らの所属している文化（日本人の場合であれば日本文化）を無視することはできません。というよりむしろ、自文化を深く理解することこそ、国際化した時代においてしっかりしたアイデンティティーをもつために、もっとも重要なのです。そのためには自文化を絶対化せず、他文化（他者）の存在を認め、たがいに協調していくことが必要です。したがって世界に存在する、多くの異なったものの見方や感じ方を知るように努めていきたいものです。文化は、宗教や文学、思想、芸術、教育など多くの分野で、いろいろなかたちをとって表現されています。そうした多方面の学問領域にふれることで、文化をとおして人間はどう共存しうるのかを学んでいけるでしょう。

したがって本コースの科目は、そうした学問領域のかなりの部分をカバーするように組まれています。その際、個別的なものと一般的なものとを合せて学ぶことが望まれます。たとえば、各国文学のありようを学ぶ授業と、各国文学の影響関係等を学ぶ「比較文学概論」のような科目もあれば、個々の宗教や民族に関する科目に対して、複数の宗教と民族にまたがった問題を扱う「民族・宗教問題研究」といった科目などがそれです。さらに演劇をとおして自己表現の仕方を学ぶユニークな科目もこのコースの特色です。身についた文化を表現するのは、なにも文字をとおしてのみなされるのではなく、身体そのものをとおしてなされることが多々あるからです。そうした意味で、文化と表現は身体性と切り離すことはできないものです。また人間同士を尊重し合う根拠としての文化的背景や、男女差や人権意識のありようの違いを学んでいく必要もあるかもしれません。

こうした様々な学問領域への入り口として、まずは毎週異なる教員が授業を行う「文化について考える」を履修することをお勧めします。

**【コースを選択する心構えとして】**

〈総合文化研究コース〉の内容が、このようなものであってみれば、おのずと必要とされる心構えといったものも決まってくるはずです。つまり、広く開かれた好奇心と、偏見のないものの見方です。ともに学問研究の基礎といっていいでしょう。そのためにも、日ごろから自らの拠って立つ自文化に対する知的関心を育てていくことが肝要です。日々起きている、身の回りの文化現象を見過ごすことなく、その根源を他との比較を通して学んでいく態度を涵養していくように努めてください。というのも、研究する対象を設定する前に一番求められるのは、なぜだろう、どうしてこうなるのか、あの国ではどうだろう、といった純粋な知的好奇心だからです。そうした内なる声に耳を傾けることが一番大切なことです。人間とは、文化とは、いくら探求しても、し尽くすことのできない永遠の謎なのですから。

総合文化研究コース　科目分類表（指定授業科目一覧）

| 文化研究のさまざまな視点 | | |
|---|---|---|
| 文化について考える | ※１～２年次での履修を推奨します。 | |
| **地域と文化** | | |
| 英文学史Ⅰ | 英文学講義Ⅰ | 英文学研究Ⅰ |
| 英文学史Ⅱ | 英文学講義Ⅱ | 英文学研究Ⅱ |
| 米文学史Ⅰ | 米文学講義Ⅰ | 米文学研究Ⅰ |
| 米文学史Ⅱ | 米文学講義Ⅱ | 米文学研究Ⅱ |
| 米国文化論Ⅰ | 米国文化原書講読Ⅰ | Survey of American Literature |
| 米国文化論Ⅱ | 米国文化原書講読Ⅱ | Themes in American Literature |
| 中国文化概論Ⅰ | 中国思想概論Ⅰ | 中国文学概論Ⅰ |
| 中国文化概論Ⅱ | 中国思想概論Ⅱ | 中国文学概論Ⅱ |
| 中国文学史Ⅰ | 中国古典講読Ⅰ | 中国近世文学研究Ⅰ |
| 中国文学史Ⅱ | 中国古典講読Ⅱ | 中国近世文学研究Ⅱ |
| 中国近代文学研究Ⅰ | 中国現代文学研究Ⅰ | |
| 中国近代文学研究Ⅱ | 中国現代文学研究Ⅱ | |
| 韓国文化概論Ⅰ | 韓国文化特定研究Ⅰ | 韓国現代文学研究Ⅰ |
| 韓国文化概論Ⅱ | 韓国文化特定研究Ⅱ | 韓国現代文学研究Ⅱ |
| 韓国の宗教・社会Ⅰ | 韓国映像文化論Ⅰ | |
| 韓国の宗教・社会Ⅱ | 韓国映像文化論Ⅱ | |
| 東南アジアの宗教と文化Ⅰ | インドネシアの文化・芸術 | ベトナムの文化・芸術 |
| 東南アジアの宗教と文化Ⅱ | インドネシアの民族・地理 | ベトナムの民族・地理 |
| タイの文化・芸術 | タイの民族・地理 | |
| スペイン文学史Ⅰ | 現代スペイン文学Ⅰ | スペイン美術史Ⅰ |
| スペイン文学史Ⅱ | 現代スペイン文学Ⅱ | スペイン美術史Ⅱ |
| スペイン文化研究Ⅰ | ブラジルの文化・芸術 | 現代ラテンアメリカ文学Ⅰ |
| スペイン文化研究Ⅱ | ブラジルの宗教・社会 | 現代ラテンアメリカ文学Ⅱ |
| ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅰ | ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅱ | ラテンアメリカの文化と文学 |
| 日本文学論Ⅰ | 日本文化論Ⅰ | 日本の宗教Ⅰ |
| 日本文学論Ⅱ | 日本文化論Ⅱ | 日本の宗教Ⅱ |
| 日本美術史Ⅰ | 日本芸能史Ⅰ | 日本倫理思想史Ⅰ |
| 日本美術史Ⅱ | 日本芸能史Ⅱ | 日本倫理思想史Ⅱ |
| 日本近代思想史Ⅰ | 日本大衆文化論 | The Literatures of Japan |
| 日本近代思想史Ⅱ | Japanese Religions | Japanese Popular Cultures |
| Tourism and Local Cultures of Japan | | |
| 民族と文化Ⅰ（a） | 民族と文化Ⅱ（a） | |
| 民族と文化Ⅰ（b） | 民族と文化Ⅱ（b） | |
| **比較文化** | | |
| 比較文明論Ⅰ | 比較思想Ⅰ | 比較文学概論Ⅰ |
| 比較文明論Ⅱ | 比較思想Ⅱ | 比較文学概論Ⅱ |
| 日英比較文化論Ⅰ | 日米比較文化論Ⅰ | 日米比較教育論 |
| 日英比較文化論Ⅱ | 日米比較文化論Ⅱ | |
| **人間の探求** | | |
| 文化人類学概論Ⅰ | 文化人類学研究Ⅰ | 民族・宗教問題研究 |
| 文化人類学概論Ⅱ | 文化人類学研究Ⅱ | 文化心理学Ⅰ |
| キリスト教文化論Ⅰ | イスラム文化論Ⅰ | 文化心理学Ⅱ |
| キリスト教文化論Ⅱ | イスラム文化論Ⅱ | スポーツ文化論Ⅰ |
| 人権論 | 児童文化論 | スポーツ文化論Ⅱ |
| ジェンダー論 | アート・マネジメント | 演劇「実技」Ⅰ |
| 身体運動文化論 | 健康科学論 | 演劇「実技」Ⅱ |

コース研究科目一覧

【総合文化研究コース】

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 英文学史Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 英文学史Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米文学史Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米文学史Ⅱ | | | | 2 | 「Survey of American Literature」と「米文学史Ⅱ」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修C |
| Survey of American Literature | | | | 2 | C基準 /「Survey of American Literature」と「米文学史Ⅱ」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修B |
| 英文学講義Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 英文学講義Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米文学講義Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米文学講義Ⅱ | | | | 2 | 「Themes in American Literature」と「米文学講義Ⅱ」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修C |
| Themes in American Literature | | | | 2 | C基準 /「Themes in American Literature」と「米文学講義Ⅱ」は同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可 | 英米：選択必修B |
| | 英文学研究Ⅰ | | | 2 | C基準 | |
| | 英文学研究Ⅱ | | | 2 | C基準 | |
| | 米文学研究Ⅰ | | | 2 | C基準 | |
| | 米文学研究Ⅱ | | | 2 | C基準 | |
| 米国文化論Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米国文化論Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| | | 米国文化原書講読Ⅰ | | 2 | C基準 | |
| | | 米国文化原書講読Ⅱ | | 2 | C基準 | |
| 中国思想概論Ⅰ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国思想概論Ⅱ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国文化概論Ⅰ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国文化概論Ⅱ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国文学概論Ⅰ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国文学概論Ⅱ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国文学史Ⅰ | | | | 2 | | |
| 中国文学史Ⅱ | | | | 2 | | |
| | | 中国古典講読Ⅰ | | 2 | | 中国：選択必修 |
| | | 中国古典講読Ⅱ | | 2 | | 中国：選択必修 |
| | | 中国近世文学研究Ⅰ | | 2 | | |
| | | 中国近世文学研究Ⅱ | | 2 | | |
| | 中国近代文学研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | 中国近代文学研究Ⅱ | | | 2 | | |
| | 中国現代文学研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | 中国現代文学研究Ⅱ | | | 2 | | |
| 韓国文化概論Ⅰ | | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| 韓国文化概論Ⅱ | | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| | 韓国の宗教・社会Ⅰ | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| | 韓国の宗教・社会Ⅱ | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| | 韓国文化特定研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | 韓国文化特定研究Ⅱ | | | 2 | | |
| | 韓国映像文化論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 韓国映像文化論Ⅱ | | | 2 | | |

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| | | 韓国現代文学研究Ⅰ | | 2 | | |
| | | 韓国現代文学研究Ⅱ | | 2 | | |
| | インドネシアの文化・芸術 | | | 2 | | インドネシア：選択必修 |
| | インドネシアの民族・地理 | | | 2 | | インドネシア：選択必修 |
| | ベトナムの文化・芸術 | | | 2 | | ベトナム：選択必修 |
| | ベトナムの民族・地理 | | | 2 | | ベトナム：選択必修 |
| | タイの文化・芸術 | | | 2 | | タイ：選択必修 |
| | タイの民族・地理 | | | 2 | | タイ：選択必修 |
| 東南アジアの宗教と文化Ⅰ | | | | 2 | | |
| 東南アジアの宗教と文化Ⅱ | | | | 2 | | |
| スペイン文学史Ⅰ | | | | 2 | | スペイン：選択必修 |
| スペイン文学史Ⅱ | | | | 2 | | スペイン：選択必修 |
| | スペイン文化研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | スペイン文化研究Ⅱ | | | 2 | | |
| | 現代スペイン文学Ⅰ | | | 2 | | |
| | 現代スペイン文学Ⅱ | | | 2 | | |
| | 現代ラテンアメリカ文学Ⅰ | | | 2 | | |
| | 現代ラテンアメリカ文学Ⅱ | | | 2 | | |
| | | ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅰ | | 2 | | |
| | | ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅱ | | 2 | | |
| | | ラテンアメリカの文化と文学 | | 2 | | |
| | スペイン美術史Ⅰ | | | 2 | | |
| | スペイン美術史Ⅱ | | | 2 | | |
| | ブラジルの文化・芸術 | | | 2 | | ブラジル・ポルトガル：選択必修 |
| | ブラジルの宗教・社会 | | | 2 | | ブラジル・ポルトガル：選択必修 |
| 日本文化論Ⅰ | | | | 2 | | IC専攻（留学生含む）：選択必修B |
| 日本文化論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 日本近代思想史Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本近代思想史Ⅱ | | | | 2 | | |
| 日本倫理思想史Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本倫理思想史Ⅱ | | | | 2 | | |
| 日本の宗教Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本の宗教Ⅱ | | | | 2 | | |
| 日本美術史Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本美術史Ⅱ | | | | 2 | | |
| 日本芸能史Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本芸能史Ⅱ | | | | 2 | | |
| 日本文学論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本文学論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 日本大衆文化論 | | | | 2 | | |

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| Tourism and Local Cultures of Japan | | | | 2 | C基準 | |
| Japanese Religions | | | | 2 | C基準 | |
| The Literatures of Japan | | | | 2 | C基準 | 英米：選択必修B |
| Japanese Popular Cultures | | | | 2 | C基準 | 英米：選択必修B |
| 民族と文化Ⅰ（a） | | | | 2 | | |
| 民族と文化Ⅰ（b） | | | | 2 | | |
| 民族と文化Ⅱ（a） | | | | 2 | | |
| 民族と文化Ⅱ（b） | | | | 2 | | |
| 文化について考える | | | | 2 | 4単位まで履修可 | |
| 比較文明論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 比較文明論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 比較思想Ⅰ | | | | 2 | | |
| 比較思想Ⅱ | | | | 2 | | |
| | 比較文学概論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 比較文学概論Ⅱ | | | 2 | | |
| 日英比較文化論Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 日英比較文化論Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 日米比較文化論Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 日米比較文化論Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 日米比較教育論 | | | | 2 | | |
| 民族・宗教問題研究 | | | | 2 | | |
| キリスト教文化論Ⅰ | | | | 2 | | |
| キリスト教文化論Ⅱ | | | | 2 | | |
| イスラム文化論Ⅰ | | | | 2 | | |
| イスラム文化論Ⅱ | | | | 2 | | |
| | 文化心理学Ⅰ | | | 2 | | |
| | 文化心理学Ⅱ | | | 2 | | |
| スポーツ文化論Ⅰ | | | | 2 | | |
| スポーツ文化論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 文化人類学概論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 文化人類学概論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 文化人類学研究Ⅰ | | | | 2 | | |
| 文化人類学研究Ⅱ | | | | 2 | | |
| 身体運動文化論 | | | | 2 | | |
| 健康科学論 | | | | 2 | | |
| 人権論 | | | | 2 | | |
| ジェンダー論 | | | | 2 | | |
| アート・マネジメント | | | | 2 | | |
| 児童文化論 | | | | 4 | | |
| 演劇「実技」Ⅰ | | | | 1 | | |
| 演劇「実技」Ⅱ | | | | 1 | | |

## 4　地域・国際研究コース

**【コースの目的と概要】**

20世紀前半には２度の世界大戦があり、後半には東西冷戦とその崩壊、EUという壮大な国家連合が成立した。そして、アメリカのいわゆる9．11「同時多発テロ」とともに始まったのが現在我々の生きる21世紀である。現在の世界は大きな変動期にあると言われ、その未来を予見することは難しい。だが、過去・現在を通じて流れている「大きな底流・メガトレンド」の潮目を読み取ることができれば、今後の世界の動向、その方向性を探ることが可能になるだろう。その大きな流れとは、グローバリゼーション（国立国語研究所の日本語言い換え提案では「地球規模化」、中国語では「全球化」）とローカリゼーション（反グローバル化の運動や国家内の地域的自立化傾向）のせめぎ合いである。

このような新しい潮流の中で、地球レベルでの真の平和を確立するにはどうしたらよいのか、資源の有限性と環境の重要性を再認識して、いかに地球と共生していくか、富める国と貧しい国との格差を解消するにはどうしたらよいのかといった具体的な問題を直視し、その解決策について真剣に考えることが重要になってくる。これがまさに歴史を踏まえた、地球規模での「**国際研究 International Studies**」のねらいである。

と同時に、グローバリゼーションの波は、言語、宗教、生活価値観など民族や地域によって異なる人間の文化的多様性を際立たせる。経済やビジネスのグローバルスタンダード化がいかに進もうとも、人間が生活の営みを通じて築き上げてきた文化の多様性を尊重して多文化共生を図ろうとしなければ、結局、そのようなグローバリゼーションは人々の支持を失うことになろう。だからこそ、「**地域研究 Area Studies**」が必要になる。

このような問題意識をベースにして、激動する現代国際社会や地域を総合的に分析し、何がポイントであるかを理解し、自分自身の考え方や意見を発信できる総合力を養成すること、これが<地域・国際研究コース>の目標である。この目標を達成するためには、「国際研究」と「地域研究」に分類されている科目群を有機的に組み合わせて学習することが望ましい。

具体的には、社会科学領域の学問体系（政治学、法学、経済学、歴史学など）を基本的な方法論として勉学するとともに、「**国際研究**」では①［**総合**］国際関係に関わる問題やアクター（行為者）についての総合的研究（例：国際平和論、国際開発論、現代国家論、企業研究など）、②［**歴史・社会**］国際関係の歴史や広域的地域社会の研究（例：国際関係史、ラテンアメリカ史概論、東南アジア社会論など）、③［**政治・経済・法**］国際的および広域的地域の政治・経済や法の研究（例：国際関係論、国際法、東アジア政治経済論、ラテンアメリカ政治論など）、「**地域研究**」では④［**社会**］具体的な地域社会の研究（例：米国社会論、中国社会事情、日本社会論など）、⑤［**歴史**］各地域の歴史研究（例：米国史概論、中国史概論、日本現代史など）、⑥［**政治・経済・法**］各地域の政治・経済と法の研究（例：米国政治論、中国経済論、米国契約法など）を組み合わせて学習することで、幅広く知識を得ることができる。

さらには、これらで学んだ広い知識を基に、「研究演習」において特定の問題に関する認識を一層深め、「卒業研究」によって学習成果をまとめることができれば、現代の諸問題により積極的に関わることができる。「研究演習」と「卒業研究」では、講義科目中心の「研究科目」とは違った新たな発見や気づきが得られるはずである。

**【コースを選択する心構えとして】**

<地域・国際研究コース>を選択するかどうかを判断する前に、コースの入門講座である「国際社会が見えてくる」をまず受講することを勧めたい。オムニバス形式（毎回、講師とテーマが変わるスタイルの授業）で、国際研究・地域研究の重要テーマを、社会科学の各領域から分析し、何がポイントであるか、わかりやすく解説する。<総合文化研究コース>も半期毎にオムニバス形式の講座「文化について考える」を提供しているが、本講座も、世界のあり方についてのさまざまな視座を提供してくれる。両者を受講することによっ

て、コース選択や科目履修の計画を立てる際の参考にもなる。

本コースで開設されている科目は幅広く、多様である。それだけに、自分が何を目指すのか（例えば、外交官、ジャーナリスト、国際公務員、国際交流に関わる地方公務員、国際的な企業活動に携わるビジネスパーソン、NGO活動、国際問題に敏感な市民、教員、大学院進学など)、何を重点的に勉強したいのか（国際政治、国際経済、国際ビジネス、環境問題、経済援助、特定地域の総合的理解など）を明確にして有意義な履修計画を立てることが望ましい。

大学の勉学で重要なことは、(すぐ目に見えて役には立たないかもしれないが）理想と現実との狭間の中でどのような生き方を選択するのか、自己実現を達成するためにはどうしたらいいのか、こうした極めて基本的な命題に関して、有効な知識と研ぎ澄まされた感性を磨くことである。まさに、“cool head & warm heart” を持った人への成長が期待される。<地域・国際研究コース>には、冷酷な現実を直視するが（するからこそ)、現実だけに流されない理想論をしっかりと見据える講義が沢山ある。それを発見するのは君自身だ。このコースの学習を通して「鋭い問題意識」と「冷静な分析力」と「情熱を燃やす行動力」とを持ち合わせる人間に成長することを期待する。

## 地域・国際研究コース　科目分類表（指定授業科目一覧）

| 国際研究 | | |
|---|---|---|
| 総合 | 歴史・社会 | 政治・経済・法 |
| 国際社会が見えてくる | 国際関係史Ⅰ | 国際関係論Ⅰ |
| 国際協力入門 | 国際関係史Ⅱ | 国際関係論Ⅱ |
| 国際平和論Ⅰ | 国際社会論Ⅰ | 国際経営論Ⅰ |
| 国際平和論Ⅱ | 国際社会論Ⅱ | 国際経営論Ⅱ |
| 国際開発論Ⅰ | 海外華人論Ⅰ | 国際経済論Ⅰ |
| 国際開発論Ⅱ | 海外華人論Ⅱ | 国際経済論Ⅱ |
| 国際機構論Ⅰ | 日韓関係史Ⅰ | 国際マーケティング論 |
| 国際機構論Ⅱ | 日韓関係史Ⅱ | 多国籍企業論 |
| 国際ボランティア | 東南アジア史Ⅰ | 日中関係論Ⅰ |
| 現代国家論Ⅰ | 東南アジア史Ⅱ | 日中関係論Ⅱ |
| 現代国家論Ⅱ | イベリア史概論Ⅰ | 日米関係論Ⅰ |
| 社会思想史Ⅰ | イベリア史概論Ⅱ | 日米関係論Ⅱ |
| 社会思想史Ⅱ | ラテンアメリカ史概論Ⅰ | 東アジア政治経済論Ⅰ |
| 社会調査法Ⅰ | ラテンアメリカ史概論Ⅱ | 東アジア政治経済論Ⅱ |
| 社会調査法Ⅱ | ラテンアメリカ現代史Ⅰ | ヨーロッパ政治経済論Ⅰ |
| 地域研究 | ラテンアメリカ現代史Ⅱ | ヨーロッパ政治経済論Ⅱ |
| マーケティングリサーチ | ポルトガル語圏の世界 | 東南アジア政治経済論Ⅰ |
| 環境科学Ⅰ | オセアニア研究入門Ⅰ | 東南アジア政治経済論Ⅱ |
| 環境科学Ⅱ | オセアニア研究入門Ⅱ | ラテンアメリカ経済論Ⅰ |
| 企業行動論Ⅰ | イベロアメリカ研究入門 | ラテンアメリカ経済論Ⅱ |
| 企業行動論Ⅱ | 東南アジア研究入門Ⅰ | ラテンアメリカ政治論Ⅰ |
| 企業研究Ⅰ | 東南アジア研究入門Ⅱ | ラテンアメリカ政治論Ⅱ |
| 企業研究Ⅱ | アフリカ研究入門Ⅰ | 国際法Ⅰ |
| 企業財務Ⅰ | アフリカ研究入門Ⅱ | 国際法Ⅱ |
| 企業財務Ⅱ | アジア研究入門 | 国際取引法Ⅰ |
| 簿記会計Ⅰ | ラテンアメリカ研究Ⅰ | 国際取引法Ⅱ |
| 簿記会計Ⅱ | ラテンアメリカ研究Ⅱ | 法と国際ビジネス |
| アントレプレナーシップ論 | 東南アジア社会論Ⅰ | 英米法Ⅰ |
| | 東南アジア社会論Ⅱ | 英米法Ⅱ |
| | Topics in Oceanian Studies | イベロアメリカの法と文化 |
| | | 民法概論Ⅰ |
| | | 民法概論Ⅱ |
| | | 商法概論Ⅰ |
| | | 商法概論Ⅱ |
| | | International Relations : Japan in the Asian Context |

| 地域研究 | | |
|---|---|---|
| 社会 | 歴史 | 政治・経済・法 |
| 英国研究入門Ⅰ | 英国史概論Ⅰ | 米国政治論Ⅰ |
| 英国研究入門Ⅱ | 英国史概論Ⅱ | 米国政治論Ⅱ |
| 米国研究入門Ⅰ | 米国史概論Ⅰ | 米国政治・外交研究特論Ⅰ |
| 米国研究入門Ⅱ | 米国史概論Ⅱ | 米国政治・外交研究特論Ⅱ |
| 米国社会論Ⅰ | 中国史概論Ⅰ | 米国外交論Ⅰ |
| 米国社会論Ⅱ | 中国史概論Ⅱ | 米国外交論Ⅱ |
| 米国社会史研究特論Ⅰ | 中国現代史Ⅰ | 米国経済論Ⅰ |
| 米国社会史研究特論Ⅱ | 中国現代史Ⅱ | 米国経済論Ⅱ |
| 米国社会原書講読Ⅰ | 韓国史概論Ⅰ | 米国契約法 |
| 米国社会原書講読Ⅱ | 韓国史概論Ⅱ | 中国経済概論Ⅰ |
| カナダ研究入門Ⅰ | 韓国近代史Ⅰ | 中国経済概論Ⅱ |
| カナダ研究入門Ⅱ | 韓国近代史Ⅱ | 中国政治外交概論Ⅰ |
| インドネシア研究入門 | 韓国史特講Ⅰ | 中国政治外交概論Ⅱ |
| ベトナム研究入門 | 韓国史特講Ⅱ | 中国経済特殊研究Ⅰ |
| タイ研究入門 | 日本近代史 | 中国経済特殊研究Ⅱ |
| ブラジル研究入門 | 日本現代史 | 中国政治外交特殊研究Ⅰ |
| ブラジルの民族・地理 | 日本外交史Ⅰ | 中国政治外交特殊研究Ⅱ |
| メキシコ特殊研究Ⅰ | 日本外交史Ⅱ | 韓国政治論Ⅰ |
| メキシコ特殊研究Ⅱ | ブラジルの歴史 | 韓国政治論Ⅱ |
| 中国社会事情Ⅰ | スペイン現代史Ⅰ | 韓国経済論Ⅰ |
| 中国社会事情Ⅱ | スペイン現代史Ⅱ | 韓国経済論Ⅱ |
| 中国社会特殊研究Ⅰ | インドネシアの歴史 | ブラジルの政治・経済Ⅰ |
| 中国社会特殊研究Ⅱ | ベトナムの歴史 | ブラジルの政治・経済Ⅱ |
| 日本社会論Ⅰ | タイの歴史 | スペイン経済論Ⅰ |
| 日本社会論Ⅱ | History of the United States Ⅰ | スペイン経済論Ⅱ |
| インドネシアの宗教・社会 | History of the United States Ⅱ | 日本経済論Ⅰ |
| ベトナムの宗教・社会 | The History of Modern Japan | 日本経済論Ⅱ |
| タイの宗教・社会 | The History of Premodern Japan | 日本政治論Ⅰ |
| カナダ文化実地研究 | | 日本政治論Ⅱ |
| 英国文化実地研究 | | インドネシアの政治・経済Ⅰ |
| 米国文化実地研究 | | インドネシアの政治・経済Ⅱ |
| オセアニア文化実地研究 | | ベトナムの政治・経済Ⅰ |
| マレーシア文化実地研究（英語） | | ベトナムの政治・経済Ⅱ |
| Topics in Canadian Studies | | タイの政治・経済Ⅰ |
| | | タイの政治・経済Ⅱ |
| | | Japanese Politics |

コース研究科目一覧

【地域・国際研究コース】

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 英国研究入門Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修A |
| 英国研究入門Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修A |
| 米国研究入門Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修A |
| 米国研究入門Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修A |
| オセアニア研究入門Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修A |
| オセアニア研究入門Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修A |
| カナダ研究入門Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修A |
| カナダ研究入門Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修A |
| Topics in Oceanian Studies | | | | 2 | | 英米：選択必修B |
| Topics in Canadian Studies | | | | 2 | C基準 | 英米：選択必修B |
| 英国文化実地研究 | | | | 4 | | 英米：選択必修B |
| 米国文化実地研究 | | | | 4 | | 英米：選択必修B |
| オセアニア文化実地研究 | | | | 4 | | 英米：選択必修B |
| カナダ文化実地研究 | | | | 4 | | 英米：選択必修B |
| マレーシア文化実地研究（英語） | | | | 4 | | 英米：選択必修B |
| 英国史概論Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 英国史概論Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| History of the United States Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修B |
| History of the United States Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修B |
| 米国史概論Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米国史概論Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米国政治論Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米国政治論Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米国外交論Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米国外交論Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米国経済論Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米国経済論Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米国社会論Ⅰ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 米国社会論Ⅱ | | | | 2 | | 英米：選択必修C |
| 英米法Ⅰ | | | | 2 | | |
| 英米法Ⅱ | | | | 2 | | |
| | 米国政治・外交研究特論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 米国政治・外交研究特論Ⅱ | | | 2 | | |
| | 米国社会史研究特論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 米国社会史研究特論Ⅱ | | | 2 | | |
| | | 米国社会原書講読Ⅰ | | 2 | C基準 | |
| | | 米国社会原書講読Ⅱ | | 2 | C基準 | |
| 日米関係論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日米関係論Ⅱ | | | | 2 | | |
| アジア研究入門 | | | | 2 | | アジア言語学科（全）：必修 |
| 中国社会事情Ⅰ | | | | 2 | | 中国：必修 |
| 中国社会事情Ⅱ | | | | 2 | | 中国：必修 |
| 中国史概論Ⅰ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国史概論Ⅱ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国現代史Ⅰ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国現代史Ⅱ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国経済概論Ⅰ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| 中国経済概論Ⅱ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国政治外交概論Ⅰ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| 中国政治外交概論Ⅱ | | | | 2 | | 中国：選択必修 |
| | 中国社会特殊研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | 中国社会特殊研究Ⅱ | | | 2 | | |
| | 中国経済特殊研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | 中国経済特殊研究Ⅱ | | | 2 | | |
| | 中国政治外交特殊研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | 中国政治外交特殊研究Ⅱ | | | 2 | | |
| | 海外華人論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 海外華人論Ⅱ | | | 2 | | |
| 日中関係論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日中関係論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 韓国史概論Ⅰ | | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| 韓国史概論Ⅱ | | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| | 日韓関係史Ⅰ | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| | 日韓関係史Ⅱ | | | 2 | | 韓国：選択必修 |
| | 韓国政治論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 韓国政治論Ⅱ | | | 2 | | |
| | 韓国経済論Ⅰ | | | 2 | | |
| | 韓国経済論Ⅱ | | | 2 | | |
| | 韓国近代史Ⅰ | | | 2 | | |
| | 韓国近代史Ⅱ | | | 2 | | |
| | 韓国史特講Ⅰ | | | 2 | | |
| | 韓国史特講Ⅱ | | | 2 | | |
| インドネシア研究入門 | | | | 2 | | インドネシア：必修 |
| | インドネシアの歴史 | | | 2 | | インドネシア：選択必修 |
| | インドネシアの宗教・社会 | | | 2 | | インドネシア：選択必修 |
| | インドネシアの政治・経済Ⅰ | | | 2 | | インドネシア：選択必修 |
| | インドネシアの政治・経済Ⅱ | | | 2 | | インドネシア：選択必修 |
| ベトナム研究入門 | | | | 2 | | ベトナム：必修 |
| | ベトナムの歴史 | | | 2 | | ベトナム：選択必修 |
| | ベトナムの宗教・社会 | | | 2 | | ベトナム：選択必修 |
| | ベトナムの政治・経済Ⅰ | | | 2 | | ベトナム：選択必修 |
| | ベトナムの政治・経済Ⅱ | | | 2 | | ベトナム：選択必修 |
| タイ研究入門 | | | | 2 | | タイ：必修 |
| | タイの歴史 | | | 2 | | タイ：選択必修 |
| | タイの宗教・社会 | | | 2 | | タイ：選択必修 |
| | タイの政治・経済Ⅰ | | | 2 | | タイ：選択必修 |
| | タイの政治・経済Ⅱ | | | 2 | | タイ：選択必修 |
| 東南アジア研究入門Ⅰ | | | | 2 | | |
| 東南アジア研究入門Ⅱ | | | | 2 | | |
| 東南アジア史Ⅰ | | | | 2 | | |
| 東南アジア史Ⅱ | | | | 2 | | |
| 東南アジア社会論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 東南アジア社会論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 東南アジア政治経済論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 東南アジア政治経済論Ⅱ | | | | 2 | | |
| イベロアメリカ研究入門 | | | | 2 | | イベロアメリカ言語学科（全）：必修 |

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| イベリア史概論Ⅰ | | | | 2 | | スペイン：選択必修 |
| イベリア史概論Ⅱ | | | | 2 | | スペイン：選択必修 |
| イベロアメリカの法と文化 | | | | 2 | | |
| | スペイン現代史Ⅰ | | | 2 | | |
| | スペイン現代史Ⅱ | | | 2 | | |
| | スペイン経済論Ⅰ | | | 2 | | |
| | スペイン経済論Ⅱ | | | 2 | | |
| ラテンアメリカ史概論Ⅰ | | | | 2 | | スペイン：選択必修 |
| ラテンアメリカ史概論Ⅱ | | | | 2 | | スペイン：選択必修 |
| ラテンアメリカ政治論Ⅰ | | | | 2 | | |
| ラテンアメリカ政治論Ⅱ | | | | 2 | | |
| | ラテンアメリカ現代史Ⅰ | | | 2 | | |
| | ラテンアメリカ現代史Ⅱ | | | 2 | | |
| | ラテンアメリカ経済論Ⅰ | | | 2 | | |
| | ラテンアメリカ経済論Ⅱ | | | 2 | | |
| | ラテンアメリカ研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | ラテンアメリカ研究Ⅱ | | | 2 | | |
| | メキシコ特殊研究Ⅰ | | | 2 | | |
| | メキシコ特殊研究Ⅱ | | | 2 | | |
| ブラジル研究入門 | | | | 2 | | ブラジル・ポルトガル：必修 |
| | ブラジルの民族・地理 | | | 2 | | ブラジル・ポルトガル：選択必修 |
| | ブラジルの歴史 | | | 2 | | ブラジル・ポルトガル：選択必修 |
| | ブラジルの政治・経済Ⅰ | | | 2 | | ブラジル・ポルトガル：選択必修 |
| | ブラジルの政治・経済Ⅱ | | | 2 | | ブラジル・ポルトガル：選択必修 |
| | ポルトガル語圏の世界 | | | 2 | | ブラジル・ポルトガル：選択必修 |
| 国際社会が見えてくる | | | | 2 | 4単位まで履修可 | IC専攻（留学生含む）：選択必修A |
| 国際関係史Ⅰ | | | | 2 | | IC専攻（留学生含む）：選択必修A |
| 国際関係史Ⅱ | | | | 2 | | IC専攻（留学生含む）：選択必修A |
| 国際関係論Ⅰ | | | | 2 | | IC専攻（留学生含む）：選択必修A |
| 国際関係論Ⅱ | | | | 2 | | IC専攻（留学生含む）：選択必修A |
| 国際社会論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 国際社会論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 国際経済論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 国際経済論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 国際法Ⅰ | | | | 2 | | |
| 国際法Ⅱ | | | | 2 | | |
| 国際機構論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 国際機構論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 国際取引法Ⅰ | | | | 2 | | |
| 国際取引法Ⅱ | | | | 2 | | |
| 国際マーケティング論 | | | | 2 | | |
| 多国籍企業論 | | | | 2 | | |
| 国際協力入門 | | | | 2 | | |
| 国際平和論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 国際平和論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 国際開発論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 国際開発論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 国際ボランティア | | | | 2 | | |
| The History of Modern Japan | | | | 2 | C基準 | 英米：選択必修B |

| 履修年次 | | | | 単位 | 履修条件 | 学科・専攻での指定状況 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | | | |
| The History of Premodern Japan | | | | 2 | C基準 | |
| International Relations:Japan in the Asian Context | | | | 2 | C基準 | |
| Japanese Politics | | | | 2 | C基準 | |
| 日本近代史 | | | | 2 | | IC専攻（留学生含む）：選択必修B |
| 日本現代史 | | | | 2 | | IC専攻（留学生含む）：選択必修B |
| 日本政治論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本政治論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 日本経済論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本経済論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 日本社会論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本社会論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 日本外交史Ⅰ | | | | 2 | | |
| 日本外交史Ⅱ | | | | 2 | | |
| 東アジア政治経済論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 東アジア政治経済論Ⅱ | | | | 2 | | |
| ヨーロッパ政治経済論Ⅰ | | | | 2 | | |
| ヨーロッパ政治経済論Ⅱ | | | | 2 | | |
| アフリカ研究入門Ⅰ | | | | 2 | | |
| アフリカ研究入門Ⅱ | | | | 2 | | |
| | 地域研究 | | | 2 | | |
| 社会思想史Ⅰ | | | | 2 | | |
| 社会思想史Ⅱ | | | | 2 | | |
| 現代国家論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 現代国家論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 社会調査法Ⅰ | | | | 2 | | |
| 社会調査法Ⅱ | | | | 2 | | |
| 環境科学Ⅰ | | | | 2 | | |
| 環境科学Ⅱ | | | | 2 | | |
| | 企業研究Ⅰ | | | 2 | | IBC専攻：２年前期必修 |
| | 企業研究Ⅱ | | | 2 | | IBC専攻：２年後期必修 |
| | 簿記会計Ⅰ | | | 2 | | IBC専攻：２年前期必修 |
| | 簿記会計Ⅱ | | | 2 | | IBC専攻：２年後期必修 |
| 国際経営論Ⅰ | | | | 2 | | IBC専攻：選択必修 |
| 国際経営論Ⅱ | | | | 2 | | |
| | | マーケティングリサーチ | | 2 | | IBC専攻：選択必修 |
| | | アントレプレナーシップ論 | | 2 | | IBC専攻：選択必修 |
| | | 企業行動論Ⅰ | | 2 | | IBC専攻：選択必修 |
| | | 企業行動論Ⅱ | | 2 | | IBC専攻：選択必修 |
| 企業財務Ⅰ | | | | 2 | | |
| 企業財務Ⅱ | | | | 2 | | |
| 民法概論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 民法概論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 商法概論Ⅰ | | | | 2 | | |
| 商法概論Ⅱ | | | | 2 | | |
| 米国契約法 | | | | 2 | | |
| 法と国際ビジネス | | | | 2 | | |

### ⑹ 研究演習

イ.「研究演習」は、同一の授業科目を２年連続して履修することができます。

「研究演習」の修得単位は、「卒業研究」の修得単位と合わせて８単位まで「コース指定研究科目」に加算されます。８単位を超過した単位は自由選択科目に充てられます。

ロ.「研究演習」を履修しない場合、「コース指定研究科目」の卒業要件単位は、自身の所属するコースの研究科目で修得してください。

| 科　目　名 | 履修年次 | 単位数 | | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | |
| 研究演習 | ３～４ | | 4 | ３年次には２科目まで、４年次には１科目のみ履修可 |

### ⑺ 卒業研究

詳細は各年度のはじめに配布する『学年暦・履修方法変更点・注意事項等』の「卒業研究について」を参照してください。

イ.「卒業研究」の修得単位は、「研究演習」の修得単位と合わせて８単位まで「コース指定研究科目」に加算されます。８単位を超過した単位は自由選択科目となります。

ロ.「卒業研究」を履修しない場合、「コース指定研究科目」の卒業要件単位は、自身の所属するコースの研究科目及び研究演習で修得してください。

| 科　目　名 | 履修年次 | 単位数 | | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | |
| 卒業研究 | 4 | | 4 | 履修資格を有する者に限る |

### ⑻ 教職科目

イ．教育職員免許状取得に関わる授業科目は、１年次から履修できます。

ロ．教育職員免許状取得については、教務課及び教職用掲示板で指示することがあるので、注意してください。

ハ．教職科目のうち、「教職に関する科目」は、履修した場合自由選択科目として８単位まで卒業要件単位に充てることができます。ただし、「教育事前事後実習」、「教育実践実習Ⅰ」、「教育実践実習Ⅱ」は卒業要件単位に充てることはできません。

ニ．授業科目の一覧および履修年次については、「Ⅻ 教職課程履修要項」を参照してください。

ホ.「介護等体験実習」及び「特別支援教育」はハ.の８単位とは別に自由選択科目として各１単位を卒業要件に充てることができます。

### ⑼ 自由選択科目

自由選択科目は、下記の科目を充てることができます。

イ．各科目群の要件を超えて修得した単位

ロ．合計８単位を超えて修得した研究演習（⑹研究演習　ロ.参照）・卒業研究（⑺卒業研究　ロ.参照）

ハ．教職に関する科目８単位まで及び「介護等体験実習」（１単位）、「特別支援教育」（１単位）（⑻教職科目のハ.及びホ.参照）

ニ．放送大学授業科目（20単位まで）

ホ．千葉県私立大学間単位互換包括協定に基づく他大学の授業科目（20単位まで）

ヘ．千葉圏域コンソーシアム単位互換協定に基づく千葉大学、敬愛大学、城西国際大学の授業科目（20単位まで）

ト．千葉工業大学との包括連携協定に基づく本学の定めた千葉工業大学の授業科目

（ニ～ト．「Ⅸ 他大学及び他機関で修得した単位の認定等について　1．単位の認定」参照）

チ．国内外留学制度を利用して修得した単位

リ．別表記載の科目

別表１

別表２（語学能力検定試験単位認定制度により修得した単位）

別表３（TOEIC演習、TOEFL演習）

別表４（学部生が履修可能な大学院開講科目）

自由選択科目　別表１

| 授業科目の名称 | 履修年次 | 単位数 | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|
| | | 必修 | 選択 | |
| キャリアデザイン | 1～4 | | 2 | |
| キャリア開発 | 1～4 | | 1 | 重複履修可 |
| ビジネス・インターンシップⅠ | 2～3 | | 2 | 評価は「Ｐ」※１ |
| ビジネス・インターンシップⅡ | 2～4 | | 2 | 評価は「Ｐ」※２ |
| 学習支援活動ボランティア | 1～4 | | 1 | 重複履修は不可、評価は「Ｐ」 |
| 外国語学習における個別学習指導論 | 2～4 | | 2 | |
| 国際ボランティア体験 | 1～4 | | 2 | ４単位まで履修可、評価は「Ｐ」 |
| 海外実地研修（ビジネス） | 1～4 | | 1～6 | 重複履修可、評価は「Ｐ」 |
| 海外実地研修（英語） | 1～4 | | 1～6 | |
| 海外実地研修（中国語） | 1～4 | | 1～6 | |
| 海外実地研修（韓国語） | 1～4 | | 1～6 | |
| 海外実地研修（スペイン語） | 1～4 | | 1～6 | |
| 海外実地研修（ポルトガル語） | 1～4 | | 1～6 | |
| 海外実地研修（インドネシア語） | 1～4 | | 1～2 | 重複履修可、評価は「Ａ＋、Ａ、Ｂ、Ｃ」 |
| 海外実地研修（ベトナム語） | 1～4 | | 1～2 | |
| 海外実地研修（タイ語） | 1～4 | | 1～2 | |
| 日本語総合講座Ⅱ | 1～4 | | 2 | 国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻留学生は外国語科目（選択必修）※３ |
| 日本語総合講座Ⅳ | 1～4 | | 2 | |
| 日本語総合講座Ⅴ | 1～4 | | 2 | |
| 日本語表現演習 | 2～4 | | 2 | |
| トライ・中国語 | 1～4 | | 1 | ・アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科の学生は、それぞれの専攻地域言語以外の外国語を履修すること。<br>・同一言語の履修は１回のみ。<br>・異なる言語の履修は制限なし。 |
| トライ・スペイン語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・韓国語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・フランス語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・ドイツ語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・イタリア語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・ロシア語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・アラビア語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・ベトナム語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・インドネシア語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・ポルトガル語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・タイ語 | 1～4 | | 1 | |
| トライ・ことばと文化 | 1～4 | | 1 | |

※１　履修条件…・前年度に実施する選考に合格した者。
・「情報基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修済み、あるいは同等の能力を持つ者。
・「ビジネス・インターンシップⅡ」も必ず履修すること。

※２　履修条件…「ビジネス･インターンシップⅠ」を履修した者､あるいは国内外を問わず在学中に35時間以上のインターンシップ体験を終了または実施中の者。

※３　履修希望者が多い場合は人数制限を行う場合もありますので、初回授業に必ず出席してください。

自由選択科目　別表２

| 科　目　名 | 履修年次 | 単位数 | 内　　容 |
|---|---|---|---|
| 検定試験（英語） | １～４ | | ＜英米語、国際コミュニケーション学科、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、ブラジル・ポルトガル語専攻＞ |
| | | 2 | TOEIC L&R 730-855、英検準１級、TOEFL ITP 550、TOEFL iBT 79、IELTS 6.0 |
| | | 4 | TOEIC L&R 860-990、英検１級、TOEFL ITP 600、TOEFL iBT 100、IELTS 7.0 |
| | | | ＜中国語専攻、スペイン語専攻、韓国語専攻＞ |
| | | 2 | TOEIC L&R 650-725、TOEFL ITP 520、TOEFL iBT 68、IELTS 5.5 |
| | | 4 | TOEIC L&R 730-855、英検準１級、TOEFL ITP 550、TOEFL iBT 79、IELTS 6.0 |
| | | 6 | TOEIC L&R 860-990、英検１級、TOEFL ITP 600、TOEFL iBT 100、IELTS 7.0 |
| 検定試験（中国語） | １～４ | | ＜中国語専攻＞ |
| | | 2 | 中国語検定試験　２級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）５級（180点以上210点未満） |
| | | 4 | 中国語検定試験　準１級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）５級（210点以上） |
| | | 6 | 中国語検定試験　１級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）６級（180点以上）＋口試高級※ |
| | | | ＜中国語専攻以外＞ |
| | | 2 | 中国語検定試験　３級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）４級（180点以上） |
| | | 4 | 中国語検定試験　２級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）５級（180点以上210点未満） |
| | | 6 | 中国語検定試験　準１級　あるいは　新漢語水平考試（新HSK）５級（210点以上） |
| 検定試験(スペイン語) | １～４ | | ＜スペイン語専攻＞ |
| | | 1 | DELE初級A2、スペイン語技能検定４級 |
| | | 2 | DELE中級B1 |
| | | 3 | DELE中上級B2 |
| | | 4 | スペイン語技能検定３級 |
| | | 5 | DELE上級C1、スペイン語技能検定２級 |
| | | 6 | DELE最上級C2、スペイン語技能検定１級 |
| | | | ＜スペイン語専攻以外＞ |
| | | 1 | DELE入門A1、スペイン語技能検定５級 |
| | | 2 | DELE初級A2、スペイン語技能検定４級 |
| | | 3 | DELE中級B1 |
| | | 4 | DELE中上級B2、スペイン語技能検定３級以上 |
| 検定試験（韓国語） | １～４ | | ＜韓国語専攻＞ |
| | | 2 | ハングル能力検定試験準２級、韓国語能力試験４級 |
| | | 4 | ハングル能力検定試験２級、韓国語能力試験５級 |
| | | 6 | ハングル能力検定試験１級、韓国語能力試験６級 |
| | | | ＜韓国語専攻以外＞ |
| | | 2 | ハングル能力検定試験４級、もしくは韓国語能力試験２級 |
| | | 4 | ハングル能力検定試験３級、もしくは韓国語能力試験３級 |
| | | 6 | ハングル能力検定試験準２級、もしくは韓国語能力試験４級 |
| 検定試験(インドネシア語) | １～４ | | ＜インドネシア語専攻＞ |
| | | 2 | インドネシア語技能検定試験Ｃ級 |
| | | 3 | インドネシア語技能検定試験Ｂ級 |
| | | 4 | インドネシア語技能検定試験Ａ級 |
| | | | ＜インドネシア語専攻以外＞ |
| | | 2 | インドネシア語技能検定試験Ｄ級 |
| | | 3 | インドネシア語技能検定試験Ｃ級 |

| 科　目　名 | 履修年次 | 単位数 | 内　　容 |
|---|---|---|---|
| 検定試験(ポルトガル語) | 1 ～ 4 | | ＜ブラジル・ポルトガル語専攻＞ |
| | | 1 | 国際ポルトガル語検定　準初級　(CIPLE) |
| | | 2 | 国際ポルトガル語検定　初級　(DEPLE) |
| | | 3 | 国際ポルトガル語検定　中級　(DIPLE) |
| | | 4 | ブラジル教育省による外国人のためのポルトガル語検定試験　中級 |
| | | | ＜ブラジル・ポルトガル語専攻以外＞ |
| | | 2 | 国際ポルトガル語検定　準初級　(CIPLE) |
| | | 3 | 国際ポルトガル語検定　初級　(DEPLE) |
| | | 4 | 国際ポルトガル語検定　中級　(DIPLE) |
| | | | ブラジル教育省による外国人のためのポルトガル語検定試験　中級 |
| 検定試験(フランス語) | 1 ～ 4 | 1 | 実用フランス語技能検定 4 級 |
| | | 2 | 実用フランス語技能検定 3 級、TCF レベル 1 、DELF A 1 |
| | | 3 | 実用フランス語技能検定準 2 級、TCF レベル 2 、DELF A 2 |
| | | 4 | 実用フランス語技能検定 2 級以上、TCF レベル 3 以上、DELF B 1 以上 |
| 検定試験（ドイツ語） | 1 ～ 4 | 1 | ドイツ語技能検定 4 級 |
| | | 2 | ドイツ語技能検定 3 級 |
| | | 3 | ドイツ語技能検定 2 級以上 |
| 検定試験(イタリア語) | 1 ～ 4 | 1 | 実用イタリア語検定 5 級 |
| | | 2 | 実用イタリア語検定 4 級 |
| | | 3 | 実用イタリア語検定 3 級以上 |
| 検定試験(アラビア語) | 1 ～ 4 | 1 | 実用アラビア語検定 6 級 |
| | | 2 | 実用アラビア語検定 5 級以上 |
| 検定試験（日本語） | 1 ～ 4 | 2 | 日本語能力試験N1（160～180点)、BJT ビジネス日本語能力テストJ1 レベル（530～599点)、J.TEST実用日本語検定B級（800点以上） |
| | | 4 | BJT ビジネス日本語能力テストJ 1 + レベル（600～800点)、J.TEST実用日本語検定A級（900点以上） |

※ 「新HSK 6 級」と「口試高級」の取得は、同一学期でなくとも申請を受け付けます。

上記の検定試験（外国語）は、成績評価「P」となり、認定は学期毎に行います。また、2 回目以降の単位認定は、すでに認定された単位を差し引いた単位数だけ認定されます。

検定試験（日本語）については国際コミュニケーション学科の「外国人留学生特別選抜試験」を経て入学した外国人留学生もしくは、在留資格が「留学」となっている外国人留学生のみ認定されます。

認定にあたっては、教務課窓口にて所定の申請手続きが必要です。申請期間は、前・後期の履修登録後に設けます。認定された単位は履修上限には含まれません。詳しい申請期間やスコアの有効期間、手続き方法等はCampus Webの掲示で確認して下さい。

自由選択科目　別表３

※　学科・専攻によっては、英語科目選択必修科目あるいは外国語科目英語・日本語選択科目などとして扱われます。

⑴　TOEIC演習（注１）

| 科　目　名 | 履修年次 | 単位数 | 履　修　条　件　・　備　考 |
|---|---|---|---|
| TOEIC 550演習<br>（オンライン） | １～４ | １ | TOEIC L&R 550点を目指すコース<br>TOEIC L&R 550点未満<br>※国際コミュニケーション学科の学生（留学生を除く）は１年次にのみ履修可 |
| TOEIC 600演習 | １～４ | １ | TOEIC L&R 600点を目指すコース<br>TOEIC L&R 600点未満<br>※国際コミュニケーション学科の学生（留学生を除く）は１年次にのみ履修可 |
| TOEIC 650演習 | １～４ | ２ | TOEIC L&R 650点を目指すコース<br>TOEIC L&R 500点以上650点未満<br>TOEIC未受験の場合は、TOEFL C基準（ITP 480, iBT 54）以上<br>※国際コミュニケーション学科の学生（留学生を除く）は同一レベルの「TOEIC演習（IC)」を特別演習科目必修科目として履修するため履修不可 |
| TOEIC 730演習 | １～４ | ２ | TOEIC L&R 730点を目指すコース<br>TOEIC L&R 600点以上730点未満<br>TOEIC未受験の場合は、TOEFL B基準（ITP 520, iBT 68）以上 |
| TOEIC 860演習 | １～４ | ２ | TOEIC L&R 860点を目指すコース<br>TOEIC L&R 700点以上860点未満<br>TOEIC未受験の場合は、TOEFL A基準(ITP 550, iBT 79）以上 |

（注１）・アジア言語学科、イベロアメリカ言語学科、国際コミュニケーション学科の学生（留学生を除く）が履修する場合、英語科目選択必修科目となります。

・国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻留学生が履修する場合、外国語科目英語・日本語選択科目となります。

・上記のいずれの科目も、出席などの条件を満たした上で、履修期間中に行われるTOEIC L&R公開テストまたは学内IPテストにおいて、各科目の目標スコアを超えなければ単位が発行されません。

⑵　TOEFL演習（注２）

| 科　目　名 | 履修年次 | 単位数 | 履　修　条　件　・　備　考 |
|---|---|---|---|
| TOEFL ITP 480演習 | 1 ～ 4 | 1 | **TOEFL C基準を目指すコース**<br>TOEFL ITP 480演習を未修得<br>※英米語学科の学生が履修する場合、英語科目選択必修科目のうち必修科目：詳細については英米語学科カリキュラム表を参照 |
| TOEFL ITP 520演習 | 1 ～ 4 | 1 | **TOEFL B基準を目指すコース**<br>TOEFL C基準（ITP 480, iBT 54）以上　B基準（ITP 520, iBT 68）未満 |
| TOEFL ITP 550演習 | 1 ～ 4 | 1 | **TOEFL A基準を目指すコース**<br>TOEFL B基準（ITP 520, iBT 68）以上　A基準（ITP 550, iBT 79）未満 |
| TOEFL iBT 68演習 | 1 ～ 4 | 2 | **TOEFL iBT B基準を目指すコース**<br>TOEFL C基準（ITP 480, iBT 54）以上　B基準（ITP 520, iBT 68）未満 |
| TOEFL iBT 80演習 | 1 ～ 4 | 2 | **TOEFL iBT 80を目指すコース**<br>TOEFL ITP 520以上　TOEFL iBT 68以上80未満 |

（注２）・英米語学科の学生が履修する場合、英語科目選択必修科目となります。

・国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻留学生が履修する場合、外国語科目英語・日本語選択科目となります。

・国際コミュニケーション学科の学生（留学生を除く）が「TOEFL iBT 68演習」および「TOEFL iBT 80」演習を履修する場合、英語科目選択必修科目となります。

・「TOEFL ITP 520演習」と「TOEFL iBT 68演習」、「TOEFL ITP 550演習」と「TOEFL iBT 80」演習は、同時履修出来ます。

・「TOEFL iBT 80演習」履修条件の特例

英米語学科以外の学生で、入学時にTOEICのA基準（TOEIC L&R 730点以上）を達成している者が履修を希望した場合、1年次前期に限り、担当教員との面談によりTOEFL未受験であっても履修を許可することがあります。

特例での履修を希望する学生は、最初の授業でTOEIC A基準を充たしているスコアを持参し、担当教員から履修許可を得てください。その上で、前期履修登録期間に教務課で所定の手続きを行ってください。

なお、この特例は1年次前期の「TOEFL iBT 80演習」のみに適用されるものであり、その他の「TOEFL演習」や1年次後期以降には特例措置はありません。

⑴・⑵共通の注意事項

・「TOEIC演習」と「TOEFL演習」の両方を、同時に履修することができます。

・第1回授業に、必ず直近のTOEIC L&R/TOEFLスコア（公開テストおよび学内IP/ITPテストどちらでも可）を持参してください。

・評価は「P」または「F」となります。（GPA算出対象外）

・「TOEIC演習」および「TOEFL演習」の履修者で、自由選択科目別表2の「検定試験（英語）」で定められたスコアを超えた場合は、申請すればさらに単位認定を受けることができます。対象となるスコアと認定される単位数は、学科・専攻により異なるので、上記の表を参照してください。

自由選択科目　別表４

学部生が履修可能な大学院開講科目一覧

＜全科目共通履修条件＞

１．学部３・４年次生であること。

２．科目担当教員の承認を事前に受け、履修登録期間に教務課で所定の手続きを行うこと。

（注意）以下の科目の講義概要については、電子シラバスの大学院科目欄を参照のこと。

| 科　目　名 | 単位数 | 担当教員名 | 履修条件（学部科目） |
|---|---|---|---|
| 言語学概論 | 4 | 岩本　遠億 | 特になし |
| 日本語学研究<br>（語彙・意味） | 4 | 岩本　遠億 | 日本語学IIを修得済 |
| 日本語学研究<br>（統語） | 4 | 長谷川　信子 | 日本語学概論または日本語学Ⅱまたは英語学概論を修得済 |
| 日本語学研究<br>（方言・日本語史） | 4 | 木川　行央 | 特になし |
| 日英対照言語研究 | 4 | 遠藤　喜雄 | 英語学概論または日本語学IIを修得済 |
| 日中対照言語研究 | 4 | 井上　優 | 特になし |
| 日韓対照言語研究<br>（院） | 4 | 浜之上　幸 | 特になし |
| 日本語教育学研究 | 4 | 堀場　裕紀江 | 日本語教授法を修得済 |
| 日本語教育文法研究 | 4 | 青木　ひろみ | 日本語学IIを修得済 |
| 日本語教育教材研究 | 4 | 広瀬　和佳子 | 日本語教授法を修得済 |
| 言語文化研究 | 4 | 遠藤　喜雄 | 特になし |
| 談話分析研究 | 4 | 遠藤　喜雄 | 英語学概論または日本語学概論または日本語学IIを修得済 |
| 日本研究 | 4 | 土田　宏成 | 特になし |
| 比較文化論 | 2 | Pasca Roman | 特になし　（隔年開講） |
| 比較文学研究 | 2 | Pasca Roman | 特になし　（隔年開講） |
| 社会言語学研究 | 4 | Sau Kuen Fan | コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましい |

# Ⅷ　試験及び学力評価について

## 1．試　験

1）試験の種類

試験の種類は、次の３種類です。

イ．期末試験

ロ．平常試験

ハ．レポート

上記の他、追試験及び進級再試験、卒業再試験、教職科目再試験、選択外国語科目再試験があります。

2）期末試験

イ．期末試験とは、その試験の結果により当該科目の単位修得の可否及び成績評価を決定づける試験であり、原則として大学が定めた期末試験期間に行われるものをさします。（授業期間に行われることもあります。）

ロ．追試験は、以下の理由で期末試験に欠席し、担当教員に承認された場合、受験することができます。受験を希望する場合、必ず証明書を用意した上で教務課の指示を受けてください。証明書が用意できない場合は、追試験の申し込みは出来ません。ただし、すべての科目で追試験が実施されるとは限らないので注意して下さい。公欠（以下の理由A及びB）によって期末試験を受験できなくなった学生については、所定の手続きを取れば受験できなかった全ての科目で追試もしくはそれに代わる措置を講じるものとします。ただし、その場合でも追試設定日やレポート提出期限は、前期は８月中旬まで、後期は２月上旬を限度とします。授業期間に行われる期末試験を欠席した場合の取り扱いについては、教員、教務課の指示を受けてください。

| 理　　由 | 証　明　書 |
|---|---|
| A．（公欠）学校感染症 | 登校許可書（p.6「公欠」学校感染症に罹患した場合を参照） |
| B．（公欠）裁判員制度による欠席 | 出頭命令書 |
| C．病気（学校感染症を除く） | 医師の診断書または病院の医療費領収書等 |
| D．忌引（三親等以内の通夜と葬儀。法事は含まない。） | 葬儀の日程などがわかる印刷物 |
| E．就職試験 | 就職試験受験を証明するもの |
| F．災害（台風・水害・火災等） | 被災証明書 |
| G．交通関係 | 遅延証明書（遅延）、事故証明書（事故） |
| H．教育実習 | 教育実習参加証明書（教職係にて発行） |
| I．体育スポーツセンターが認定する公式戦への出場 | 体育スポーツセンター長・学生委員長連名の欠席届 |

ハ．追試験の申し込みについては、次のことに注意してください。

①　追試験の受験を希望する場合、事前に担当教員へ直接連絡してください。ただし教員から追試験についての指示や連絡先が教えられていない場合には、教務課まで連絡してください。急な欠席の場合は当日中（やむを得ない場合は翌日の17時まで）に連絡してください。連絡のない場合には、追試験の受験資格がなくなります。追試験申請手続きは、当該科目の試験日から１週間以内に、教務課に証明書等を持参して追試験願（指定書式）を提出してください。当該科目担当教員から受験が許可された場合、追試験手数料（１つの事由につき１律1,500円）を納入して、手続きをしてください。なお、授業期間に行われる期末試験の追試験については、追試験手数料納入の必要はありません。

②　寝坊や勘違いなどの学生本人の責任に帰する理由は、一切認めません。

3）平常試験

イ．通常授業中に行う平常試験では、教務課手続きによる追試験はありません。欠席等の場合は、直接

担当教員に連絡して指示を受けてください。

ロ．公欠の場合は追試験は行われますが教務課での手続きは不要です。実施時期については、担当教員の指示を受けて下さい。

4）レポート

イ．レポートは、提出方法、提出期限、用紙等を十分に担当教員に確認のうえ、必ず学生本人が科目担当教員に提出してください。

ロ．公欠の場合には、レポートの提出期限は延長できるものとします。教務課での手続きは不要です。提出期限については、担当教員の指示を受けて下さい。

5）受験上の注意

イ．試験会場においては、学生証（追試験手数料を納入した場合は追試験手数料領収書を、進級再試験、卒業再試験、教職科目再試験、選択外国語科目再試験の場合は受験票を添える）を、必ず机上に置いてください。学生証を所持しない学生は、受験できません。学生証を忘れた場合は、教務課で「仮学生証」（当日のみ有効）の交付を受けてください。

ロ．試験開始後、15分以上の遅刻者は、受験することができません。また試験開始後20分を過ぎるまでは退場できません。入退室の許可については、担当教員の指示に従ってください。

ハ．試験答案に記名を忘れた場合は、未受験の扱いとなります。

ニ．スマートフォン・携帯電話・ウェアラブル端末・その他の電子機器類は、電源を切ってかばんの中にしまってください。

ホ．その他試験について別途指示することがあるので、注意してください。

6）不正行為厳禁

イ．レポートや論文で、他人が書いたものやインターネットの記述を丸写ししたり、資料や情報の出典を明記せずに使用してはいけません。それは剽窃（盗作）に当たり不正行為であり、著作権を侵害する犯罪です。

ロ．期末試験・平常試験で不正行為をした場合は、①その科目の単位は失格（不合格）となり、かつ、②当該学期の全履修登録科目も失格（不合格）となります。③さらに、譴責（けんせき）や停学等の処分を受けることがあります。

不正行為とは、試験（クイズ、小試験、平常試験、期末試験のすべてを含む）において正当な手段をとらずに自己の解答を作成すること、他人の不正行為を助けたり、監督者の指示に従わないことです。例えば、他の学生の答案を見る、他の学生に自分の答案を見せる、答えを口頭で教える、カンニングペーパーを使用する、などの行為です。

なお、疑われるような不審な行動も不正行為とみなされます。試験場では必ず注意事項を守り、監督者の指示に従うようにしてください。監督者の指示に従わないことも不正行為となります。

## 2．学力の評価

1）学力の評価

評価は「A+」、「A」、「B」、「C」、「F」、「P」の6種類によって表示します。

その基準は下記によります。

| | | |
|---|---|---|
| 100～90点 | A+ | 合格 |
| 89～80点 | A | |
| 79～70点 | B | |
| 69～60点 | C | |
| 認　定 | P | |
| 59～0点 | F | 不合格 |

ただし、卒業再試験、進級再試験（アジア言語学科、イベロアメリカ言語学科のみ）、教職科目再試験、選択外国語科目再試験（英米語学科、国際コミュニケーション学科のみ）の評価は、「C」、「F」の２種類（認定科目は「Ｐ」）によって表示します。

２）成績発表

成績は、Campus Webの成績照会画面で通知します。また、保証人に対しては別途成績通知表を郵送します。成績発表時期等については、Campus Webおよび掲示板で連絡します。

３）卒業要件の確認

イ．Campus Webの成績照会画面によって、学期毎に卒業要件、研究コースの修了要件を自分がどれだけ満たしているかを確認してください。確認を怠って４年間での卒業が困難とならないよう慎重に学修計画をたててください。

ロ．成績確認画面の「単位修得状況を見る」タブの見方について

A）必要単位：

●卒業に必要な単位が、各科目群（外国語科目・地域言語科目・選択外国語科目・特別演習科目・導入科目・教養科目・研究科目・自由選択科目）ごとに表示されています。この各科目群ごとの単位を合計すると「合計単位」欄に表記されている数字になります。「総修得単位」欄は、０になっています。

◆研究コース修了要件である24単位を意味する24が、「研究コース」欄に表示されています。研究コースは、合計で24単位以上取得することが卒業要件です。また、研究コースの予備登録は、２年次に行い、３年次に本登録を行います。従って、１年生の場合、研究コースの欄は、表示されません。

B）修得済単位数：

上記A）の●各科目群で定められた卒業に必要な単位と◆研究コース修了要件単位に対し、現在までの取得済み単位数が表示されています。●各科目群で定められた必要単位に対する、現在までの取得合計単位数を見る場合には、「合計単位」の欄を確認してください。

「総修得単位」欄の数字が、「合計単位」欄の数字より大きい場合は、卒業要件の単位としてカウントできない単位を含んでいます。

◆研究コース修了要件単位に対する、現在までの取得合計単位数を見る場合には、「研究コース」の欄を見てください。

C）不足単位数：

上記A）からB）を引き算した数、すなわち、卒業するために不足している単位数が、ここに表記されています。もし、この各欄（但し、「総修得単位」の各欄を除く。これらの欄は、必ず空欄のまま）に０以外の数字が表記されている場合には、卒業するのに必要な単位に対し、その数字分の単位数が不足していることを意味します。

ただし、学科・専攻によっては不足単位数がすべて０になっていても卒業要件を満たしたと判断できないケースもあるので、「Ⅶ　授業科目について」及び「学科・専攻別カリキュラム表」を参照し、注意して履修状況を確認してください。

不明な点がある場合は、必ず教務課窓口に自身で問い合わせてください。電話・メールでの問合せや、代理人からの問合せにはお応えできませんのでご了承ください。

ハ．表示されない科目

成績証明書には付与された「F」は表示されません。

## ３．GPA

１）GPA とその利用目的

GPA とは、Grade Point Average の略で、高校の評定平均のように学業結果を総合的に判断する指標

となるものです。成績評価の国際基準に対応するためだけではなく、自らが学習計画を策定する際の指標としても利用できます。その他、学習指導、進路指導、留学時の授業料免除の基礎資料としても利用されます。

2）GPAの計算式

学期毎に、個々の履修登録科目のGP（Grade Point）にその科目の単位数をかけ、その総和を履修登録科目の総単位数で割ってGPAを算出します。「F」評価（不合格）の科目も、GPA計算時の対象となります。認定科目（「P」or「F」）は、GPAの算出対象外です。

・成績評価基準

| 判　定 | 評　点 | 評　価 | GP |
|---|---|---|---|
| 合　格 | 100–90 | A+ | 4.0 |
| | 89–80 | A | 3.0 |
| | 79–70 | B | 2.0 |
| | 69–60 | C | 1.0 |
| | 認　定 | P※ | — |
| 不合格 | 59点以下 | F | 0 |

※認定科目は算出対象外

（例）：以下の6科目を履修登録し、その成績評価が次の通りであった。

| 【授業科目名】 | 【単位数】 | 【成績評価】 | 【単位数×Grade Point】 |
|---|---|---|---|
| 歴史学Ⅰ | 2 | A+ | 2 × 4 = 8 |
| 英語学概論 | 4 | B | 4 × 2 = 8 |
| 応用言語学 | 4 | A+ | 4 × 4 =16 |
| 日本文化論Ⅰ | 2 | A | 2 × 3 = 6 |
| 日本政治論Ⅰ | 2 | C | 2 × 1 = 2 |
| 環境科学Ⅰ | 2 | F | 2 × 0 = 0 |
| 合　　計 | 16単位① | | 40② |

GPA：（②÷①）→40÷16＝2.5（小数点第2位で四捨五入）

## 4．成績確認制度

イ．成績確認制度は、成績評価に対して、自分の学習成果が正しく反映しているかどうか疑いがある場合、科目担当教員に成績の確認を求める制度です。この制度を利用せずに科目担当教員に成績の確認や訂正の依頼をすることはできません。素点に関する確認や、成績変更の依頼などは認められません。

ロ．「成績確認」は、所定の期間内に教務課にて行ってください。

ハ．「成績確認」は、原則として本人が行ってください。

ニ．「成績確認」は、すべての評価が対象になります。

ホ．成績に関すること以外について「成績確認願」に記入した場合は受理されず「却下」となります。

ヘ．「成績確認願」提出にあたっては、できるかぎり主張を裏づける客観的資料を添付してください。なお、提出された資料は返却しないので、あらかじめコピーをとっておいてください。

## 5．2年次、3年次への進級再試験（アジア言語学科・イベロアメリカ言語学科）

イ．進級再試験は、以下の条件を満たした者のみ受験することができます。

①各専攻の基準を満たしていること。

②定期試験を受験している科目であること。

③担当教員が再試験を許可すること。

各専攻の基準は以下の通りです。

＜中国語専攻＞

２年次への進級再試験…１年次地域言語科目のうち、前期の科目（３単位、１単位、２単位）･後期の科目（３単位、１単位、２単位）のいずれかが不合格であること。

３年次への進級再試験…２年次地域言語科目のうち、前期の科目（２単位、１単位、１単位、１単位、１単位）･後期の科目（２単位、１単位、１単位、１単位、１単位）のいずれかが不合格であること。

例１）

| 前　　期 | | 後　　期 | | 再試験受験資格＊ |
|---|---|---|---|---|
| 中国語総合Ⅰ(a) | 合　格 | 中国語総合Ⅰ(b) | 不合格 | それぞれの不合格科目について受験資格あり |
| 中国語作文Ⅰ(a) | 不合格 | 中国語作文Ⅰ(b) | 合　格 | |
| 中国語会話Ⅰ(a) | 合　格 | 中国語会話Ⅰ(b) | 不合格 | |

＊いずれもその他の要件を満たしていた場合に認められる。

例２）

| 前　　期 | | 後　　期 | | 再試験受験資格 |
|---|---|---|---|---|
| 中国語総合Ⅰ(a) | 不合格 | 中国語総合Ⅰ(b) | 不合格 | 中国語総合Ⅰが前期、後期ともに不合格のため受験資格なし |
| 中国語作文Ⅰ(a) | 不合格 | 中国語作文Ⅰ(b) | 合　格 | |
| 中国語会話Ⅰ(a) | 合　格 | 中国語会話Ⅰ(b) | 不合格 | |

＜スペイン語専攻、韓国語専攻＞

２年次への進級再試験…１年次地域言語科目のうち、前期の科目（６単位）･後期の科目（６単位）のいずれかが不合格であること。

３年次への進級再試験…２年次地域言語科目のうち、前期の科目（６単位）･後期の科目（６単位）のいずれかが不合格であること。

＜インドネシア語専攻、ベトナム語専攻、タイ語専攻、ブラジル・ポルトガル語専攻＞

２年次への進級再試験…地域言語「基礎」科目Ⅰ・Ⅱ10単位の内、５単位以上修得していること。

３年次への進級再試験…地域言語「基礎」科目Ⅰ・Ⅱ10単位を修得しており、Ⅲ・Ⅳ10単位の内、５単位以上修得していること。

ロ．進級再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に進級再試験手数料（5,000円）を納入して手続きしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ．進級再試験の評価は、「C」、「F」の２ 種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点　C ―― 合　格

59～０点　F ―― 不合格

**６．卒業再試験**

イ．卒業再試験は、以下の条件を全て満たした４年次生のみ受験することができます。 ただし、すべての科目で卒業再試験が実施されるとは限らないので、注意してください。

①　卒業要件に対しての不足単位数が、８単位以内であること。

② 定期試験を受験している科目であること。

③ 担当教員が再試験を許可すること。

④ 再試験実施対象科目を合格した場合、卒業要件を満たすこと。

ロ．卒業再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に卒業再試験手数料（１科目5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ．卒業再試験の評価は、「C」、「F」の２種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点　C ―― 合　格

59～０点　F ―― 不合格

**7．教職科目再試験**

イ．教職科目再試験は、以下の条件を満たした４年次生のみ受験することができます。ただし、すべての科目で卒業再試験が実施されるとは限りません。

① 卒業要件及び教育職員免許状取得要件に対しての不足単位数の合計が、８単位以内であること。

② 定期試験を受験している科目であること。

③ 担当教員が再試験を許可すること。

ロ．教職科目再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に教職科目再試験手数料（１科目5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ．教職科目再試験の評価は、「C」、「F」の２種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点　C ―― 合　格

59～０点　F ―― 不合格

**8．選択外国語科目再試験**

イ．選択外国語科目再試験は、以下の条件を満たした４年次生のみ受験することができます。

①－１　Ⅰ(a) またはⅠ(b)の再試験 ……英米語学科及び国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻（留学生を除く）の４年次生でⅠ(a)（前期・２単位）・Ⅰ(b)（後期・２単位）のいずれかが不合格であり、かついずれかが合格であること。

①－２　Ⅰ(a) の再試験 ……国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻の４年次生でⅠ(a)（前期・２単位）が不合格であること。

② 定期試験を受験していること。

③ 担当教員が再試験を許可すること。

ロ．選択外国語科目再試験の受験を許可された場合は、必ず本人が所定の期日に選択外国語科目再試験手数料（１科目5,000円）を納入して手続きをしてください。代理人による手続きは、一切認められません。

ハ．選択外国語科目再試験の評価は、「C」、「F」の２種類によって表示します。

その基準は下記によります。

100～60点　C ―― 合　格

59～０点　F ―― 不合格

# Ⅸ　他大学及び他機関で修得した単位の認定等について

## 1．単位の認定

卒業要件単位として、あわせて60単位まで認定可能です。

| | 種　　類 | 上限 |
|---|---|---|
| ① | 海外の大学で修得した単位　（「Ⅹ　海外留学について」参照） | |
| ② | 大学院授業科目のうち学部生が履修可能と指定された科目 | |
| ③ | 放送大学の授業科目 | 20単位 |
| ④ | 千葉県私立大学・短期大学間単位互換包括協定に基づく他大学開講科目 | 20単位 |
| ⑤ | 千葉大学、敬愛大学、城西国際大学および本学から成る千葉圏域コンソーシアムの単位互換協定に基づく開講科目 | 20単位 |
| ⑥ | 千葉工業大学との包括連携協定に基づく本学が定めた千葉工業大学の授業科目 | |
| ⑦ | 入学前に他の大学・短大で修得した単位（外国語科目としては認定できません） | 30単位 |
| ⑧ | その他、大学が認めた教育機関で修得した単位 | |

注）編入学生については、編入学時に認定された単位数によって、他大学等で履修し認定される単位数に制限がかかることがあるので、教務課に相談して下さい。

## 2．必修単位の履修免除制度

当該外国語学力の極めて優秀な学生に対して、卒業要件の一部を履修免除します。

| 対象専攻・学科＼対象学年 | 1年 | 2年 | 免除科目の成績評価 |
|---|---|---|---|
| 中国語専攻 | 中国語総合Ⅰ（a）<br>中国語総合Ⅰ（b）<br>中国語作文Ⅰ（a）<br>中国語作文Ⅰ（b）<br>中国語会話Ⅰ（a）<br>中国語会話Ⅰ（b）<br>1～12単位 | 中国語総合Ⅱ－1（a）<br>中国語総合Ⅱ－1（b）<br>中国語作文Ⅱ（a）<br>中国語作文Ⅱ（b）<br>中国語会話Ⅱ（a）<br>中国語会話Ⅱ（b）<br>LL中国語（a)<br>LL中国語（b)<br>1～10単位 | A+ |
| 韓国語専攻 | 韓国語基礎Ⅰ、Ⅱのうち会話に相当する各2単位 | 韓国語基礎Ⅲ、Ⅳのうち会話に相当する各2単位 | 全600点満点のうちの200点 |
| インドネシア語専攻<br>ベトナム語専攻<br>タイ語専攻 | 地域言語科目 | 地域言語科目 | 単位発行を伴わない免除 |
| スペイン語専攻 | スペイン語基礎Ⅰ（a）<br>スペイン語基礎Ⅰ（b） | スペイン語基礎Ⅱ（a）<br>スペイン語基礎Ⅱ（b） | A+ |

## 3．千葉県内の他大学の授業科目の認定について

千葉県内の他大学の授業科目は、以下のように履修が可能です。

| | |
|---|---|
| 方　　法 | 1．教務課窓口で、各大学の募集要項を閲覧し、受講希望科目を決定<br>2．神田外語大学教務課に受講希望の申し込み<br>3．先方の大学が受講の可否を決定 |
| 受 講 料 | 千葉大学・敬愛大学・城西国際大学・千葉工業大学の場合：無料<br>上記以外の大学：受講する大学によって異なります |

## 4．入学前修得単位の認定について

大学に入学する前に他大学・短大で修得した単位は30単位を上限に本人の申請に基づき、教授会の審議を経て、外国語科目（英語・日本語・地域言語）、特別演習科目以外の分野に於いて本学で修得した単位として認めることができます。海外の大学等の教育機関で修得した単位も同様の扱いとなります。

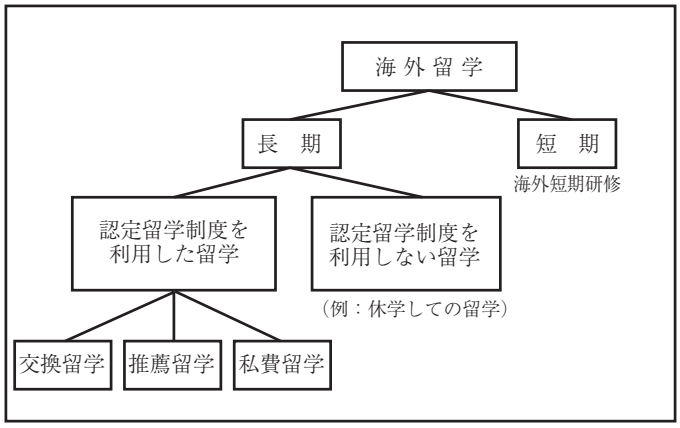
| | |
|---|---|
| 対　　象 | 新入生のみ |
| 方　　法 | 入学年度4月の指定された日までに申請（掲示参照） |
| 成績評価 | P（包括認定） |

# X　海外留学について

## 1．認定留学制度について

### 1）認定留学について

認定留学とは、本学が海外留学として認めるものです。期間は１学期間（６ヶ月間）／２学期間（１年間）となり、留学先で修得した単位は、一定条件のもと、本学の卒業要件単位に60単位を上限として振替ができるため、４年間で卒業が可能となります。



認定留学には3つの留学種別（交換留学･推薦留学･私費留学）があります。（上図参照）

なお、留学先のカリキュラムや履修時間数などにより、日本で１年間に修得できる単位数より留学先で修得する単位数の方が少なくなることもあります。留学を考えている学生は事前に標準履修案より多めに単位を取ることが望まれます。

ただし、休学者は、認定留学制度は利用できません。

| | 認定留学制度を利用した留学 | | |
|---|---|---|---|
| | 交換留学 | 推薦留学 | 私費留学 |
| 基本資格 | ・成績基準　GPA（全体）　2.3以上（出願時および出発時）<br>・単位の修得基準　２年生：30単位／３年生：60単位／４年生：100単位（出願時見込み修得数含む）<br>※１年生は認定留学不可だが、後期には出願が可能<br>・誓約書に記載されている事項に同意し、保証人の了解を得た者 | | |
| 出願資格 | 国・地域および国際協定校により出願資格（成績基準および語学基準）は異なるため、必ずKUIS Campus Webにて確認すること。 | | 出願する高等教育機関により異なるため、必ず事前に確認すること。 |
| 特　徴 | ・大学が窓口となり、国際協定校へ＜交換留学＞する制度<br>・留学先の授業料は全額免除<br>・学内選考あり<br>・本学を通して出願 | ・大学が窓口となり、国際協定校へ＜推薦留学＞する制度<br>・留学先の授業料は基本的に自己負担<br>・学内選考あり<br>・本学を通して出願 | ・海外大学および、本学で認める高等教育機関（大学付属の語学コース含む）へ留学する制度<br>・留学先の授業料は基本的に自己負担<br>・学内選考なし<br>・学生自身またはエージェントを通して出願 |
| 留学先 | 国際協定校<br>※KUIS Campus Webを参照 | | 本学が認める学位発行可能な高等教育機関<br>（上記高等教育機関が運営する語学コース含む）<br>※私費留学を希望する場合は、本学へ「留学先事前調査票」を認定留学申請の１ヶ月前までに提出し、承認を得る必要がある。 |
| 期　間 | １学期間（６ヶ月間）～ ２学期間（１年間） | | |
| 留学先決定後手続き | ①【入学許可書】を留学先機関から取得<br>②【認定留学申請書類】を指定期日までに本学へ提出　※留学申請書類については、必ずKUIS Campus Webにて確認すること。<br>③【認定留学者対象オリエンテーション】への参加<br>④【認定留学許可書】が学内承認後に本学より送付される<br>⑤【本学指定の海外留学保険への加入】本学指定の海外留学保険に必ず加入すること | | |
| 留学中の学費納入と授業料減免 | 以下の条件を満たしている場合、留学期間に応じて本学授業料が減免される（施設設備費および諸会費は減免対象外）<br>１学期間（６ヶ月間）：授業料25％減免<br>２学期間（１年間）　：授業料50％減免<br><br>≪条件≫<br>①学費を納入期限までに全額納入済であること<br>②認定留学申請時に【授業料減免申請書】を提出済であること<br>③【留学に伴う単位認定願兼留学終了届】を提出済であること<br><br>上記を満たした場合、銀行振込により減免額が返金される<br>≪返金時期の目安≫<br>前期に留学を終了し、後期（９月）から履修登録をする場合…翌年の３月末までに入金<br>後期に留学を終了し、前期（４月）から履修登録をする場合…同年の８月末までに入金<br>※４年生は卒業後の同時期の入金<br>※2019年度派遣開始対象者より、授業料減免制度が給付型奨学金制度に変更となります。 | | |

2）通年科目の履修に関する特別措置について

当該年度に登録した通年科目について、その年度の後期より２学期間留学する場合に限り、次年度後期より同一科目の履修を認め、後期終了時点で後期の成績と前年度前期の成績により、通年科目として成績処理をします。

（この措置は、認定留学制度による留学だけでなく、休学して留学する場合にも適用されます。）

ただし、原則として、同一担当教員の同一科目を履修することとします。

※通年科目の履修に関する特別措置を希望する者は、以下の書類を**教務課に**提出してください。

・「長期留学者の通年科目（研究演習・卒業研究）継続履修届」

※休学して留学する場合は、休学者用の「休学：通年科目（研究演習・卒業研究）継続履修届」を休学期間に入る前までに教務課に提出してください。ただし、休学の場合は申請時のGPA（全体）が2.3以上であることが条件となります。**詳しくは教務課に問い合わせてください。**

## ２．海外短期研修について

春期・夏期休暇を利用し、３～６週間で実施される海外短期研修です。研修参加費用（研修先の授業料、滞在費、渡航費など）は自己負担となりますが、所定の成績を修めれば、単位認定（１～８単位）が可能となります。

## ３．海外留学に関する情報について

国際交流課では、窓口における日々の個別相談に加えて、留学全般、ならびに認定留学や海外短期研修に関する説明会を随時実施しています。また、留学に関するイベントを開催し、情報を提供しています。

なお、各種説明会・イベントなどの実施については、４号館掲示板、１号館１階の国際交流課掲示板、およびKUIS Campus Webに掲示しますので、日頃からよく確認をしてください。

# Ⅺ　国内留学について

【留学形態】

国内交換留学は、本学と国内交換留学協定を締結している京都外国語大学へ学内選考の上、学生を派遣する制度です。この制度で留学する場合、京都外国語大学の学費は免除します。

国内交換留学生として留学するためには、別途掲示する出願資格を満たした上、学内選考に合格しなければなりません。

**1．派遣期間**

原則１年間　　留学期間は本学の修業年限および在学年数に算入します。

**2．募集期間**

10月～11月中（予定）　　第１次（書類選考）および第２次（面接）選考を実施します。

**3．単位の振替・認定**

京都外国語大学で修得した単位は履修科目に応じて、海外研修・放送大学等で修得した単位を含め、最大60単位まで本学で修得した単位として振替・認定します。

**4．履修できる授業科目および修得単位数**

京都外国語大学の履修ルールに従って、正規生が受講できる範囲とします。但し、進級および卒業要件の充足に問題を生じないような履修科目の選択方法について、必ず事前に本学教務課でガイダンスを受けることとします。なお、教職課程科目の履修は認められますが、教育実習への参加は認められません。

**5．留学中の学費**

京都外国語大学の学費は免除しますが、留学期間中の本学の学費（授業料・施設費・学友会費等）は全額納入してください。

**6．宿舎の紹介**

学生が宿舎を希望する場合は、次の条件で京都外国語大学が宿舎を紹介し、費用は学生負担とします。

⑴　家賃（共益費及び光熱水費含む）は、月額６万円（予定）を上限とします。ただし、敷金・礼金等の初期に関わる経費は、大学負担とします。

⑵　交通費等その他の経費は学生負担とします。

**7．施設利用等**

学生は、京都外国語大学において学生生活に必要な施設および制度を利用することができます。

**8．海外研修への参加**

学生は、京都外国語大学において長期休暇中に実施される海外研修、授業期間中に行われる長期の研修及び留学については、参加することができません。

**9．保険**

学生は、京都外国語大学の正規学生と同等の学生傷害保険を付与されるものとします。

# XII　転籍（転科・転専攻）について

本学には１・２年次を対象とした転籍（転科・転専攻）制度があります。選考に際しては、転籍を志望する明確な理由と優秀な成績が求められます。従って、転籍は容易にできるものではないと認識した上で、以下を熟読してください。

英米語学科から国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻への転科および国際コミュニケーション学科内での転専攻においては、１年次から２年次に転籍後、転籍先の２年次生とほぼ同じように必修科目を履修します。

しかし、それ以外の転籍の場合（例えばアジア言語学科中国語専攻から英米語学科へ）は、転籍先の必修科目を１年次指定の科目から履修しなければなりません。この場合、１年次生が転籍した後は、残りの３年間で非常に厳しい学修が要求され、２年次生が転籍した後は通算で最低５年間在学することが必要となります。

以上の点を熟慮の上、転科を希望する方は、早めに教務課に相談してください。

## １．転籍（転科・転専攻）について

１）出願

イ．出願資格

次の条件を満たすこと。

①　２年次生、あるいは２年次生への進級が見込まれる１年次生であること。

ただし、国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻へは２年次生への進級が見込まれる１年次生に限る。

②　在学の年数が２年を超えていないこと。

ただし、国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻へは在学年数が１年を超えていない者に限る。

《注意》国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻に所属する学部留学生には、転籍（転科・転専攻）制度は適用されない。

③　出願時に休学中の場合は、転籍をする年度の４月に復学する学生であること。

ロ．出願時期：１月中（予定）

ハ．出願受付窓口：教務課

## ２．転籍（転科・転専攻）に伴う特例措置

１）転籍（転科・転専攻）後の在籍年次等について

転科先の在籍年次は２年次とするが、専攻語科目は１年次指定のものを履修する。ただし、英米語学科から国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻への転科および国際コミュニケーション学科内での転専攻においては１年次の必須科目が単位認定されることがあるので、３）を参照のこと。

2）転籍（転科・転専攻）試験とその時期

<table>
<tr><th rowspan="2">転籍先（学科／専攻）</th><th rowspan="2">転籍元（学科／専攻）</th><th colspan="2">対象学年</th><th rowspan="2">1次試験（審査）内容</th><th rowspan="2">1次試験日程</th><th rowspan="2">2次試験内容</th><th rowspan="2">2次試験日程</th><th rowspan="2">手続期間</th></tr>
<tr><th>1年</th><th>2年</th></tr>
<tr><td rowspan="3">英米語学科</td><td>国際コミュニケーション学科</td><td colspan="7">受験資格なし</td></tr>
<tr><td>アジア言語学科<br>イベロアメリカ言語学科</td><td>○</td><td>○</td><td>1）TOEIC L&R又はTOEFLを受験しておくこと（スコア提出が必要）<br>2）一般入試I期の英語</td><td>2月上旬</td><td>面接</td><td>2月下旬～<br>3月上旬</td><td>3月上旬</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中国語専攻</td><td rowspan="3">全学科/専攻</td><td>○</td><td>○</td><td>1）小論文<br>2）面接</td><td rowspan="3">2月下旬～<br>3月上旬</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td rowspan="3">3月上旬</td></tr>
<tr><td rowspan="2">韓国語専攻<br>インドネシア語専攻<br>ベトナム語専攻<br>タイ語専攻<br>スペイン語専攻<br>ブラジル・ポルトガル語専攻</td><td>○</td><td>○</td><td>面接</td></tr>
<tr><td rowspan="5">国際コミュニケーション学科<br>国際コミュニケーション専攻</td><td>英米語学科</td><td colspan="7">受験資格なし</td></tr>
<tr><td>国際コミュニケーション学科<br>国際ビジネスキャリア専攻</td><td>○</td><td>×</td><td>1）出願年度の前期までにGPA2.8以上<br>2）1年次必修科目全てを単位修得見込みであること</td><td rowspan="5">2月中旬</td><td rowspan="5">面接</td><td rowspan="5">2月下旬～<br>3月上旬</td><td rowspan="5">3月上旬</td></tr>
<tr><td>アジア言語学科<br>イベロアメリカ言語学科</td><td>○</td><td>○</td><td>1）出願時にTOEIC L&R（IP可）650点以上取得済<br>2）出願する年度の前期までの成績において必修となっている英語科目全てにA以上の成績がついていること</td></tr>
<tr><td rowspan="3">国際コミュニケーション学科<br>国際ビジネスキャリア専攻</td><td>英米語学科</td><td>○</td><td>×</td><td>1）C基準（出願時）<br>2）出願年度の前期までにGPA2.8以上<br>3）1年次必修科目全てを単位修得見込みであること</td></tr>
<tr><td>国際コミュニケーション学科<br>国際コミュニケーション専攻</td><td>○</td><td>×</td><td>1）出願年度の前期までにGPA2.8以上<br>2）1年次必修科目全てを単位修得見込みであること</td></tr>
<tr><td>アジア言語学科<br>イベロアメリカ言語学科</td><td colspan="7">受験資格なし</td></tr>
</table>

3）転籍後の単位認定

| 転籍先（学科／専攻） | 転籍元（学科／専攻） | 受験時の学年 | 旧所属の単位 | 新所属の単位 |
|---|---|---|---|---|
| 英米語学科 | アジア言語学科<br>イベロアメリカ言語学科 | 1／2 | 地域言語科目のうち8単位。 | 選択外国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとして認定。選択外国語Ⅲのない言語の場合は、自由選択科目として2単位を認定。 |
| 中国語専攻<br>韓国語専攻<br>インドネシア語専攻<br>ベトナム語専攻<br>タイ語専攻<br>スペイン語専攻<br>ブラジル・ポルトガル語専攻 | 全学科/専攻 | 1／2 | 教務課で要相談。 | |
| 国際コミュニケーション学科<br>国際コミュニケーション専攻 | 国際コミュニケーション学科<br>国際ビジネスキャリア専攻 | 1 | その他 | 「キャリア研究基礎」は自由選択科目として認定。 |
| | 中国語専攻<br>韓国語専攻<br>スペイン語専攻 | 1 | 外国語必修科目12単位を修得したとみなす。 | 英語科目12単位として認定。不足分の4単位は転科後に合わせて履修すること。 |
| | | 2 | 外国語必修科目16単位分を修得したとみなす。 | 1年次英語科目16単位として認定。2年次の英語科目から履修する。 |
| | インドネシア語専攻<br>ベトナム語専攻<br>タイ語専攻<br>ブラジル・ポルトガル語専攻 | 1／2 | 修得した英語科目の単位。 | 英語科目に包括単位認定する。 |
| 国際コミュニケーション学科<br>国際ビジネスキャリア専攻 | 英米語学科 | 1 | 英語必修16単位。 | 英語科目に包括単位認定する。 |
| | | | その他 | 「情報リテラシー演習Ⅰ・Ⅱ（各2単位）」を、単位発行を伴わない履修免除とする。※<br>転科時にTOEIC L&R650点を取得済みの場合は、「TOEIC演習（IC）（2単位）」を弾力認定する。<br>1年次必修の「キャリア研究基礎（2単位）」は転科後に1年生のクラスで履修する。 |
| | 国際コミュニケーション学科<br>国際コミュニケーション専攻 | 1 | 「国際コミュニケーション入門（2単位）」 | 「包括認定自由選択科目（2単位）」として認定。 |
| | | | その他 | 1年次必修の「キャリア研究基礎（2単位）」は、転専攻後に1年生のクラスで履修する。 |

※：単位発行を伴わない履修免除のため、その他の分野で不足分の単位を卒業までに修得すること。
《注意》単位認定された科目の評価は「P」とする。

# Ⅻ　学内ネットワーク、コンピュータの利用について

詳細については、学生用Webサイト（KUIS Campus Web）の下記項目を参照ください。

●「キャビネット」⇒　02. 各部署情報　⇒　09. メディアプラザ
●「リンク」　　⇒　学内コンピュータ情報　⇒　メディアプラザガイド
　　⇒　KUISオンラインマニュアル

## 1．学内IT設備について

### ⑴　Media Plaza

6号館1階にMedia Plazaがあります。開館時間内であれば自由にコンピュータを使用する事ができます。また混雑時などはノートパソコンの貸出を行っています。

※開館時間

| | |
|---|---|
| 月～金 | 8：45～19：00 |
| 土 | 9：00～17：00 |
| 短　縮 | 10：00～17：00 |

※長期休暇期間、祭日を除く。また、臨時にメンテナンスなどで閉室する際には掲示板で事前にお知らせします。

### ⑵　コンピュータ実習室、ITレクチャールーム

開室時間内で授業のない時間帯を学生に開放しています。（下記Mapの3号館、4号館の各室）
開室時間はKUIS Campus Web、学内掲示板でご確認ください。

■学内パソコン設置場所■

■1号館
ブレンデットラーニングスペース（BLS）
【1－101，1－103，1－109，1－110，1－111，
1－112，1－114，1－115】

■3号館
コンピューター実習室（CPU－1）【3－306】
コンピューター実習室（CPU－2）【3－111】

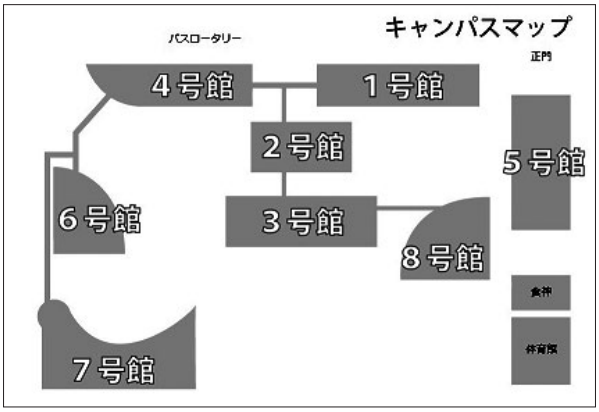
■4号館
ITレクチャールーム（ITLR－1）【4－201】
ITレクチャールーム（ITLR－2）【4－202】

■5号館
キャリアセンター【2階】

■6号館
メディアプラザ【1階】
プロダクションルーム【6－102】
ブレンデットラーニングスペース（BLS）【6－201～6－206】

■7号館
図書館　7－101【1階】

■8号館【1階】



⑶ 学内Wi-Fi

学内全域に自由に使える無線LAN環境が揃っています。各自持参のiPadやノートPCなどで接続してインターネットを利用できます。

詳しくは、KUIS Campus Webもしくは6号館メディアプラザ1階サポートデスクにお問い合わせください。

＜使用上のルール＞

無線LANにPCを接続する場合、必ずウイルス対策ソフトがインストールされていること。また、パターンファイルは常に最新の状態に更新してください。

＜おすすめ！＞

学内でiPadがWi-Fiに繋がりにくい時は、Wi-Fi設定をOFF→ONしてください。

⑷ プロダクションルーム（教室）

6号館1階にプロダクションルームがあります。Macintoshが25台あり、ウェブサイトやグラフィックデザイン、映像編集など様々な制作活動が可能です。

※Macintoshのデスクトップなどに保存したファイルは再起動すると消えてしまうので、サーバー上のホームドライブかUSBメモリーをご使用ください。

⑸ マルチパーパスルーム

6号館1階にマルチパーパスルーム（4～5人用）、ラージマルチパーパスルーム（3～8人用）があります。マルチパーパスルームはプレゼンテーションの練習やグループディスカッション等に使うことができます。

⑹ 印刷について

学内のパソコンとiPadから、A4・A3の大きさで印刷ができます。詳しい印刷の仕方等はKUIS Campus Webの「学内コンピュータ情報」をご確認ください。

⑺ データの保存について

デスクトップやマイドキュメントに保存したファイルはPCが再起動すると消えてしまうので、下記の方法あるいはUSBメモリーで保存できます。適材適所で使い分けてください。

① 学内ネットワーク

マイコンピュータのZドライブは学生個人が使えるサーバ領域です。容量は1人あたり50Mbytesまでとなっています。

② クラウド

本学では、学生一人一人が、Google Driveを利用する事ができます。Google Driveは、iPadからのデータ保存にも対応しています。

※利用に際しては後述する「3．大学ネットワーク利用にあたっての注意点」を参照してください。

## 2．学内システムの利用

⑴ 学生用Webサイト（KUIS Campus Web）

大学から学生への様々な情報提供の場になります。大事な情報も掲載されますので頻繁にチェックするようにしてください。

https://camjweb.kuis.ac.jp/portal/top.do

KUIS Campus Webからは主に次ページの項目が確認できます。

| | |
|---|---|
| お知らせ・休講・補講情報 | 大学からのお知らせ、休講情報、補講情報の他、アルバイト情報やさまざまな説明会情報が掲載されます。頻繁に確認するようにしてください。 |
| 履修登録 | 授業科目の履修登録ができます。 |
| 成績照会 | 成績内容を確認することができます。 |
| シラバス | 授業内容についての検索・閲覧ができます。 |
| 留学WEB | 留学申請、留学中の授業生活報告、帰国後の単位認定および留学終了報告ができます。また、留学した学生の留学生活等の情報を閲覧することができます。 |
| メール（KUIS Mail） | メールの送受信ができます。学外からも見ることができます。 |
| 図書館情報 | 図書館が提供する情報です。図書館情報は学外からも見ることができます。 |
| 就職情報 | 求人情報の閲覧・進路希望・内定情報の報告が行えます。 |
| KUISゼミナール委員会 | ゼミの情報を見ることができます。 |
| e-Learning | 情報基礎、英語資格基礎、日本語表現基礎の受講ができます。 |
| KUIS Moodle | インターネットを利用したWeb上の授業ページです。 |

| | |
|---|---|
| キャビネット一覧 | 学生を対象に大学からの情報を整理したライブラリーです。詳細な説明も掲載されておりますのでご確認ください。（コンピュータ利用の詳細も掲載されています） |
| 学内コンピュータ情報 | Media Plazaに関する情報（Media Plaza Guide）や学内でコンピュータを利用するための情報（KUIS Online Manual）を掲載しています。 |

※iPadやスマートフォンからもアクセスすることができます。

⑵　メールの利用

学生全員にメールアドレスを発行しており、それを用いてメールのやり取りを行う事ができます。インターネットに接続できる環境で、KUIS Mailに接続するとメールの送受信が学内外から利用できます。

### 3．大学ネットワーク利用にあたっての注意点

⑴　パスワードの管理

学内ネットワークやメール及び学生用Webサイトを利用するためにはパスワードが必要になります。パスワードが他人に盗まれ、悪用される可能性がありますので、パスワードの管理には十分注意してください。パスワードを設定する場合、他人が想像しにくいものにし、頻繁に変えるようにしてください。

〈主なパスワードの種類〉

| | |
|---|---|
| Windowsログオン | 学内のPCを使用する際に使用。パスワードの変更可能。メディアオリエンテーションⅡで各自設定。パスワードを忘れてしまった場合はMedia Plaza受付に申請。 |
| KUIS Campus Web/ KUIS Mail | 学生証と合わせて交付。KUIS Campus WebとKUIS Mailで使用。パスワードを忘れてしまった場合はMedia Plaza受付、学生課に申請。 |
| e-Learning | KUIS Campus Web伝言機能で各自に配布。パスワードを忘れてしまった場合はMedia Plaza受付に申請。 |

※パスワードの再発行は翌日となります。（土曜日の場合は週明け）即日の発効はできませんのでご了承ください。

⑵ 利用ルール

学内ネットワークを利用する際には、以下の注意点を守って利用してください。ルールに違反した際は、アカウントを停止します。

●コンピュータ実習室、Media Plaza利用のマナー

1．飲食物を持ち込まない。(Media Plazaではペットボトル・マイボトルなどの密閉された容器に入った飲み物は飲むことができます。)
2．私語はしない。
3．長時間の占有はしない。
4．使用後は、周りを必ず整理整頓する。
5．コンピュータへソフトウェアのインストールはしない。
6．印刷用紙は、無駄にしない。
7．コンピュータの操作の途中で退席しない。
8．使用後は、USBメモリを必ず持ち帰る。

●ネットワーク利用に際しての注意点

1．法律に抵触、または公序良俗に反する行為をしない。
2．他人のプライバシーに触れる行為をしない。
3．著作権の侵害をしない。
4．不用意なインターネット上のプログラムのダウンロードはしない。
5．公共の秩序に反する情報への接続はしない。
6．ネットワーク上で、ショッピングはしない。
7．その他、一般にネットワーク上でやってはいけないとされている行為をしない。

●クラウド利用に際しての注意点

1．オンラインストレージ（Google Drive等）は、アクセス権の設定を間違えると、世界中にデータを公開してしまいますので十分にご注意ください。なお、学内アカウントを利用して学内外の不特定多数への公開･共有はしないでください。(何人かで共有するといった限定公開のアクセス権限を設定する事も可能ですが、こちらの限定公開については問題ありません。)
2．必ずログアウトボタンを押して、自分のデータが他人に見られないように気を付けましょう。

●電子メール利用に際しての注意点

1．他利用者の電子メールを許可なく読み、削除、変造または公開することをしてはいけない。
2．チェーンメール（例えば幸福の手紙など）の発信はしてはならない。
3．知らない人から送られてきた添付ファイルは、開かずに、削除すること。
4．大学の授業と関係ないアンケートなどをメールで不特定多数の学生に発信することはしてはいけない。
5．シグネチャ（署名）まで含めた無意味な全文引用はしないこと。

※違反行為があった場合

ネットワーク利用についての違反行為あるいはその疑いがあった場合、大学で処罰等の措置を講じるかどうか審議し、決定します。

## 4．その他

● ICT試験対策講座の開講

夏秋期には、米国Microsoft社が正式に認定するMOS Excel試験対策講座や国家資格ITパスポート試験対策講座を実施しています。大学でのレポート作成に役立ったり、就活の際にエントリーシートや履歴書の資格取得欄にも記入できます。毎年６月に、IT資格の説明会を開催していますので、ぜひ聞きに来てください。

● その他の詳細情報については、Campus Web内に掲載されておりますので必ず目を通すようにしてください。

# XV　教職課程履修要項

# A　教育職員免許状について

## 1．教育職員免許状とは

日本の中学校・高等学校で教壇に立つためには、教員免許が必要です。本学では、中学校と高校の英語の免許などが取得できます（学科・専攻により取得できる免許状が異なります）。また、３年生から千葉経済大学短期大学部の科目を履修することにより、卒業時に小学校免許を同時に取得する制度もあります。

## 2．本学の求める教員像

**高い英語力と国際的な視野を身につけ、使命感を持って生徒の指導にあたると共に同僚と協調できる人間性豊かな教師**

「言葉は世界をつなぐ平和の礎」という本学の理念に基づき教員を養成します。具体的には、英語指導を通して言葉の持つ魅力や他言語への憧れを喚起し、英語と将来において関わることに関心を持つ生徒を育成できる教員となる必要があると本学では考えています。そのため、まずは高い英語力を養うとともに、使命感を持って教育に職を求める姿勢を求めるほか、コミュニケーションのとれる人間性を陶冶します。

## 3．本学で取得できる教育職員免許状の種類及び免許教科

本学が文部科学大臣から教職課程の認定を受け、本学で取得できる教育職員免許状の種類と教科は次のとおりです。

| | 中学校教諭一種免許状（英語）・高等学校教諭一種免許状（英語） | 高等学校教諭一種免許状（中国語） | 高等学校教諭一種免許状（韓国語） | 高等学校教諭一種免許状（スペイン語） |
|---|---|---|---|---|
| 英米語学科 | ○ | | | |
| アジア言語学科中国語専攻 | ※ | ○ | | |
| 韓国語専攻 | ※ | | ○ | |
| インドネシア語専攻 | ○ | | | |
| ベトナム語専攻 | ○ | | | |
| タイ語専攻 | ○ | | | |
| イベロアメリカ言語学科スペイン語専攻 | ※ | | | ○ |
| ブラジル・ポルトガル語専攻 | ○ | | | |
| 国際コミュニケーション学科<br>国際コミュニケーション専攻 | ○ | | | |

備考　※中国語、韓国語、スペイン語各専攻においては、自分の専攻する言語と英語の中学校一種・高等学校一種の免許状（副免）を合わせて取得することを原則とします。
○英語の免許を取得する学生は中学校１種・高等学校１種の両方を取得することを原則とします。
国際コミュニケーション学科国際ビジネスキャリア専攻の学生は、教員免許状を取得することはできません。

## 4．教育職員免許状取得に必要な科目・単位数

教育職員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位の他に次に示す免許状に必要な４つの科目区分から、それぞれ定められた単位を修得することが必要です。

詳細は、「B　教職課程の履修について」を参照して下さい。

| 免許状取得に必要な科目 | | 教育職員免許法での最低修得単位数 | | 本学における科目 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 中一種 | 高一種 | | |
| (1)　教職に関する科目 | | 31 | 23 | (1)　教職に関する科目の項を参照 | 注１ |
| (2)　教科に関する科目 | | 20 | 20 | 自分の所属する学科・専攻の(2)　教科に関する科目の項を参照 | 注２ |
| (3)　教科又は教職に関する科目 | | 8 | 16 | 自分の所属する学科・専攻の(3)　教科又は教職に関する科目の項を参照 | 注３ |
| 第66条の６に定める科目 (4) 教育職員免許法施行規則 | 日本国憲法に関する科目 | 2 | 2 | 「憲法Ⅰ」又は「憲法Ⅱ」 | |
| | 体育に関する科目 | 2 | 2 | 「体育・スポーツ」を２種目 | |
| | 外国語コミュニケーションに関する科目 | 2 | 2 | 自分の所属する学科･専攻の１年次必修英語科目・地域言語科目 | |
| | 情報機器の操作に関する科目 | 2 | 2 | 「情報基礎Ⅰ」及び「情報基礎Ⅱ」 | |

免許状に必要な単位の注意事項

中学と高校の免許を同時に取得するため、上表のそれぞれの最低修得単位数のうち、多い方の単位数を修得する必要があります。また、本学が定めた最低修得単位数が上表を上回る場合には、本学基準の単位数を取得して下さい。

| | |
|---|---|
| 注１ | 教職に関する科目は、自由選択科目として８単位まで卒業要件単位に充てることができます。 |
| 注２ | 自分の所属する学科・専攻の定める最低必要単位数を修得する必要があります。 |
| 注３ | 自分の所属する学科・専攻の定める最低必要単位数を修得する必要があります。 |

＜新法の適用について＞

平成31年４月１日より、改正教育職員免許法及び改正教育職員免許法施行規則（以下「新法」）が施行されます。この改正により、教育職員免許状取得のために修得すべき科目・単位数が変わります。

平成30年度までに大学に入学し、卒業までに改正前の法（以下「旧法」）の規定による所要要件を満たした場合は、「旧法」により免許状を取得することができますが、所要要件を満たさずに卒業し科目等履修生などとなって履修を続ける場合は、「新法」が適用されることになり、「新法」で追加される科目・単位を修得することが必要となります。（特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解１単位、中学校１種免許状取得の場合英語科教育法８単位以上必修など）

留学制度留学を希望する場合や、何らかの事情で教職課程の履修が卒業後にも継続される場合は、履修計画に注意が必要です。

# B　教職課程の履修について

(1)　教職に関する科目

各分野での必修科目、選択必修科目を含めて必要単位数を修得します。

**〈各学科共通〉**

| 教育職員免許法施行規則所定 | | | 本学基準 | | | | 注 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 各科目に含める必要事項 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修に適した年次 | 備考 | |
| 教職の意義等に関する科目 | 教職の意義及び教員の役割<br>教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）<br>進路選択に資する各種機会の提供等 | 2 | □教師論 | 2 | 1～4 | | |
| 教育の基礎理論に関する科目 | 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 | 6 | □教育原理 | 2 | 1～2 | | |
| | 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | | □教育心理学 | 2 | 2～3 | | |
| | 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 | | ○教育社会学<br>○教育行政学 | 2<br>2 | 2～4<br>2～4 | ○印1科目2単位以上必修 | |
| 教育課程及び指導法に関する科目 | 教育課程の意義及び編成の方法 | 中12<br>高6 | □教育課程論 | 2 | 2～4 | | |
| | ・各教科の指導法 | | □英語科教育法Ⅰ | 2 | 3 | 免許状の教科ごとに定められた教科教育法Ⅰ、Ⅱについて必修<br>なお、副免希望者は専攻語及び英語科教育法Ⅰ、Ⅱについて必修（注1） | 注2 |
| | | | □英語科教育法Ⅱ | 2 | 3 | | |
| | | | 英語科教育法Ⅲ | 2 | 3 | | |
| | | | 英語科教育法Ⅳ | 2 | 3 | | |
| | | | □中国語科教育法Ⅰ | 2 | 3 | | |
| | | | □中国語科教育法Ⅱ | 2 | 3 | | |
| | | | □スペイン語科教育法Ⅰ | 2 | 3 | | |
| | | | □スペイン語科教育法Ⅱ | 2 | 3 | | |
| | | | □韓国語科教育法Ⅰ | 2 | 3 | | |
| | | | □韓国語科教育法Ⅱ | 2 | 3 | | |
| | ・道徳の指導法 | | □道徳教育の指導法 | 2 | 2～3 | 中学校1種免許状取得希望者は必修 | 注3 |
| | ・特別活動の指導法 | | □特別活動論 | 2 | 2～4 | | |
| | 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | | □教育方法の理論と実践 | 2 | 2～4 | □印1科目2単位必修 | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | 生徒指導の理論及び方法<br>進路指導の理論及び方法 | 4 | □生徒指導論<br>（進路指導を含む） | 2 | 2～4 | | |
| | 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | □教育相談 | 2 | 2～4 | | |
| 教育実習 | | 中5<br>高3 | □教育事前事後実習 | 2 | 3 | | 注4 |
| | | | □教育実践実習Ⅰ | 2 | 4 | | 注5 |
| | | | 教育実践実習Ⅱ | 2 | 4 | Ⅱについては、中学校1種免許状取得希望者は必修 | |
| 教職実践演習 | | 2 | □教職実践演習（中・高） | 2 | 4 | | |
| 計 | | 中31<br>高23 | 中学校32単位以上／高等学校28単位以上必修 | | | | |

□印は教職必修科目
○印は教職選択必修科目

| | |
|---|---|
| 注1 | 各教科ともⅡはⅠを修得済の場合に履修できる。英語科教育法Ⅲ、Ⅳもこれに準ずる。 |
| 注2 | どの学科の学生もB基準（「Ⅶ 授業科目について　2.履修上の注意　ハ.履修基準表」を参照）が履修条件となります。 |
| 注3 | 「道徳教育の指導法」を高等学校1種免許状の申請に使用する場合は、その単位は、「教科又は教職に関する科目」の単位に充てることができる。 |
| 注4 | 次年度教育実習に行く学生が対象です。（3年次であっても次年度教育実習を行わない者は履修できません。） |
| 注5 | ・英語で実習を行う場合、どの学科の学生もA基準（「Ⅶ 授業科目について　2.履修上の注意　ハ.履修基準表」を参照）が履修条件となります。<br>・原則として、3週間以上の実習を行い「教育実践実習Ⅰ・Ⅱ」の両科目として認定します。<br>なお、高等学校1種免許状のみの場合は2週間以上の実習で「教育実践実習Ⅰ」として認定します。<br>・各学科･専攻の3・4年次英語必修科目（英語総合講座Ⅲ、英語専門講読、English for Multicultural Communication、English for International CommunicationⅢ）を4年次に履修する場合、教育実践実習を行わない学期に履修するよう計画してください。 |

＜英米語学科＞

(2) 教科に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修年次 | 備考 |
| 英語学 | 1 | ◎英語学概論 | 4 | 1～4 | ◎印及び○印1科目を含む8単位以上必修 |
| | | ○英語音声学 | 4 | 1～4 | |
| | | ○Outline of English Phonetics | 4 | 1～4 | |
| | | 英語音韻論 | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語統語論Ⅰ | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語統語論Ⅱ | 4 | 2～4 | |
| | | 英語意味論 | 4 | 2～4 | |
| | | ○現代英文法 | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語習得法 | 4 | 1～4 | |
| | | ○Ways of Learning English | 4 | 1～4 | |
| | | 第二言語習得研究 | 4 | 2～4 | |
| | | Issues in Second Language Acquisition | 4 | 2～4 | |
| | | 英語談話分析 | 4 | 2～4 | |
| | | Introduction to Discourse Analysis | 4 | 2～4 | |
| | | 英語史 | 4 | 2～4 | |
| | | 古期中期英語 | 4 | 2～4 | |
| | | 教育英文法基礎 | 2 | 2～4 | |
| | | 外国語評価法 | 2 | 2～4 | |
| 英米文学 | 1 | ○英文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印4科目を含む8単位以上必修 |
| | | ○英文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○Survey of American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○Themes in American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | 英文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 英文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| 英語コミュニケーション | 1 | 〈英語総合講座Ⅱ〉 | | | ◎印を含む12単位以上必修 |
| | | ◎Media English (a) (英米) | 2 | 2 | |
| | | ◎Media English (b) (英米) | 2 | 2 | |
| | | ◎Academic Literacies : Reading (a) | 2 | 2 | |
| | | ◎Academic Literacies : Reading (b) | 2 | 2 | |
| | | ◎Academic Literacies : Writing (a) | 2 | 2 | |
| | | ◎Academic Literacies : Writing (b) | 2 | 2 | |
| | | ※時事英語Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ※時事英語Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ※ビジネス英語Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ※ビジネス英語Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | Public Speaking | 4 | 1～4 | |
| | | Debate | 4 | 1～4 | |
| | | Small Group Communication | 4 | 1～4 | |
| | | 英語オーラルインタープリテーション | 4 | 2～4 | |
| | | 日米コミュニケーション論 | 4 | 2～4 | |
| | | 日英翻訳法Ⅱ | 4 | 2～4 | |
| | | 英日翻訳法Ⅱ | 4 | 2～4 | |
| | | 英語通訳法Ⅰ | 4 | 1～4 | |
| | | 英語通訳法Ⅱ | 4 | 1～4 | |
| | | 英語通訳法Ⅲ | 4 | 2～4 | |
| | | 英語通訳法Ⅳ | 4 | 2～4 | |
| 異文化理解 | 1 | 日英比較文化論Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印2科目を含む4単位以上必修 |
| | | 日英比較文化論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 日米比較文化論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 日米比較文化論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ※○英国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ※○英国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ※○米国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ※○米国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ※○オセアニア研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ※○オセアニア研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ※○カナダ研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ※○カナダ研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 英国史概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 英国史概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国史概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国史概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 英米法Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 英米法Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国政治論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国政治論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国経済論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国経済論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国社会論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国社会論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国外交論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国外交論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 日米関係論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 日米関係論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 英国文化実地研究 | 4 | 1～4 | |
| | | 米国文化実地研究 | 4 | 1～4 | |
| | | オセアニア文化実地研究 | 4 | 1～4 | |
| | | カナダ文化実地研究 | 4 | 1～4 | |
| | | TESOL（英語教授法）海外研修 | 4 | 1～4 | |
| 計 | 4 | 中学校32単位以上必修 | | | |
| 所定最低単位数 | 20 | 高等学校32単位以上必修 | | | |

(3) 教科又は教職に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数 | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位数 | 履修に適した年次 | 備考 |
| 中8<br>高16 | ◎英語総合講座Ⅲ | 16 | 3～4 | |
| | 介護等体験実習※ | 1 | 2～4 | 中学校1種免許状希望者は必修<br>3年次に履修することが望ましい |
| | 特別支援教育 | 1 | 2～3 | |
| | 道徳教育の指導法 | 2 | 2～3 | 高校1種免許状のみ取得希望者が履修した場合 |
| 計 | 中学校17単位／高等学校16単位以上必修 | | | |

※ p.116 C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

(4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修年次 | 備考 |
| 日本国憲法 | 2 | ○憲法Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目2単位以上必修 |
| | | ○憲法Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 体育 | 2 | □体育・スポーツ | 1 | 1～4 | 2種目2単位必修 |
| | | □体育・スポーツⅡ | 1 | 1～4 | |
| 外国語コミュニケーション | 2 | 〈英語総合講座Ⅰ〉 | | | ◎印12単位必修 |
| | | ◎Freshman English (a) | 4 | 1 | |
| | | ◎Freshman English (b) | 4 | 1 | |
| | | ◎Foundational Literacies : Reading & Writing (a) | 2 | 1 | |
| | | ◎Foundational Literacies : Reading & Writing (b) | 2 | 1 | |
| 情報機器の操作 | 2 | □情報基礎Ⅰ | 1 | 1～4 | 2科目2単位必修 |
| | | □情報基礎Ⅱ | 1 | 1～4 | |

◎印は卒業必修科目
※印は卒業選択必修科目
□印は教職必修科目
○印は教職選択必修科目

＜アジア言語学科　中国語専攻＞

⑵　教科に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本　学　基　準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分　野 | 最低修得単位数 | 科　目　名 | 単位数 | 履修年次 | 備　考 |
| 中国語学 | 1 | □中国語学概論Ⅰ | 2 | 1～4 | □印を含む4単位以上必修 |
| | | □中国語学概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国語文法論Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国語文法論Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国語音韻論Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国語音韻論Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国語音声学Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国語音声学Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国語史Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国語史Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国語通訳法Ⅰ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語通訳法Ⅰ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語通訳法Ⅱ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語通訳法Ⅱ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | ビジネス中国語Ⅰ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | ビジネス中国語Ⅰ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | 日中比較言語Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | 日中比較言語Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| | | 広東語Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | 広東語Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| | | 福建語Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | 福建語Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| | | 時事中国語Ⅰ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | 時事中国語Ⅰ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | 時事中国語Ⅱ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | 時事中国語Ⅱ(b) | 2 | 3～4 | |
| 中国文学 | 1 | ※中国文学講読Ⅰ(a) | 2 | 3～4 | □印を含む2単位以上必修<br>※印については「Ⅶ授業科目について」中国語専攻カリキュラム表参照 |
| | | ※中国文学講読Ⅰ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | ※中国文学講読Ⅱ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | ※中国文学講読Ⅱ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | □中国文学概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国文学概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国古典講読Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国古典講読Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国近世文学研究Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | 中国近世文学研究Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| | | 中国近代文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国近代文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国現代文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国現代文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| 中国語コミュニケーション | 1 | ◎中国語総合Ⅱ－1(a) | 2 | 2 | |
| | | ◎中国語総合Ⅱ－1(b) | 2 | 2 | |
| | | ◎中国語総合Ⅱ－2(a) | 1 | 2 | |
| | | ◎中国語総合Ⅱ－2(b) | 1 | 2 | |
| | | ◎中国語作文Ⅱ(a) | 1 | 2 | |
| | | ◎中国語作文Ⅱ(b) | 1 | 2 | |
| | | ◎中国語会話Ⅱ(a) | 1 | 2 | |
| | | ◎中国語会話Ⅱ(b) | 1 | 2 | |
| | | ◎LL中国語(a) | 1 | 2 | |
| | | ◎LL中国語(b) | 1 | 2 | |
| | | 中国語翻訳法Ⅰ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語翻訳法Ⅰ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語翻訳法Ⅱ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語翻訳法Ⅱ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語討論・スピーチⅠ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語討論・スピーチⅠ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語討論・スピーチⅡ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語討論・スピーチⅡ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語表現法Ⅰ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語表現法Ⅰ(b) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語表現法Ⅱ(a) | 2 | 3～4 | |
| | | 中国語表現法Ⅱ(b) | 2 | 3～4 | |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 異文化理解 | 1 | 中国思想概論Ⅰ | 2 | 1～4 | □印1科目を含む2単位以上必修 |
| | | 中国思想概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | □中国文化概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国文化概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国史概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国史概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ◎中国社会事情Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ◎中国社会事情Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国社会特殊研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国社会特殊研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国経済概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国経済概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国経済特殊研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国経済特殊研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国政治外交概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国政治外交概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 中国政治外交特殊研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 中国政治外交特殊研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| 計 | 4 | 中学校20単位以上必修<br>高等学校20単位以上必修 | 20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上余分に修得すること。 | | |
| 所定最低単位数 | 20 | | | | |

⑶ 教科又は教職に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数 | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位数 | 履修に適した年次 | 備考 |
| 中8<br>高16 | 教科に関する科目 | 備考を参照 | | 20単位を超えて取得した単位 |
| | 介護等体験実習※ | 1 | 2～4 | 中学校1種免許状希望者は必修<br>3年次に履修することが望ましい |
| | 特別支援教育 | 1 | 2～3 | |
| | 道徳教育の指導法 | 2 | 2～3 | 高校1種免許状のみ取得希望者が履修した場合 |
| 計 | 高等学校16単位以上必修 | | | |

※ p.116 C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷ 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修年次 | 備考 |
| 日本国憲法 | 2 | ○憲法Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目2単位以上必修 |
| | | ○憲法Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 体育 | 2 | □体育・スポーツ | 1 | 1～4 | 2種目2単位必修 |
| | | □体育・スポーツⅡ | 1 | 1～4 | |
| 外国語コミュニケーション | 2 | ◎中国語総合Ⅰ(a) | 3 | 1 | ◎印12単位必修 |
| | | ◎中国語総合Ⅰ(b) | 3 | 1 | |
| | | ◎中国語作文Ⅰ(a) | 1 | 1 | |
| | | ◎中国語作文Ⅰ(b) | 1 | 1 | |
| | | ◎中国語会話Ⅰ(a) | 2 | 1 | |
| | | ◎中国語会話Ⅰ(b) | 2 | 1 | |
| 情報機器の操作 | 2 | □情報基礎Ⅰ | 1 | 1～4 | 2科目2単位必修 |
| | | □情報基礎Ⅱ | 1 | 1～4 | |

◎印は卒業必修科目
※印は卒業選択必修科目
□印は教職必修科目
○印は教職選択必修科目

＜アジア言語学科　韓国語専攻＞

⑵　教科に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本　学　基　準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分　野 | 最低修得単位数 | 科　目　名 | 単位数 | 履修年次 | 備　考 |
| 韓国語学 | 1 | □韓国語学概論Ⅰ | 2 | 2～4 | □印2科目を含む4単位以上必修 |
| | | □韓国語学概論Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国語文法論Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国語文法論Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 日韓対照言語研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 日韓対照言語研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国語学特講Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国語学特講Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国語社会言語学Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国語社会言語学Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国語文章表現法 | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国語意味論 | 2 | 2～4 | |
| | | 時事韓国語Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | 時事韓国語Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| | | 韓国語対話文Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | 韓国語対話文Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| | | 韓国語講読Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | 韓国語講読Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| 韓国文学 | 1 | □韓国現代文学研究Ⅰ | 2 | 3～4 | □印1科目を含む2単位以上必修 |
| | | 韓国現代文学研究Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| 韓国語コミュニケーション | 1 | ◎韓国語基礎Ⅲ | 6 | 2 | |
| | | ◎韓国語基礎Ⅳ | 6 | 2 | |
| | | 韓国語口頭表現Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | 韓国語口頭表現Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| | | 韓日通訳法 | 2 | 3～4 | |
| | | 日韓通訳法 | 2 | 3～4 | |
| | | 韓日翻訳法 | 2 | 3～4 | |
| | | 日韓翻訳法 | 2 | 3～4 | |
| 異文化理解 | 1 | □韓国文化概論Ⅰ | 2 | 1～4 | □印1科目を含む2単位以上必修 |
| | | 韓国文化概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 韓国文化特定研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国文化特定研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国映像文化論Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国映像文化論Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国政治論Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国政治論Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国経済論Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国経済論Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国史概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 韓国史概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 韓国近代史Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国近代史Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国史特講Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 韓国史特講Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 日韓関係史Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 日韓関係史Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| 計 | 4 | 中学校20単位以上必修<br>高等学校20単位以上必修 | 20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上余分に修得すること。 | | |
| 所定最低単位数 | 20 | | | | |

⑶　教科又は教職に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数 | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位数 | 履修に適した年次 | 備考 |
| 中８<br>高16 | 教科に関する科目 | 備考を参照 | | 20単位を超えて取得した単位 |
| | 介護等体験実習※ | 1 | ２～４ | 中学校１種免許状希望者は必修<br>３年次に履修することが望ましい |
| | 特別支援教育 | 1 | ２～３ | |
| | 道徳教育の指導法 | 2 | ２～３ | 高校１種免許状のみ取得希望者が履修した場合 |
| 計 | 高等学校16単位以上必修 | | | |

※　p.116　Ｃ－２.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修年次 | 備考 |
| 日本国憲法 | 2 | ○憲法Ⅰ | 2 | １～４ | ○印１科目２単位以上必修 |
| | | ○憲法Ⅱ | 2 | １～４ | |
| 体育 | 2 | □体育・スポーツ | 1 | １～４ | ２種目２単位必修 |
| | | □体育・スポーツⅡ | 1 | １～４ | |
| 外国語コミュニケーション | 2 | ◎韓国語基礎Ⅰ | 6 | 1 | ◎印12単位必修 |
| | | ◎韓国語基礎Ⅱ | 6 | 1 | |
| 情報機器の操作 | 2 | □情報基礎Ⅰ | 1 | １～４ | ２科目２単位必修 |
| | | □情報基礎Ⅱ | 1 | １～４ | |

◎印は卒業必修科目
□印は教職必修科目
○印は教職選択必修科目

〈英語「副免」〉〈アジア言語学科　中国語専攻・韓国語専攻〉

⑵　教科に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本　学　基　準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分　野 | 最低修得単位数 | 科　目　名 | 単位数 | 履修年次 | 備　考 |
| 英　語　学 | 1 | ○英語学概論 | 4 | 1～4 | ○印2科目を含む8単位以上必修 |
| | | ○英語統語論Ⅰ | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語統語論Ⅱ | 4 | 2～4 | |
| | | ○現代英文法 | 4 | 1～4 | |
| 英　米　文　学 | 1 | ○英文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目及び●印1科目を含む4単位以上必修 |
| | | ○英文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●Survey of American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●Themes in American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | 英文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 英文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| 英語コミュニケーション※ | 1 | 〈英語科目〉 | | | ◎印を含む8単位以上必修 |
| | | ◎Freshman English (a) (CSK) | 2 | 1 | |
| | | ◎Freshman English (b) (CSK) | 2 | 1 | |
| | | ◎総合英語Ⅰ(a) | 1 | 1 | |
| | | ◎総合英語Ⅰ(b) | 1 | 1 | |
| | | ◎Sophomore English (a) (CSK) | 2 | 2 | |
| | | ◎Sophomore English (b) (CSK) | 2 | 2 | |
| | | ◎総合英語Ⅱ(a) | 1 | 2 | |
| | | ◎総合英語Ⅱ(b) | 1 | 2 | |
| | | ◎English for Multicultural Communication | 4 | 3～4 | |
| 異文化理解 | 1 | ○英国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目を含む2単位以上必修 |
| | | ○英国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○オセアニア研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○オセアニア研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○カナダ研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○カナダ研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 計 | 4 | 中学校22単位以上必修<br>高等学校22単位以上必修 | ※20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上を余分に修得すること。 | | |
| 所定最低単位数 | 20 | | | | |

◎印は卒業必修科目
○、●印は教職選択必修科目
※これらの科目をもってアジア言語学科の英語コミュニケーションの科目を履修したものとみなす。

⑶　教科又は教職に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数 | 本　学　基　準 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 科　目　名 | 単位数 | 履修に適した年次 | 備　考 |
| 中8<br>高16 | 教科に関する科目 | 16 | | 20単位を超えて取得した単位 |
| | 介護等体験実習※ | 1 | 2～4 | 中学校1種免許状希望者は必修<br>3年次に履修することが望ましい |
| | 特別支援教育 | 1 | 2～3 | |
| | 道徳教育の指導法 | 2 | 2～3 | 高校1種免許状のみ取得希望者が履修した場合 |
| 計 | 中学校17単位／高等学校16単位以上必修 | | | |

※　p.116　C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

中国語専攻：p. 105、韓国語専攻：p. 107の⑷の表と同じ。

＜アジア言語学科　インドネシア語専攻・ベトナム語専攻・タイ語専攻＞

⑵　教科に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修年次 | 備考 |
| 英語学 | 1 | ○英語学概論 | 4 | 1～4 | ○印2科目を含む8単位以上必修 |
| | | ○英語統語論Ⅰ | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語統語論Ⅱ | 4 | 2～4 | |
| | | ○現代英文法 | 4 | 1～4 | |
| 英米文学 | 1 | ○英文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目及び●印1科目を含む4単位以上必修 |
| | | ○英文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●Survey of American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●Themes in American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | 英文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 英文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| 英語コミュニケーション | 1 | ＜英語科目＞ | | | ◎印を含む8単位以上必修 |
| | | ◎Sophomore English Ⅰ (ML) | 2 | 2 | |
| | | ◎Sophomore English Ⅱ (ML) | 2 | 2 | |
| | | ◎Media English Ⅰ (ML) | 2 | 2 | |
| | | ◎Media English Ⅱ (ML) | 2 | 2 | |
| | | ◎English for Multicultural Communication | 4 | 3～4 | |
| 異文化理解 | 1 | ○英国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目を含む2単位以上必修 |
| | | ○英国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○オセアニア研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○オセアニア研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○カナダ研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○カナダ研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 計 | 4 | 中学校22単位以上必修<br>高等学校22単位以上必修 | | | 20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上を余分に修得すること。 |
| 所定最低単位数 | 20 | | | | |

⑶　教科又は教職に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数 | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位数 | 履修に適した年次 | 備考 |
| 中8<br>高16 | 教科に関する科目 | 備考を参照 | | 20単位を超えて取得した単位 |
| | 介護等体験実習※ | 1 | 2～4 | 中学校1種免許状希望者は必修<br>3年次に履修することが望ましい |
| | 特別支援教育 | 1 | 2～3 | |
| | 道徳教育の指導法 | 2 | 2～3 | 高校1種免許状のみ取得希望者が履修した場合 |
| 計 | 中学校17単位／高等学校16単位以上必修 | | | |

※　p.116　C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修年次 | 備考 |
| 日本国憲法 | 2 | ○憲法Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目2単位以上必修 |
| | | ○憲法Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 体育 | 2 | □体育・スポーツ | 1 | 1～4 | 2種目2単位必修 |
| | | □体育・スポーツⅡ | 1 | 1～4 | |
| 外国語コミュニケーション | 2 | ◎Freshman English Ⅰ (ML) | 2 | 1 | ◎印8単位必修 |
| | | ◎Freshman English Ⅱ (ML) | 2 | 1 | |
| | | ◎アカデミック英語Ⅰ | 2 | 1 | |
| | | ◎アカデミック英語Ⅱ | 2 | 1 | |
| 情報機器の操作 | 2 | □情報基礎Ⅰ | 1 | 1～4 | 2科目2単位必修 |
| | | □情報基礎Ⅱ | 1 | 1～4 | |

◎印は卒業必修科目
□印は教職必修科目
○・●印は教職選択必修科目

＜イベロアメリカ言語学科　スペイン語専攻＞

⑵　教科に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本　学　基　準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分　野 | 最低修得単位数 | 科　目　名 | 単位数 | 履修年次 | 備　考 |
| スペイン語学 | 1 | ○スペイン語音声学Ⅰ | 2 | 2～4 | ○印2科目を含む4単位以上必修 |
| | | ○スペイン語音声学Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | ○スペイン語学概論Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | ○スペイン語学概論Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 日西語対照研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 日西語対照研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | アメリカスペイン語特殊研究Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | アメリカスペイン語特殊研究Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| | | スペイン語史Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | スペイン語史Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 商業スペイン語Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 商業スペイン語Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | スペイン語翻訳法Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | スペイン語翻訳法Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| | | スペイン語研究Ⅰ | 4 | 3～4 | |
| スペイン文学 | 1 | ○スペイン文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目を含む2単位以上必修 |
| | | ○スペイン文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 現代スペイン文学Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 現代スペイン文学Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | ○現代ラテンアメリカ文学Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | ○現代ラテンアメリカ文学Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅰ | 2 | 3～4 | |
| | | ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅱ | 2 | 3～4 | |
| | | スペイン語研究Ⅱ | 4 | 3～4 | |
| スペイン語コミュニケーション | 1 | ◎スペイン語基礎Ⅱ(a) | 6 | 2 | |
| | | ◎スペイン語基礎Ⅱ(b) | 6 | 2 | |
| | | スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅠ | 2 | 3～4 | |
| | | スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅡ | 2 | 3～4 | |
| | | スペイン語研究Ⅲ | 4 | 3～4 | |
| 異文化理解 | 1 | ○スペイン文化研究Ⅰ | 2 | 2～4 | ○印1科目を含む2単位以上必修 |
| | | ○スペイン文化研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | スペイン美術史Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | スペイン美術史Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | イベリア史概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | イベリア史概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | スペイン現代史Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | スペイン現代史Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | スペイン経済論Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | スペイン経済論Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | ラテンアメリカ史概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ラテンアメリカ史概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ラテンアメリカ政治論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ラテンアメリカ政治論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ラテンアメリカ現代史Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | ラテンアメリカ現代史Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | ラテンアメリカ経済論Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | ラテンアメリカ経済論Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | ラテンアメリカ研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | ラテンアメリカ研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | メキシコ特殊研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | メキシコ特殊研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | イベロアメリカの法と文化 | 2 | 1～4 | |
| | | スペイン語研究Ⅳ | 4 | 3～4 | |
| | | スペイン語研究Ⅴ | 4 | 3～4 | |
| 計 | 4 | 中学校20単位以上必修<br>高等学校20単位以上必修 | | 20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上余分に修得すること。 | |
| 所定最低単位数 | 20 | | | | |

⑶　教科又は教職に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数 | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位数 | 履修に適した年次 | 備考 |
| 中８<br>高16 | 教科に関する科目 | 備考を参照 | | 20単位を超えて取得した単位 |
| | 介護等体験実習※ | 1 | ２～４ | 中学校１種免許状希望者は必修<br>３年次に履修することが望ましい |
| | 特別支援教育 | 1 | ２～３ | |
| | 道徳教育の指導法 | 2 | ２～３ | 高校１種免許状のみ取得希望者が履修した場合 |
| 計 | 高等学校16単位以上必修 | | | |

※　p.116　Ｃ－２.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修年次 | 備考 |
| 日本国憲法 | 2 | ○憲法Ⅰ | 2 | １～４ | ○印１科目２単位以上必修 |
| | | ○憲法Ⅱ | 2 | １～４ | |
| 体育 | 2 | □体育・スポーツ | 1 | １～４ | ２種目２単位必修 |
| | | □体育・スポーツⅡ | 1 | １～４ | |
| 外国語コミュニケーション | 2 | ◎スペイン語基礎Ⅰ(a) | 6 | 1 | ◎印12単位必修 |
| | | ◎スペイン語基礎Ⅰ(b) | 6 | 1 | |
| 情報機器の操作 | 2 | □情報基礎Ⅰ | 1 | １～４ | ２科目２単位必修 |
| | | □情報基礎Ⅱ | 1 | １～４ | |

◎印は卒業必修科目
□印は教職必修科目
○印は教職選択必修科目

〈英語「副免」〉〈イベロアメリカ言語学科　スペイン語専攻〉

⑵　教科に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本　学　基　準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分　野 | 最低修得単位数 | 科　目　名 | 単位数 | 履修年次 | 備　考 |
| 英　語　学 | 1 | ○英語学概論 | 4 | 1～4 | ○印２科目を含む８単位以上必修 |
| | | 英語音韻論 | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語統語論Ⅰ | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語統語論Ⅱ | 4 | 2～4 | |
| | | ○現代英文法 | 4 | 1～4 | |
| 英　米　文　学 | 1 | ○英文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印１科目及び●印１科目を含む４単位以上必修 |
| | | ○英文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●Survey of American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●Themes in American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | 英文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 英文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| 英語コミュニケーション※ | 1 | 〈英語科目〉 | | | ◎印を含む８単位以上必修 |
| | | ◎Freshman English (a) (CSK) | 2 | 1 | |
| | | ◎Freshman English (b) (CSK) | 2 | 1 | |
| | | ◎総合英語Ⅰ(a) | 1 | 1 | |
| | | ◎総合英語Ⅰ(b) | 1 | 1 | |
| | | ◎Sophomore English (a) (CSK) | 2 | 2 | |
| | | ◎Sophomore English (b) (CSK) | 2 | 2 | |
| | | ◎総合英語Ⅱ(a) | 1 | 2 | |
| | | ◎総合英語Ⅱ(b) | 1 | 2 | |
| | | ◎English for Multicultural Communication | 4 | 3～4 | |
| | | Language Lab (ML) | 1 | 1～4 | |
| | | ビジネス英語Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ビジネス英語Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 異　文　化　理　解 | 1 | ○英国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印１科目を含む２単位以上必修 |
| | | ○英国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○オセアニア研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○オセアニア研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○カナダ研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○カナダ研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 計 | 4 | 中学校22単位以上必修<br>高等学校22単位以上必修 | ※20単位以上修得した余剰分の単位数を⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上余分に修得すること。 | | |
| 所定最低単位数 | 20 | | | | |

◎印は卒業必修科目
○、●印は教職選択必修科目
※これらの科目をもってイベロアメリカ言語学科の英語コミュニケーションの科目を履修したものとみなす。

⑶　教科又は教職に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数 | 本　学　基　準 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 科　目　名 | 単位数 | 履修に適した年次 | 備　考 |
| 中８<br>高16 | 教科に関する科目 | 16 | | 20単位を超えて取得した単位 |
| | 介護等体験実習※ | 1 | 2～4 | 中学校１種免許状希望者は必修<br>３年次に履修することが望ましい |
| | 特別支援教育 | 1 | 2～3 | |
| | 道徳教育の指導法 | 2 | 2～3 | 高校１種免許状のみ取得希望者が履修した場合 |
| 計 | 中学校17単位／高等学校16単位以上必修 | | | |

※　p.116　C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

⑷　教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

P. 111の⑷の表と同じ。

＜イベロアメリカ言語学科　ブラジル・ポルトガル語専攻＞

(2)　教科に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修年次 | 備考 |
| 英語学 | 1 | ○英語学概論 | 4 | 1～4 | ○印2科目を含む8単位以上必修 |
| | | 英語音韻論 | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語統語論Ⅰ | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語統語論Ⅱ | 4 | 2～4 | |
| | | ○現代英文法 | 4 | 1～4 | |
| 英米文学 | 1 | ○英文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目及び●印1科目を含む4単位以上必修 |
| | | ○英文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●Survey of American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●Themes in American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | 英文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 英文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| 英語コミュニケーション | 1 | ＜英語科目＞ | | | ◎印を含む8単位以上必修 |
| | | ◎Sophomore English Ⅰ (ML) | 2 | 2 | |
| | | ◎Sophomore English Ⅱ (ML) | 2 | 2 | |
| | | ◎Media English Ⅰ (ML) | 2 | 2 | |
| | | ◎Media English Ⅱ (ML) | 2 | 2 | |
| | | ◎English for Multicultural Communication | 4 | 3～4 | |
| | | Language Lab(ML) | 1 | 1～4 | |
| | | ビジネス英語Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ビジネス英語Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 異文化理解 | 1 | ○英国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目を含む2単位以上必修 |
| | | ○英国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○オセアニア研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○オセアニア研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○カナダ研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○カナダ研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 計 | 4 | 中学校22単位以上必修<br>高等学校22単位以上必修 | | | 20単位以上修得した余剰分の単位数を、(3)「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上余分に修得すること。 |
| 所定最低単位数 | 20 | | | | |

(3)　教科又は教職に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数 | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位数 | 履修に適した年次 | 備考 |
| 中8<br>高16 | 教科に関する科目 | 備考を参照 | | 20単位を超えて取得した単位 |
| | 介護等体験実習※ | 1 | 2～4 | 中学校1種免許状希望者は必修<br>3年次に履修することが望ましい |
| | 特別支援教育 | 1 | 2～3 | |
| | 道徳教育の指導法 | 2 | 2～3 | 高校1種免許状のみ取得希望者が履修した場合 |
| 計 | 中学校17単位／高等学校16単位以上必修 | | | |

※　p.116　C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

(4)　教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修年次 | 備考 |
| 日本国憲法 | 2 | ○憲法Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目2単位以上必修 |
| | | ○憲法Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 体育 | 2 | □体育・スポーツ | 1 | 1～4 | 2種目2単位必修 |
| | | □体育・スポーツⅡ | 1 | 1～4 | |
| 外国語コミュニケーション | 2 | ◎Freshman English Ⅰ (ML) | 2 | 1 | ◎印8単位必修 |
| | | ◎Freshman English Ⅱ (ML) | 2 | 1 | |
| | | ◎アカデミック英語Ⅰ | 2 | 1 | |
| | | ◎アカデミック英語Ⅱ | 2 | 1 | |
| 情報機器の操作 | 2 | □情報基礎Ⅰ | 1 | 1～4 | 2科目2単位必修 |
| | | □情報基礎Ⅱ | 1 | 1～4 | |

◎印は卒業必修科目　　□印は教職必修科目　　○・●印は教職選択必修科目

＜国際コミュニケーション学科　国際コミュニケーション専攻＞

⑵　教科に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本　学　基　準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分　野 | 最低修得単位数 | 科　目　名 | 単位数 | 履修年次 | 備　考 |
| 英語学 | 1 | ○英語学概論 | 4 | 1～4 | ○印２科目を含む８単位以上必修 |
| | | ○英語音声学 | 4 | 1～4 | |
| | | ○Outline of English Phonetics | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語統語論Ⅰ | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語統語論Ⅱ | 4 | 2～4 | |
| | | ○現代英文法 | 4 | 1～4 | |
| | | ○英語習得法 | 4 | 1～4 | |
| | | ○Ways of Learning English | 4 | 1～4 | |
| | | 英語談話分析 | 4 | 2～4 | |
| | | Introduction to Discourse Analysis | 4 | 2～4 | |
| | | 英語史 | 4 | 2～4 | |
| | | 古期中期英語 | 4 | 2～4 | |
| 英米文学 | 1 | ○英文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印１科目及び●印１科目を含む４単位以上必修 |
| | | ○英文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学史Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学史Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●Survey of American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○英文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学講義Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ●米文学講義Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ●Themes in American Literature | 2 | 1～4 | |
| | | 英文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 英文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅰ | 2 | 2～4 | |
| | | 米文学研究Ⅱ | 2 | 2～4 | |
| 英語コミュニケーション | 1 | 〈英語科目〉 | | | ◎印を含む８単位以上必修 |
| | | ◎English for International Communication Ⅱ(a) | 2 | 2 | |
| | | ◎English for International Communication Ⅱ(b) | 2 | 2 | |
| | | ◎Media English Ⅰ | 2 | 2 | |
| | | ◎Media English Ⅱ | 2 | 2 | |
| | | ◎Advanced Reading Ⅰ | 2 | 2 | |
| | | ◎Advanced Reading Ⅱ | 2 | 2 | |
| | | ◎English for International Communication Ⅲ | 12 | 3～4 | |
| | | ※時事英語Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ※時事英語Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ※ビジネス英語Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ※ビジネス英語Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 異文化理解 | 1 | ○英国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印１科目を含む２単位以上必修 |
| | | ○英国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米国研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○米国研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○オセアニア研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○オセアニア研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | ○カナダ研究入門Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | ○カナダ研究入門Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 英国史概論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 英国史概論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 英米法Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 英米法Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国経済論Ⅰ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国経済論Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| | | 米国文化実地研究 | 4 | 1～4 | |
| 計 | 4 | 中学校22単位以上必修<br>高等学校22単位以上必修 | ※20単位以上修得した余剰分の単位数を、⑶「教科又は教職に関する科目」として充てるために、必ず20単位を超えて16単位以上を余分に修得すること。 | | |
| 所定最低単位数 | 20 | | | | |

(3) 教科又は教職に関する科目

| 教育職員免許法施行規則所定最低修得単位数 | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 科目名 | 単位数 | 履修に適した年次 | 備考 |
| 中8<br>高16 | 教科に関する科目 | 備考を参照 | | 20単位を超えて取得した単位 |
| | 介護等体験実習※ | 1 | 2～4 | 中学校1種免許状希望者は必修<br>3年次に履修することが望ましい |
| | 特別支援教育 | 1 | 2～3 | |
| | 道徳教育の指導法 | 2 | 2～3 | 高校1種免許状のみ取得希望者が履修した場合 |
| 計 | 中学校17単位／高等学校16単位以上必修 | | | |

※ p.116 C－2.「介護等体験実習について」も参照すること。

(4) 教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目

| 教育職員免許法施行規則所定 | | 本学基準 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 分野 | 最低修得単位数 | 科目名 | 単位数 | 履修年次 | 備考 |
| 日本国憲法 | 2 | ○憲法Ⅰ | 2 | 1～4 | ○印1科目2単位以上必修 |
| | | ○憲法Ⅱ | 2 | 1～4 | |
| 体育 | 2 | □体育・スポーツ | 1 | 1～4 | 2種目2単位必修 |
| | | □体育・スポーツⅡ | 1 | 1～4 | |
| 外国語コミュニケーション | 2 | 〈英語科目〉 | | | |
| | | ◎English for International Communication Ⅰ (a) | 4 | 1 | |
| | | ◎English for International Communication Ⅰ (b) | 4 | 1 | ◎印16単位必修 |
| | | ◎Reading / Writing Ⅰ | 4 | 1 | |
| | | ◎Reading / Writing Ⅱ | 4 | 1 | |
| 情報機器の操作 | 2 | □情報基礎Ⅰ | 1 | 1～4 | 2科目2単位必修 |
| | | □情報基礎Ⅱ | 1 | 1～4 | |

◎印は卒業必修科目
※印は卒業選択必修科目
□印は教職必修科目
○・●印は教職選択必修科目

# C　教職課程履修の流れ

下記のスケジュールに基づいて、ガイダンスに出席し、諸々の手続きを行って下さい。

○ガイダンス　　★授業　　□提出物　　▼手続き

| | 1　　年 | 2　　年 | 3　　年 | 4　　年 |
|---|---|---|---|---|
| 4月 | ○ガイダンス | ○ガイダンス | ○ガイダンス | ○ガイダンス |
| | | | ▼介護等体験申し込み | |
| | | ▼教職課程のWebでの資格登録 | ▼教職課程のWebでの資格登録の確認 | ▼教職課程のWebでの資格登録の確認 |
| | | | ▼教職課程履修費納入 | ○教員採用試験ガイダンス |
| | | | □実習予定校調査 | |
| 5月 | ○教職ポートフォリオガイダンス | ○教職ポートフォリオガイダンス | 教育実習校への依頼状提出 | ★教育実践実習Ⅰ・Ⅱ |
| | 教職ポートフォリオ受取 | | | |
| | | | ○介護等体験事前指導 | |
| 6月 | | | ★介護等体験 | |
| | | | | |
| 7月 | | | | 教員採用試験（1次） |
| 8月 | | | | ○2次試験対策講座 |
| | | | | 教員採用試験（2次） |
| | | | ▼教育事前事後実習の登録 | |
| 9月 | | | ★教育事前事後実習（後期） | ★教職実践演習（中・高） |
| | | | | |
| 10月 | | | 教職ポートフォリオ面談 | |
| 11月 | | □教職ポートフォリオ提出 | | ○免許状一括申請説明会 |
| 12月 | | | 対策講座 | ▼手続書類記入・確認申し込み費用支払 |
| 1月 | | ○実習校開拓のガイダンス | | □戸籍抄本の提出 |
| | | ○介護等体験事前ガイダンス | □教育実践実習日誌の提出 | |
| | | | □介護等体験実習日誌の提出 | |
| 3月 | | | | 卒業式（免許状の授与） |

※教職関係の「呼び出し」「連絡」はCampus Web及び掲示板に掲示するのでよく注意して下さい。

## 1．教職課程履修の費用

教職課程履修希望者は、「教職課程履修費」25,000円を3年次4月に納入します。（介護等体験実習を2年次に行う学生は2年次に納入します。）

## 2．介護等体験実習について

1）介護等体験の目的

教職を志す学生に「障害者、高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験」を義務づけ、ここでの体験を、将来の教育活動に生かすことを願って行われるものです。原則として3年次で行いますが、小学校教諭免許取得支援課程を履修する場合には、2年次が望まれます。

2）事前ガイダンスの実施

介護等体験実習の履修を希望する者は、履修の前年度（2年次又は1年次）の1月に行われる「介護等体験実習事前ガイダンス」に必ず出席してください。

3）介護等体験実習の流れ

※詳細はガイダンス及び事前指導で指示するので、必ず全てに出席すること。

0．（前年度）1月：事前ガイダンスに出席

↓

1．4月初旬：介護等体験実習ガイダンスに出席、申込書類を教務課に提出

↓

2．前期履修登録期間：「介護等体験実習」を履修登録

↓

3．５月２週目土曜日午後：介護等体験実習事前指導１回目に出席（特別支援学校・社会福祉施設の先生方の講話）

↓

4．５月中～下旬：受入施設と日程決定（教務課で日程表を配布）

↓

5．５月下旬　平日昼休み：介護等体験実習事前指導２回目に出席（社会福祉施設での実習のオリエンテーション）

↓

6．５月下旬～12月下旬頃：個別に定められた日程で実習に参加

↓

7．11月下旬：介護等体験実習日誌・報告書と福祉施設実習修了証明書の提出

↓　　（12月に実習を行う場合は実習終了後に提出する）

8．後期成績発表

## 3．教育実習（教育実践実習Ⅰ・Ⅱ）について

1）教育実習の目的

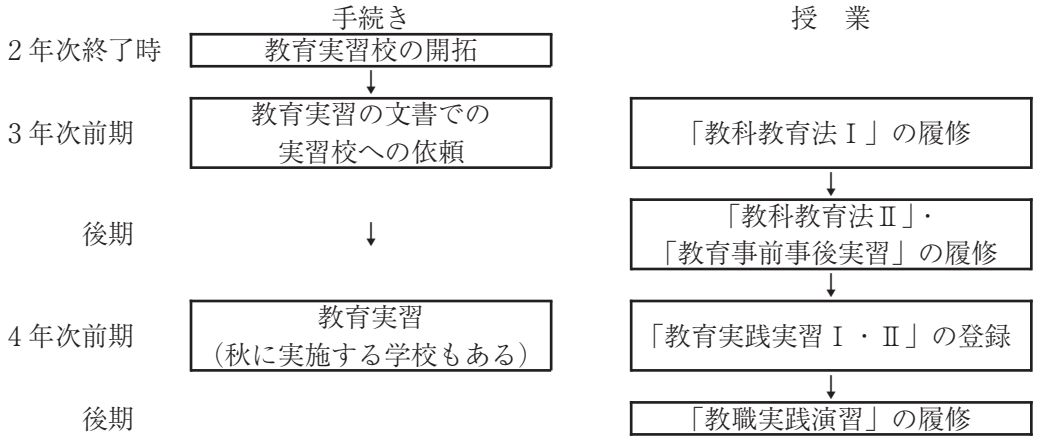
教育実習は、教育職員免許法施行規則に基づき、中学校・高等学校の現実の教育の場において、大学で学んだ理論や知識を基に、実習を通して教育の実践的な知識・技能・態度等の基礎を修得し、教員としての自覚を高めることを目的とします。

2）教育実習の履修条件

| | |
|---|---|
| 1 | 教育実習を行う年度中に卒業できる見込みのある者。※ |
| 2 | 教職に関する科目のうち、原則として「教育原理」「教育心理学」、及び「道徳教育の指導法」（中学校免許希望者）を修得している者。 |
| 3 | 「教科教育法Ⅰ」「教科教育法Ⅱ」を前年度までに修得している者。 |
| 4 | 「教育事前事後実習」を教育実習を行う前年度に修得している者。 |
| 5 | 「教育実践実習Ⅰ」、及び「教育実践実習Ⅱ」（中学校免許希望者）の履修登録をしている者。 |
| 6 | 英語で実習する場合、教育実習を行う学年（４年）までに、A基準（TOEIC730点，TOEFL550点，IELTS6.0，英検準１級１次合格）のスコアを取得している者。 |

※本学卒業後に、科目等履修生として教育実習などの不足単位を修得して、教員免許状を取得することも可能です。

3）教育実習の手続きの流れ



# XV　小学校教諭免許取得支援課程履修要項

## 1．課程の趣旨

卒業年度の春に、３枚の教員免許状〈小学校教諭二種免許状、中学校教諭一種免許状（英語)、高等学校教諭一種免許状（英語)〉を取得することで、小学校の教諭として仕事ができるようにするものです。(小学校教諭用に取得する免許は二種ですが、中学校一種を取得しているため、小学校一種免許を取得して教諭になる先生との待遇に差はありません)

## 2．課程の概要

この課程では、本学の教職課程を履修するとともに、千葉経済大学短期大学部の科目等履修生として学ぶことによって、小学校教諭二種免許取得に必要な単位を修得することを支援するものです。小学校は全教科を担任が指導するケースが多いので、国語科指導法、音楽科指導法、体育科指導法など教科指導法の単位が多いのが特徴です。

平成31年度より改正教育職員免許法及び同施行規則が施行されるため、必要な科目・単位数が変更となります。詳細は未定ですが、概ね31～40単位の履修が必要となる見込です。

## 3．出願の条件

英米語学科・国際コミュニケーション学科国際コミュニケーション専攻の学生は時間割を組めれば２年間でこの課程を修了することが可能です。ただし、その他の学科・専攻の場合は、３年次に本学での必修科目がありますので、２年間でこの課程を修了することはできません。

１）神田外語大学在籍の２年次生で３年次から課程を受講できる在学生
２）中学校（英語）教諭の教職課程を履修していて、将来教員採用試験の受験を予定していること。
３）３年次から週に２～３回千葉経済大学短期大学部に通学できること
４）留学制度留学及び休学を行わないこと
５）出願時までにB 基準（TOEIC L&R650点、TOEFL520点など）の英語力を証明するスコアを提出できること

## 4．課程に関わる費用

下記の金額は、２年間で課程に必要な単位を修得できた場合の金額であり、平成30年度の千葉経済大学短期大学部の要項に基づいて算出した金額です。平成31年度以降は必要単位数の変更により金額も変更となります。また、個々人の履修状況や千葉経済大学短期大学部の学則改定等によっても金額が変動しますのでご了承下さい。納入は年度毎に行うことになります。

| 項　目 | 金　額 | 備　　考 |
|---|---|---|
| 登　録　料 | 20,000円 | 年度を続けて履修する場合は免除 |
| 履　修　費 | １単位　10,000円 | 一部の科目については教材費が必要な場合があります。また、電算科目においては別に実習費20,000円がかかります。 |
| 教育実習費 | 40,000円 | |
| 合　　計 | 370,000円 | 平成30年度までの最低費用額（31単位履修） |

教科書代ほかは、履修する科目により異なります。教科書は指定された販売日に購入して下さい。

# XVI　日本語教員養成課程履修要項

## はじめに　日本語教員養成課程を履修する皆さんへ

日本語を母語としない学習者を対象とする日本語教育のための教員には、専門的な知識能力が求められる。本学の「日本語教員養成課程」では、日本語教員に求められる専門的な領域（社会・文化・地域、教育、言語）から５区分⑴社会・文化・地域、⑵言語と社会、⑶言語と心理、⑷言語と教育、⑸言語をあげ、それぞれに必要な知識を体系的に得ていくように計画されている。特に、日本語を一つの外国語として見る能力を養い、教員としての実践的な教育能力を習得することを目的としている。履修する学生は、単に必要な単位を修得するというのではなく、自らが問題意識を持って授業に臨み、「教える」ために必要とされる全ての課題に積極的に取り組む姿勢が求められる。履修条件に従い、所定の単位を修得することで卒業時に修了証書が授与されるが、４年間で全課程を修了するためには、入学時より計画的に各科目を履修することが必要である。

32単位（必修20単位／選択12単位）

| 分　野 | 科　目　名 | 履修年次 | 単位数 | | 備　考 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 必　修 | 選択必修 | | |
| 社会･文化･地域 | 文化について考える | １～４ | | 2 | | 2 |
| | 日本近代史 | １～４ | | 2 | | |
| | 日本現代史 | １～４ | | 2 | | |
| | 日本文化論Ⅰ | １～４ | | 2 | | |
| | 日本文化論Ⅱ | １～４ | | 2 | | |
| | 文化心理学Ⅰ | ２～４ | | 2 | | |
| | 文化心理学Ⅱ | ２～４ | | 2 | | |
| | 国際社会が見えてくる | １～４ | | 2 | | |
| | 国際関係論Ⅰ | １～４ | | 2 | | |
| | 国際関係論Ⅱ | １～４ | | 2 | | |
| 言語と社会 | 社会言語学Ⅰ | ２～４ | | 4 | | 2 |
| | 社会言語学Ⅱ | ２～４ | | 4 | | |
| | コミュニケーション論Ⅰ | １～４ | | 2 | | |
| | コミュニケーション論Ⅱ | １～４ | | 2 | | |
| | 異文化コミュニケーション論Ⅰ | ２～４ | | 2 | | |
| | 異文化コミュニケーション論Ⅱ | ２～４ | | 2 | | |
| | 日本語プレゼンテーション | １～４ | | 4 | | |
| | 対人コミュニケーション論 | １～４ | | 2 | | |
| | レトリカル･コミュニケーション論 | １～４ | | 2 | | |
| 言語と心理 | 心理学Ⅰ | １～４ | | 2 | | 4 |
| | 心理学Ⅱ | １～４ | | 2 | | |
| | 第二言語習得研究 | ２～４ | | 4 | | |
| | 英語談話分析 | ２～４ | | 4 | | |
| | 英語習得法 | １～４ | | 4 | | |
| | Ways of Learning English | １～４ | | 4 | | |
| | 心理言語学 | ２～４ | | 4 | | |
| | 応用言語学 | ２～４ | | 4 | | |
| 言語と教育 | 日本語教育概論 | ２～４ | 2 | | | 8（必修）<br>2（選択） |
| | 日本語教授法 | ２～４ | 4 | | | |
| | 日本語教育実習 | ３～４ | 2 | | （注１） | |
| | 教師論 | １～４ | | 2 | | |
| | 教育心理学 | ２～３ | | 2 | | |
| | 教育方法の理論と実践 | ２～４ | | 2 | | |
| | 情報基礎Ⅰ | １～４ | | 1 | | |
| | 情報基礎Ⅱ | １～４ | | 1 | | |

| 分　野 | 科　目　名 | 履修年次 | 単位数 | | 備　考 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 必　修 | 選択必修 | | |
| 言語 | 日本語学概論 | 1～2 | 4 | | | 12（必修）<br>2（選択） |
| | 日本語学Ⅰ | 1～4 | 4 | | | |
| | 日本語学Ⅱ | 1～4 | 4 | | | |
| | 言語学Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| | 言語学Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| | 日英語対照研究 | 2～4 | | 4 | | |
| | 日中比較言語Ⅰ | 3～4 | | 2 | | |
| | 日中比較言語Ⅱ | 3～4 | | 2 | | |
| | 日西語対照研究Ⅰ | 2～4 | | 2 | | |
| | 日西語対照研究Ⅱ | 2～4 | | 2 | | |
| | 日韓対照言語研究Ⅰ | 2～4 | | 2 | | |
| | 日韓対照言語研究Ⅱ | 2～4 | | 2 | | |
| | 日本語表現法Ⅰ | 1～4 | | 2 | | |
| | 日本語表現法Ⅱ | 1～4 | | 2 | | |
| | 意味・語用論 | 2～4 | | 4 | | |

（注１）４単位まで履修可

「日本語教員養成課程」必修科目と履修条件

| 科　目　名 | 履修に適した年次 | 単位 | 履　修　条　件 |
|---|---|---|---|
| 日本語学概論<br>（前期／後期） | 1～2年次 | 4 | |
| 日本語学Ⅰ<br>（前期／後期） | 1～2年次 | 4 | |
| 日本語学Ⅱ<br>（前期／後期） | 1～2年次 | 4 | |
| 日本語教育概論<br>（前期／後期） | 2～3年次 | 2 | 「日本語学概論」「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」の3科目が修得済みであること。 |
| 日本語教授法<br>（前期／後期） | 2～4年次<br>（4年次では前期） | 4 | 「日本語教育概論」が修得済みであり、かつ全体のGPAが2.7以上であること。 |
| 日本語教育実習<br>（前期／後期） | 3～4年次 | 2 | 「日本語教授法」が修得済みであり、かつ全体のGPAが2.7以上であること。かつ留学生は、「日本語能力試験（JLPT）N1」に合格していること。 |

「日本語教員養成課程」を修了するには、下記の履修モデルに示した通り原則として４年間必要とする。

履修モデル

1～2年　「日本語学概論」
↓
1～2年　「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」
↓
2～4年　「日本語教育概論」「日本語教授法」
↓
3～4年　「日本語教育実習」

【課程の登録について】

2年次の前期に履修登録Web画面の「資格申請」ボタンから登録する。

【日本語教育実習について】

・在学中（3年次）に留学を予定している学生は、1年次に「日本語学概論」及び「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」、2年生から4年生の前期終了時までに「日本語教育概論」、「日本語教授法」を履修済みでなければ、留学後（4年次）に「日本語教育実習」を履修登録することができない。
・3年次編入生は、入学年度に「日本語学概論」「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」「日本語教育概論」「日本語教授法」の同時履修を認める。全ての履修条件を充たせば、4年次に「日本語教育実習」の履修登録ができる。
・2年次編入生は、「日本語教育概論」、「日本語教授法」と「日本語学概論」ないし「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」との同時履修は認めない。2年次に「日本語学概論」及び「日本語学Ⅰ」「日本語学Ⅱ」、3年次に「日本語教育概論」、「日本語教授法」を履修して、一定の条件を充たせば4年次に「日本語教育実習」を履修できるからである。
・実習を履修するためには仮登録をする必要がある。仮登録は履修を希望する年度の前年度1月中に説明会を行い、実施する。
　説明会の期日については12月中の学内掲示及びKUIS Campus Webを確認のこと。
　例：2019年度に実習の履修を希望する場合、仮登録は2018年度に行う。
・履修人数が多い場合、4年生を優先する。
・実習は実費がかかる。

【選択科目について】

・それぞれの学科の指定に従い、4年次終了までに履修修得すること。
・履修条件等については「Ⅶ 授業科目について」も参照のこと。

# Ⅻ　児童英語教員養成課程履修要項

## 1．課程の趣旨

国が定めた資格や免許は、今のところありません。ですから、本学の児童英語教員養成課程を修了することで、児童英語の先生になれるというのでもなければ、修了しないから先生になれないというわけではありません。ただ、将来、児童英語の教員を目指すのであれば、しっかりした児童英語教育に対する知識をもっていることをアピールできます。

## 2．課程の修了要件

1．本課程を履修し所定の単位を修得し、本過程の定める修了要件を満たせば、卒業と同時に「児童英語教員養成課程」修了証が授与されます。

2．本課程を修了するのに必要な要件と科目およびその単位数は以下の通りです。

修了要件１：Ａ基準（ただし、英検に関しては準１級以上を取得していること）（卒業後１年以内に該当スコア提出をすれば要件を満たすことができる）
修了要件２：下記科目の中から必修24単位、選択必修２単位、合計26単位以上を履修すること

| 科　目　名 | 履修年次 | 単位数 | | 履　修　条　件 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 必　修 | 選択必修 | | |
| 児童英語教育論 | １～４ | 4 | | | 合計26単位 |
| 認知発達と英語教育 | １～４ | 4 | | | |
| 英語学概論 | １～４ | 4 | | | |
| 英語音声学 | １～４ | 4 | | 同一科目とみなすため、どちらか一方のみ履修可能「Outline of English Phonetics」はＣ基準 | |
| Outline of English Phonetics | １～４ | | | | |
| 児童英語指導法 | ２～４ | 4 | | 「児童英語教育論」、「認知発達と英語教育」を修得済みであり、かつＣ基準または英検２級以上 | |
| 児童英語教育カリキュラムデザイン | ２～４ | 4 | | | |
| 児童英語海外実習 ※１ | ２～４ | | 2 | 「児童英語教育論」、「認知発達と英語教育」を修得済みであること | |
| 児童英語教育実習（沖縄） ※１ | ２～４ | | 2 | 「児童英語教育論」、「認知発達と英語教育」を修得済みであり、かつTOEFL®ITP500点程度、TOEFL®iBT60点程度の英語力 | |
| 児童英語教育実習（船橋） ※１，※２ | ３～４ | | 2 | 「児童英語指導法」、「児童英語教育カリキュラムデザイン」を修得済みであること | |

※１　他の実習科目との重複履修可能
※２　千葉経済大学短期大学部で科目等履修生として小学校課程用の「教育実習」を修得した場合、実習科目として振替を行うことが可能

履修年次と履修条件をよく確認し、計画的に履修してください。（「児童英語指導法」「児童英語教育カリキュラムデザイン」は、遅くとも４年次前期までに修得していないと、「児童英語教育実習（船橋）」は履修できません。）特に留学を考えている場合は、履修条件が決まっている科目を順番にとれるように留学を計画する必要があります。

# XⅧ　英米語学科通訳・翻訳課程履修要項

1．本課程を履修し所定の単位を修得し、本課程の定める修了要件を満たせば、卒業と同時に「神田外語大学通訳・翻訳課程」修了証が授与されます。

2．本課程を修了するのに必要な要件と科目およびその単位数は以下の通りです。

修了要件１：以下に示す必修科目、選択科目の合計36単位をすべて修得すること。

修了要件２：TOEFL600点以上、TOEFL iBT100点以上、TOEIC L&R900点以上、英検１級、IELTS7.0以上のいずれかを取得していること。

修了要件３：半年から１年の英語圏への学部留学（語学留学は不可。休学留学を含める。）

履修開始前に「通訳・翻訳への招待」を受講していることが望ましい。

| 分野 | 科目名 | 履修年次 | 単位数 | | | 履修条件 | 必要単位数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 必修 | 選択必修 | | | |
| 通訳・翻訳関連科目 | 日英翻訳法Ⅰ | 1～4 | 4 | | | B基準 | 36単位 |
| | 日英翻訳法Ⅱ | 2～4 | 4 | | | B基準かつ(1)「時事英語Ⅱ」(2)「Media English(a)/(b)(英米)」のいずれか | |
| | 英日翻訳法Ⅰ | 1～4 | 4 | | | B基準 | |
| | 英日翻訳法Ⅱ | 2～4 | 4 | | | B基準かつ(1)「時事英語Ⅱ」(2)「Media English(a)/(b)(英米)」のいずれか | |
| | 英語通訳法Ⅰ | 1～4 | 4 | | | | |
| | 英語通訳法Ⅱ | 1～4 | 4 | | | C基準 | |
| | 英語通訳法Ⅲ | 2～4 | 4 | | | B基準 | |
| | 英語通訳法Ⅳ | 2～4 | 4 | | | A基準 | |
| | 通訳演習 (a)※ | 3～4 | | 2 | 「通訳演習(a),(b)」もしくは「翻訳演習(a),(b)」を選択し、4単位履修。 | 通訳・翻訳課程履修者のみ履修可 | |
| | 通訳演習 (b)※ | 3～4 | | 2 | | | |
| | 翻訳演習 (a) | 3～4 | | 2 | | | |
| | 翻訳演習 (b) | 3～4 | | 2 | | | |
| 合計 | | | 32 | 4 | | | |

※通訳演習(a)と(b)の履修順序は、(a)からでも(b)からでも構いません

# ⅩⅨ　Certificate Program in Japan Studies　履修要項

現代のグローバル社会における日本研究は従来のような「日本文化」の独自性を主張するものであってはならず、学際的かつ多角的な視野に立ち、日本文化の多様性について学ぶことが肝要です。日本を常に世界的コンテクストの中に位置づけ、たえまない外部との相互連動性を自覚する必要があります。そうすることによって深い文化観を育成し、世界の多くの人々と率直で真摯な対話ができる確かなコミュニケーション能力の獲得をめざします。

1．本プログラムを履修し所定の単位を修得し、本プログラムの定める修了要件を満たせば、卒業と同時に修了証が授与されます。

2．本プログラムを修了するには、以下に示す科目から20単位を修得してください。

| 研究コース | 科　　目　　名 | 履修年次 | 単位数 | 履修条件 |
|---|---|---|---|---|
| 総合文化研究 | The Literatures of Japan | 1～4 | 2 | C基準 |
| | Japanese Popular Cultures | 1～4 | 2 | |
| | Tourism and Local Cultures of Japan | 1～4 | 2 | |
| | Japanese Religions | 1～4 | 2 | |
| 言語研究 | The Languages of Japan Ⅰ | 1～4 | 2 | |
| | The Languages of Japan Ⅱ | 1～4 | 2 | |
| 地域・国際研究 | The History of Modern Japan | 1～4 | 2 | |
| | The History of Premodern Japan | 1～4 | 2 | |
| | International Relations: Japan in the Asian Context | 1～4 | 2 | |
| | Japanese Politics | 1～4 | 2 | |
| コミュニケーション研究 | Media and Japanese Society | 1～4 | 2 | |

＊上記の科目は本プログラムを履修しない学生も履修することができます。
＊全ての科目の授業は「英語」で行われます。

# XX　大学院言語科学研究科の概要

## 1．設置の目的

大学院言語科学研究科は、博士前期課程と博士後期課程とから成ります。博士前期課程には、英語学専攻（東京キャンパスのみで開講）と日本語学専攻を設置しています。日本語学専攻では、総合的、科学的な言語研究の基礎訓練を重視しつつ、一般言語理論に基づいて言語の普遍性の観点から、日本語を研究する能力を養うことを目標としています。同時に言語間の比較対照研究と社会言語学、方言学の実証的方法論を身につけ、比較文化、異文化コミュニケーションをも視野に入れることによって、言語教育その他への応用研究を実効あるものとするようカリキュラムが組まれています。

## 2．学内入学試験制度

博士前期課程（日本語学専攻）で、本学外国語学部において、優秀な成績をあげている学生に対して、提出された小論文と書類に対する審査及び口述試験のみで入学試験を行う制度があります。

## 3．英語学専攻の特色

現職英語教員及び社会人を対象とし、東京キャンパスで、TESOL プログラムを2013年 9 月開講しました。講義はすべて英語で行い、TESOL（英語教授法）を実践的に学べます。

## 4．日本語学専攻の特色

日本語学の理論的実証的研究を充実させ、研究の方法として現地調査法（フィールドワーク）と対照言語学の研究法を取り入れています。さらに日本語学研究の基礎として日本文化に関する幅広い理解と知識が得られるよう、関連の授業科目を用意して充実を図っています。また、日本語教育のプロを養成するカリキュラムも充実しています。

日本語学コース、日本語教育学コースの 2 コースがあります。

## 5．授業時間割

⑴　英語学専攻TESOLプログラム

土・日および長期休暇期間に集中で講義を行います。

⑵　日本語学専攻

月～土曜日、午前10時40分から午後 6 時の間に 4 コマの授業時間を設けています。

| | |
|---|---|
| 2 時限 | 10：40～12：10 |
| 3 時限 | 13：10～14：40 |
| 4 時限 | 14：50～16：20 |
| 5 時限 | 16：30～18：00 |

## 6．修了の要件

英語学専攻（TESOLプログラム）は必修、選択必修、選択科目の中から37単位以上を修得し、MA Research Projectに合格することが求められます。

日本語学専攻は各コースの定める科目から32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格することが求められます。なお、各コースの定める科目から40単位以上を修得したものについては、修士研究報告の審査をもって修士論文の審査に代えることもできます。

学部で英語以外の外国語を 4 単位以上取得していない場合、入学後単位を取得する必要があります。

## 7．学位

博士前期課程を修了した者には、本学の規定の定めるところにより、修士（文学）の学位を授与します。

## 8．修了証取得

大学院が定める授業科目を履修することによって、日本語教育教員養成プログラム修了証を取得できます。

## 9．募集人員

言語科学研究科博士前期課程

英語学専攻（TESOLプログラム）8 名

日本語学専攻（日本語学・日本語教育学）8 名

## 10. 博士後期課程

博士後期課程は、言語科学専攻として、総合的な言語研究を行い、それぞれの専門分野で研究者として自立していくために必要な、高度な研究能力を培います。

## 11. 授業科目

下記のサイトで開講科目について参照することができます。

http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/grad/language/tesol/　英語学専攻（TESOLプログラム）

http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/grad/language/japanese/　日本語学専攻

http://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/grad/language/expert/　言語科学専攻（博士後期）

2018(平成30)年度　学生便覧

2018年４月１日発行

編集・発行　神田外語大学　教務課

〒261-0014　千葉市美浜区若葉1-4-1
電話番号　043-273-1320

神田外語大学

千葉県千葉市美浜区若葉1-4-1

学籍番号

氏　　名